

[鶴舞キャンパス]
名古屋大学大学院医学系研究科・医学部医学科
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地
TEL(052)741-2111 FAX(052)744-2785
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_J/

名古屋大学医学部附属病院
〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地
TEL(052)741-2111 FAX(052)744-2785
<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

[大幸キャンパス]
名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科
〒461-8673 名古屋市東区大幸南1丁目1番20号
TEL(052)719-1504 FAX(052)719-1506
<https://www.met.nagoya-u.ac.jp/>

[Tsurumai Campus]
Nagoya University Graduate School of Medicine,
School of Medicine
65, Tsurumai-cho, Showa-ku, Nagoya 466-8550
TEL +81-52-741-2111 FAX +81-52-744-2785
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_E/

Nagoya University Hospital
65, Tsurumai-cho, Showa-ku, Nagoya 466-8560
TEL +81-52-741-2111 FAX +81-52-744-2785
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital_en/

[Daiko Campus]
Nagoya University Graduate School of Medicine,
School of Health Sciences
1-1-20, Daiko-minami, Higashi-ku, Nagoya
461-8673
TEL +81-52-719-1504 FAX +81-52-719-1506
<https://www.met.nagoya-u.ac.jp/ENGLISH/>

PROFILE M.

2022

名古屋大学 医学部・大学院医学系研究科

NAGOYA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE AND
SCHOOL OF MEDICINE

PROFILE M. 2022
名古屋大学 医学部・大学院医学系研究科



名古屋大学医学部の理念

Mission of the Nagoya University School of Medicine

1 人類の健康の増進に寄与する 先端的医学研究を進め、新たな医療技術を創成する。

To develop cutting-edge medical research that will contribute to an improvement in the health of mankind and to create new medical technology.

2 医の倫理を尊重し、人類の幸福に 貢献することを誇りとする医学研究者及び医療人を育成する。

To foster medical researchers and medical professionals who respect medical ethics, and take pride in contributing to the welfare of mankind.

3 医学研究、医療の両面にわたり 諸施設と共同して、地域社会の医療の質を高めるとともに、 我が国及び世界の医療水準の向上に資する。

To enhance the quality of local medical services in cooperation with local institutions, both in medical research and medical care, and to improve medical care standards in Japan and the world.

4 医学研究及び医療の中軸として 機能するために、人的・社会的資源を有効に活用し、 世界的に開かれたシステムを構築する。

To develop an open system to utilize sources of talented people which can serve as the hub for medical research and medical care.



医学部のシンボルマークについて
3羽の鶴をあしらったもので、
それぞれに愛(人間愛)・和(協調)・誠(誠実)を象徴しています。
これは、医の真髄、医学研鑽の心構えとして
医師が継承すべきものという意味が込められています。

Logo
A combination of three cranes, symbolizing love (humanity),
harmony (partnership), and honesty (good faith) respectively.
This symbol represents the essence of healing and diligent medical study
that physicians must embrace and hand down to the next generation.

PROFILE M.

2022

NAGOYA UNIVERSITY
Graduate School of Medicine and
School of Medicine

PROFILE M.の「M」には、
Medicine (医学)、私たちの担うMission (使命)、この
地域をさすMidland (中部) など、さまざまな私たちの
想いが込められています。

The “M” in “PROFILE M.” stands for diverse ideas
including “Medicine,” our “Mission,” and the
“Midland” region where our facilities are situated.

Contents

名古屋大学医学部の理念
Mission of the Nagoya University School of Medicine

02 ごあいさつ

06 Special Topics

06 臨床研究教育学

08 Greeting

12 Special Topics

12 Clinical Research Education: CRE

15 鶴舞キャンパス

Tsurumai Campus

16 大学院医学系研究科 博士課程
Graduate School of Medicine Doctoral Course (Medical Sciences)

25 大学院医学系研究科 修士課程
Graduate School of Medicine Master's Course

26 医学部 医学科
School of Medicine

27 附属施設等
University facilities etc.

31 大幸キャンパス

Daiko Campus

32 大学院医学系研究科
博士前期課程・博士後期課程
Graduate School of Medicine
Master's / Doctoral Courses (Health Sciences)

34 医学部 保健学科
School of Medicine School of Health Sciences

35 資料

Data

36 沿革
History

38 歴代医学部長
Past deans

39 役職員
Executives

40 機構図
Organization chart

41 事務部機構図
Organization chart of Administration Office

42 職員数
Number of staffs

42 学生定員及び現員
Number of students

44 大学院医学系研究科修了者数
Number of Graduate School of Medicine graduates

45 医学部卒業生数
Number of School of Medicine graduates

45 学位 (医学博士) 授与者数
Number of students granted doctorates (MDs)

46 外国人留学生・外国人研究者等
Number of foreign students / researchers and the like

47 国際交流協定による派遣学生数及び受入学生数
Number of students sent out /
accepted under international exchange agreements

47 医学部・医学系研究科からの国別海外留学生数
Number of students studying abroad by country / region

48 名古屋大学附属図書館医学部分館 (保健学図書を含む)
Nagoya University Medical Library (including Library of Health Sciences)

48 メディカルxRセンターの使用状況
Use survey of Nagoya University Medical xR Center

48 解剖体数
Number of necrotomies

49 産学官連携に関するデータ 知的財産 / 共同研究 / 受託研究
Data on government-industrial-academic collaboration:
intellectual property, collaborative / funded research

50 科学研究費補助金の状況
Summary of Grant-in-Aid for Scientific Research

51 ニュースリリース
News release

68 鶴舞公開講座
Extension courses at Tsurumai Campus

69 施設とアクセス

Facilities and Access

70 鶴舞キャンパス配置図
Site map in Tsurumai Campus

71 大学院医学研究科・医学部 建物各階案内図
Floor guide for Graduate School of Medicine / School of Medicine

72 大幸キャンパス配置図
Site map in Daiko Campus

73 アクセス
Access

教育・研究の改革を進め 地域に根ざした 世界屈指の研究大学へ



医学系研究科長・医学部長

木村 宏

名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了。
医学博士。同医学系研究科教授。
2022年より現職。
専門分野はウイルス学、小児科学。

異分野融合、産学連携を拡大し

次代を変える新たな医学・医療を発信する

名古屋大学は1871（明治4）年に設立された名古屋藩の仮病院・仮医学校をルーツとし、おかげさまで2021年創基150周年を迎えました。名古屋大学医学部・大学院医学系研究科は、設立当初からの歴史を継承しながら発展を続け、診療・研究の両面から地域に資する人材を輩出し続けています。現在は新しい医学・医療の開拓を目標に研究力を向上させ、国内はもとより世界でもそのプレゼンスを高めるべく、多様な活動に取り組んでいます。

研究力向上の出発点は教育にあります。学部教育では本年からカリキュラムを変更し、医学教育の内容を充実させるとともに、将来、基礎や臨床の研究者として活躍できる力を持った人材を育てようと教育改革を進めています。

大学院教育では「情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院（CIBoG）」、「メディカルAI人材養成産学協働拠点（AI-MAILs）」の2つのプログラムが動いています。CIBoGには本学の医学系研究科（総合保健学専攻を含む）、情報学研究科、生命農学研究科、創薬科学研究科、岐阜大学の連合農学研究科、自然科学技術研究科の学生が参加し異分野融合を進めながら、将来、情報科学と生命医科学が一体となった領域で中心的に活躍してくれる研究者の育成や研究の活性化を図っています。AI-MAILsでは、岐阜大学、名古屋工業大学、名城大学に加え多くの企業と協働で、医療AI開発から社会実装・出口戦略までを先導できる人材育成を進めています。

医学部において産学連携は重点課題の一つです。中でもトランス

レーショナル・リサーチを推進するために、附属病院の先端医療開発部では、シーズ開発からトランスレーショナル・リサーチ、最終的には創薬を目指して活動を進めてきました。その中で見えてきた課題は、臨床研究を推進する若手研究者、志望する学生が少ないという事態です。この人材不足を解消するために、昨年、医学系研究科に新たに臨床研究教育学講座を設置しました。そこでは座学だけでなく、実際のトランスレーショナル・リサーチの中で必要な知識やノウハウが獲得できるように支援し、将来の臨床研究を担う若手研究者や学生を育成しています。附属病院の機関と研究科の講座を基点に研究と教育を一体化させることで、次代の医療開拓に貢献するトランスレーショナル・リサーチを加速させたいと考えます。

海外の一流大学、世界クラスの研究者とともに

国際的な人材の育成、研究活動を推進

国際交流についてはコロナ禍で滞った部分もありましたが、WEBを通じた交流が大きく前進しました。学部生はミュンヘン大学やモナシュ大学の学生と一緒にオンライン授業に参加し、大学院ではCIBoGの学生がハンズオンセミナーとして海外の学生とともに情報解析などの研究をWEB上でトレーニングしています。

さらに、本学も含め世界8カ国の大学医学部が連携するGlobal Alliance of Medical Excellence (GAME) では海外の一流大学と共同で教育・研究を進め、ジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)（※1）では、アデレード大学・ルンド大学・フライブルク大学と連携し、大学院での教育と研究の連携を深めていこうとし

ています。今年度から香港中文大学ともダブル・ディグリー制度をスタートさせます。これらの取り組みを通じて学生に国際性を涵養し、世界へ羽ばたく人材を一人でも増やしたいと思っています。

2020年に発足した東海国立大学機構(※2)については、岐阜大学との連携により事務の効率化などが進み、いよいよ研究や教育面での協力を本格化させていく段階を迎えています。医学部の場合、免許の取得という点で他学部よりも教育手法や内容を共有できる部分が多いため、オンデマンド教材を共同で開発し互いに補完し合うことで、将来的により質の高い教育を効率的に提供できると考えています。研究については両大学が誇る世界トップクラスの糖鎖研究の拠点「糖鎖生命コア研究所(iGCORE)」を設置し、集結した研究者が交流を深めながら研究を進展させています。

私は本学が世界屈指の研究大学になるためには、学生の意識から変革する必要があると考えています。そのために教育改革に力を入れ、現在の医学部生・院生に将来ノーベル賞級の研究を手掛けてもらいたいと期待をしています。将来を見据えると、本研究科が世界的に強みのある研究分野に注力していくことも大事でしょう。ただ一方で、希少疾患など大学が取り組まなければ他は手を出さない分野の研究を続けることも私たちの役割です。名古屋大学は指定国立大学(※3)であり、日本有数の研究大学として国際競争力を発揮することが求められます。同時に中部地方の基幹大学でもあり、地域の医療・医学を支えていかなければならないのです。

こうした目標を達成するためには、近隣の大学や研究機関、企業

や行政の方々との連携が欠かせず、互いの協力が前進の原動力となります。本研究科に対する地域の期待は大きく、その重大な責務に私自身、身の引き締まる想いですが、与えられた使命を果たすべく皆さまの力をお借りしながら次なるステップに踏み出してまいります。

- ※1 ジョイント・ディグリー・プログラム (JDP)
本学医学系研究科と海外の大学とが共同で博士課程プログラムを運営し、1つの学位を授与する。2015年に日本で初めて開設。
- ※2 国立大学法人東海国立大学機構
名古屋大学と岐阜大学を一法人のもとに統合。両大学の持てる力を共有し、地域創生への貢献と世界屈指の研究大学への発展を目指す。2020年4月設立。
- ※3 指定国立大学法人
教育研究水準の向上とイノベーション創出を図るため、世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を文部科学大臣が指定。



総合保健学統括専攻長・保健学科長

寶珠山 稔

名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了。
医学博士。同医学系研究科 総合保健学専攻 教授。
2018年より現職。
専門分野は臨床神経生理学、神経内科学。

国際水準の研究力をもった次世代情報化社会における ヘルスケアサイエンティストの育成を目指す

名古屋大学医学部保健学科は、1997年(平成9年)に国内では数少ない5専攻(看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学)を有する医学部保健学科として設置されました。2012年(平成24年)には、大学院医学系研究科として大学院中心の研究・教育組織へと組織強化を進め、2020年度(令和2年度)には、来るべき情報化社会の中で様々な医療関連分野でリーダーとなる“ヘルスケアサイエンティスト”の育成を目指す「総合保健学専攻」として情報科学の研究と教育を取り入れた新たな大学院体制へと組織改編を行いました。名古屋大学が掲げる「世界屈指の知的成果を産み出す」、「勇気ある知識人を育てる」という基本目標のもとに、情報科学リテラシと国際力をもった保健医療分野の人材育成を推進し、学生が夢を描いて成長し、社会に貢献する人材となっていくための研究教育活動に取り組んでいます。

本邦では社会全体の情報化とともに高度先進医療と医療情報科学がめざましく発展しつつあります。本学科・大学院は保健医療分野研究の発展を国際的レベルで目指しつつ、医療専門職に

とどまらない幅広い医療関連分野で活躍する人材育成を目指しています。本学科・大学院の教育では、これまで大学・大学院と臨床現場の病院との連携による人材育成、研究・教育の発展に努めてきています。さらに国際力のある人材の育成として、「博士課程教育リーディングプログラム『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム」(2013年度・文部科学省採択)に取り組み、幅広い視野を持つグローバルリーダーの育成を図ってきました。さらに2020年度の大学院(保健学)組織改編と目標を同じくする「情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院(CIBoG)(2019年度・同採択)」への参画し、世界水準の研究と次世代の情報化医療を担う人材の育成に努めています。

名古屋大学の自由闊達な学風で育った卒業生・修了生には、激しく変化する社会やこれまで経験したことのない世界的な事象の中で保健医療分野に山積する問題に、臆せず自信をもって立ち向かってほしいと願うものです。



名古屋大学大学院医学系研究科

臨床研究教育学

Department of Clinical Research Education : CRE

大学院医学系研究科 臨床研究教育学

勝野 雅央 教授

臨床研究者の育成とともに 研究成果の発信に向けて 研究者に伴走型支援を提供

臨床研究は、疾病の要因の探索、新しい医療技術の開発、最適な医療の提供に必要なエビデンスの形成、等に重要な役割を果たす、医学領域でも最重要の学問領域の1つです。19世紀後半、イギリス・ロンドンのブロード・ストリート周辺で発生したコレラの媒介経路を同定し、井戸のポンプを撤去することにより終息させたジョン・スノウ、ほぼ同時期の日本海軍で、蔓延する脚気の原因が食事の差にあることをつきとめ、食事内容を変更することにより克服した高木兼通などにより幕を開けた近代臨床研究は、生命科学に対する基礎的研究を臨床世界へ応用する橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)が盛んとなった現在において、ますますその重要性を増しています。しかし、医薬産業政策研究所がまとめたデータによると、2013年～2014年の2年間に主要な基礎研究雑誌(Nat Med, Cell, J Exp Med)に掲載された国別論文数において、日本は6位を保っているものの、主要な臨床研究雑誌(New Engl J Med, Lancet, JAMA)に掲載された国別原著論文数では19位となっています。

本邦における臨床研究を着実かつ適正に推進するためには、各臨床研究者がその自覚を持ち臨床研究に従事するだけでなく、彼らを支援する環境を整え、それを維持していくことが不可欠です。そのような中、名古屋大学大学院医学系研究科では臨床研究教育学(Department of Clinical Research Education: CRE)を開設し、名古屋大学における研究リテラシーの向上と、質・量を伴った研究力の増強を目標に実働を開始いたしました。



名古屋大学における医学系臨床研究のリテラシー向上のため、臨床研究教育学は2つの重要なミッションである「臨床研究教育」と「臨床研究支援」を遂行しています(図1)。「臨床研究教育」については、昨年度から医学部1年生(メディカルサイエンスカフェ)、4年生(特別講義「臨床試験」)、5年生(臨床実習I)、6年生(臨床実習II)を開始しました。また、既に一定の臨床経験を積んだうえで大学に所属している大学院生やその他の臨床研究者に対する実践的な教育の場として、「臨床試験プロトコル作成入門」や「臨床研究セミナー」も用意しています。「臨床試験プロトコル作成入門」では、参加者は、架空の臨床研究計画書と説明文書をあらかじめ読み込み、改善すべき点などについてワークショップ形式で議論を行っています。COVID-19禍でオンライン開催となってしまいましたが、毎回白熱した議論が展開され、参加者の好評を得ています。その他、臨床研究教育学、先端医療開発部、東海国立大学機構・健康医療データ統合研究教育拠点(C-Hit)、卓越大学院CIBoGの協力の下「臨床研究セミナー」を開催しており、「臨床研究 A to Z ～立案から論文発表まで～」という講義形式のものから、「院内の電子カルテ情報を使った研究の立案」と題して、各参加者自身が立案した研究計画骨子を持ち寄り、参加者全員で内容をブラッシュアップする参加型のもので、常に30名以上の参加があり、盛況のうちに終えることができました。参加者のニーズを把握しながら、今後も引き続き開催してまいります。

「臨床研究支援」に関する臨床研究教育学の活動の柱は、すべての新規臨床研究課題に関する研究計画概要書の確認作業と、研究者に対する伴走型支援です。2021年10月から、すべての新規臨床研究課題の研究計画概要書は、倫理審査委員会への申請前に臨床研究教育学で事前確認することが必須となりました。研究者にとっては、実際の研究開始の前にやらなければいけないステップが一つ増えたことになりませんが、この事前確認が入ることにより、生命倫理審査委員会の審査が効率化され、名古屋大学で実施される臨床研究全般の質が向上することと期待しております。

図1/臨床研究教育学の診療科横断的ミッション

主なミッション

- ①ゴールを見据えた臨床研究の教育・人材育成と実践
- ②治験・特定臨床研究以外の臨床研究の支援(先端医療開発部との連携)
- ③研究の意義・目的に合わせた臨床試験デザインとデータ品質管理・保証
- ④専門性・部局・立場を越えた臨床研究共創の場形成(MIUやC-Hitとの協働)

その他のミッション

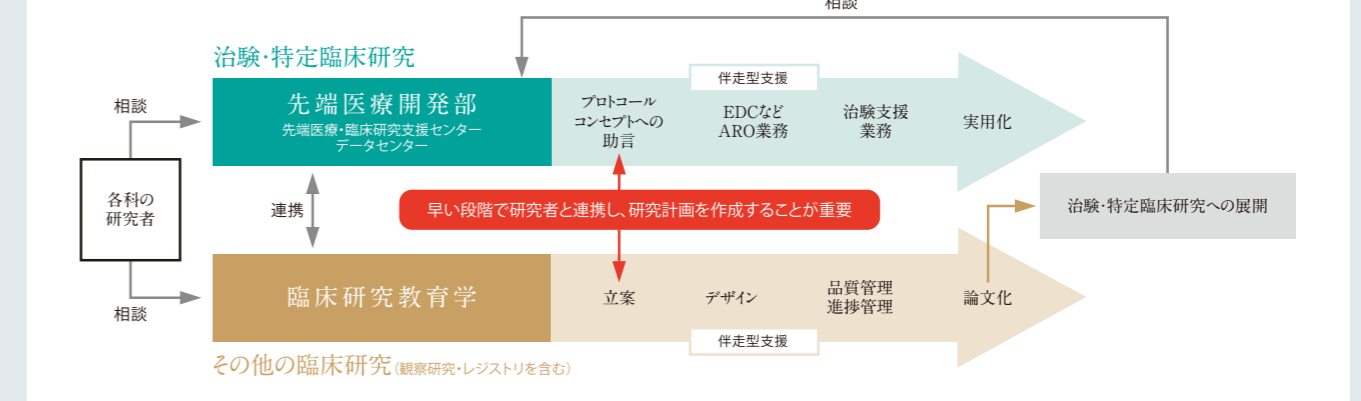
- ⑤レジストリ/コホートの構築・維持と研究活性化(C-Hitとの協働)
- ⑥社会から必要とされる臨床研究の実践(PPIを含む)
- ⑦研究支援人材の学位取得
- ⑧国内外連携におけるリーダーシップの獲得
- ⑨臨床研究の多様化・デジタル化への対応
- ⑩研究基盤体制のサステナビリティの確保

MIU/メディカルイノベーション推進室
C-Hit/東海国立大学機構・健康医療データ統合研究教育拠点
PPI/研究への患者・市民参画

現在、名古屋大学における臨床研究全般の支援体制は、図2の通りです。具体的には、治験や特定臨床研究に該当するものは先端医療開発部が、それ以外の臨床研究は臨床研究教育学が研究を支援しています。臨床研究教育学では、研究の立案、研究デザイン、そして研究開始後の品質管理や論文化まで、研究者のニーズに即し支援する仕組みを整えており、それを「伴走型支援」と呼んでいます。実際、臨床研究の様々な段階において、支援を必要としている研究者は多く、ときにミーティングを開催しながら、着実に研究を進めていっております。

臨床研究に求められる方向性は、時代とともに目まぐるしく変わってきています。ここ5～10年を見据えただけでも、産官学の連携強化、予防医療・個別化医療の推進、医薬品・医療機器モダリティへの多様化への対応、臨床研究デジタル化への対応など、列記すると枚挙にいとまがありません。臨床研究教育学では、学生・大学院生に対する基本的な臨床研究教育に加え、臨床研究に関する時代の変化に対応した課題については先陣を切って取り組み、名古屋大学における医学系臨床研究力の向上に努めてまいります。

図2/臨床研究サポート体制



Promoting improvement in education and research as a world-leading research university rooted in the region



Dean of School of Medicine
and the Graduate School of Medicine

KIMURA, Hiroshi

PhD. in Medicine
from Nagoya University Graduate School of Medicine.
Professor at the Graduate School of Medicine.
Current post since 2022.
Field of Specialization: Virology and Pediatrics.

Integrating diverse fields and expanding industry-academia collaborations, and disseminating new medicine and medical care that can change the next generation.

Nagoya University was established as a temporary hospital and medical school for the Nagoya Domain in 1871, and thanks to the support over the years, celebrated its 150th anniversary in 2021. While inheriting the history since its foundation, Nagoya University School/Graduate School of Medicine have continued to develop, and train human resources who can contribute to the community through both medical treatment and research. We are currently involved in various activities to increase our presence in Japan and the world and to improve our research capabilities with the goal of pioneering new medicine and healthcare.

The starting point to improve research strength is education. Regarding faculty education, the curriculum has changed this year, and educational reform to enhance the contents of the medical education and train human resources who can play active roles as basic and clinical researchers in the future, has been promoted.

In graduate school education, two programs, namely “Convolution of Informatics and Biomedical Sciences on Global Alliances (CIBoG),” and “Academia-Industry collaboration platform for cultivating Medical AI Leaders (AI-MAILS)” are being carried out. Students of the Graduate School of Medicine (including the department of Integrated Health Sciences), Graduate School of Informatics, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Graduate School of Pharmaceutical Sciences at Nagoya University, the United Graduate School of Agricultural Science and Graduate School of Natural Science and Technology at Gifu University participate in CIBoG. In addition, as diverse fields are integrated in the future, researchers who can play a central role in areas where information science and biomedical science are fused together are trained. For AI-MAILS, collaboration with many companies as

well as Gifu University, Nagoya Institute of Technology, and Meijo University are carried out to promote the training of human resources who can take the lead in medical AI, from development to its actual implementation in society and its exit strategy.

Industry-academia collaboration is a priority issue at the Department of Medicine. Within this, Department of Advanced Medicine at the Nagoya University Hospital has actively pursued activities, from seeds development, translational research, and finally drug discovery. One challenge that has come to light is the lack of young researchers and students who are willing to promote clinical research. To rectify this shortage in human resources, the Department of Clinical Research Education:CRE was newly established at the Graduate School of Medicine last year. At the department, not only classroom lectures, but also support to acquire knowledge and know-how needed in actual translational research is provided in order to train young researchers and students who will bear future clinical research. By integrating research and education with the Department of Advanced Medicine at the Nagoya University Hospital and lectures at the Graduation School of Medicine as the base, we hope to accelerate translational research which will contribute to the pioneering of next generation medicine.

Promoting the training of global human resources and research activities with leading universities overseas and world-class researchers

Although some international exchanges were postponed due to the COVID-19 pandemic, significant progress could be made in exchanges over the Internet. Undergraduates participated in online classes with students of the University of Munich and Monash University, and students of CIBoG at the Graduate School were trained via the Internet in information analysis, etc., as a hands-on seminar along with oversea students.

In addition, a joint project by the Global Alliance of Medical Excellence (GAME), a collaboration of Schools of Medicine of major universities in eight countries including this university, to promote education and research is carried out. In the Joint Degree Program (JDP) (*1), we are collaborating with the University of Adelaide, Lund University, and University of Freiburg, further deepening our education and joint research in graduate school. Starting this year, a dual degree system with the Chinese University of Hong Kong will be implemented. Through these approaches, we seek to cultivate an international mindset in our students, and increase the number of students who will go on to become global leaders.

The administrative efficiency of the Tokai National Higher Education and Research System (*2), established in 2020 in collaboration with Gifu University, has been improved. We have finally reached the stage of full-fledged cooperation in research and education. Regarding license acquisition, compared to other departments, there are more areas in the School of Medicine which can be shared, such as educational methods and contents. We believe that by jointly developing on-demand educational materials and complementing each other, higher quality education can be efficiently provided in the future. In the field of research, the Institute for Glyco-core Research (iGCORE), a world-class hub for biological studies on glycans proudly belonging to both Nagoya and Gifu Universities, has been established, participating researchers are further developing research while deepening academic exchange.

In order for our university to become a world's leading research university, changing the mindset of our students is thought to be essential. Consequently, we have focused on educational reform, and are looking forward to our undergraduate and graduate students to work in research worthy of a Nobel prize. As we look to the future,

it will be important for this Graduate School of Medicine to focus on research areas with global strength. On the other hand, it is also our role to continue to research fields that others have not explored and only a university can tackle, such as rare diseases. As a designated national university (*3), Nagoya University is required to demonstrate international competitiveness as one of Japan's leading research universities. At the same time, as a flagship university in the Chubu region, we must support local medical care and medicine. To achieve these goals, collaboration with local universities, research institutes, businesses, and government agencies is essential, with mutual cooperation as the driving force for progress. Expectations for this graduate school by the community are high, and I myself am humbled by the gravity of this responsibility. With your help, we will continue to step forward to fulfill our mission.

***1 Joint Degree Program (JDP)**

The Graduate School of Medicine, Nagoya University and overseas universities jointly administer a doctoral program and award students who complete the program one doctoral degree. Established in 2015 as a first in Japan.

***2 Tokai National Higher Education and Research System**

Integration of Nagoya University and Gifu University under one corporation to share the strengths of each university, aiming to contribute to regional development and to mature into world-leading research universities. Established in April 2020.

***3 Designated National University Corporation**

A national university corporation designated by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology and is expected to develop excellent world-class education and research activities to a considerable extent, improve the level of education and research and create innovation.



Head of the School of Health Sciences
Director of the Graduate School of Medicine
(Health Sciences)

HOSHIYAMA, Minoru

PhD, in Medicine
from Nagoya University Graduate School of Medicine.
Professor at the Graduate School
of Medicine, School of Health Science.
Current post since 2018.
Fields of Specialization : Clinical Neurophysiology
and Neurology.

Cultivating healthcare scientists capable of globally competitive research in a next-generation digitalized society

Nagoya University School of Health Sciences was established in 1997. It was originally one of the few schools in Japan offering 5 separate programs for specialization in Nursing, Radiological Technology, Medical Technology, Physical Therapy, and Occupational Therapy. In 2012, the school was reorganized to enhance its function as an institution for graduate-level education and research. Now, in 2020, it has undergone further reorganization and become the Department of Integrated Health Sciences which aims to nurture "healthcare scientists" to lead development in various health science-related fields in a future, ever more computerized, society. The fundamental objectives of Nagoya University include: "to produce world-leading advances in knowledge" and to foster intellectually courageous individuals." We, at the School and Graduate School of Health Sciences, spare no effort in bolstering our research and educational activities to train health science graduates who are literate in information science and possess the ability to contribute on a global stage, and to ensure that our students mature into researchers who will pursue their academic dreams and contribute to society.

As society becomes ever more IT-centric, Japan's Health Sciences have made huge strides in advancing medicine and medical informatics. Our department and graduate school aim to conduct

health care research that meets and exceeds international standards, designing studies that involve not only medical professionals, but a wide range of medical and other professional fields. Our goal is to train and nurture researchers who will proactively engage in the development of cutting-edge technologies. Our graduates will continue to spearhead global research because they have acquired a broad, international perspective through the united effort of multiple graduate schools under the doctoral program in leadership education entitled, "Woman Leaders Program to Promote Well-being in Asia" (Selected by MEXT in 2013). Since 2019, we have strived to engage in cutting-edge research, educating and training scientists to lead future generations and participate in the Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education, Nagoya University, "Convolution of Informatics and Biomedical Sciences on Glocal Alliance(CIBoG)" (Selected by MEXT in 2019).

Cultivated in our free yet vibrant academic environment, our Nagoya University graduates should prove fully capable of facing these challenges with the confidence needed to tackle the manifold healthcare issues that will arise in this rapidly changing society amidst historical global events never before experienced.



Graduate School of Medicine, Nagoya University

Clinical Research Education : CRE

Professor of Clinical Research Education Department
Graduate School of Medicine

KATSUNO, Masahisa

Providing companion support to researchers in order to disseminate research achievement as well as educating clinical researchers

Within the medical field, clinical research is one of the most important academic regions and plays an important role in the search for the causes of diseases, the development of new medical technologies, the formation of evidence necessary for the provision of optimal medical care, etc. In the late 19th century, a cholera outbreak occurred around Broad Street in London, England. John Snow identified the vector pathway, and resolved the situation by closing the well pump. At approximately the same time, beriberi was widespread among the Japanese Navy. TAKAKI, Kanehiro discovered the cause was due to a difference in their diet, and could control its spread by changing meal contents. These events opened the way to modern clinical research, which has become increasingly more important especially in today's world as translational research, which applies basic research in life science to the clinical world, has gained momentum. However, according to the data compiled by the Office of Pharmaceutical Industry Research, Japan ranks in 6th place in the number of papers published in major basic research journals (Nat Med, Cell, J Exp Med) by country during the two-year period of 2013-2014. However, regarding the number of original papers published in major clinical research journals (New Engl J Med, Lancet, JAMA) by country, it ranks 19th. In order for clinical research in Japan to be steadily and appropriately promoted, it is essential, not only for each clinical

researcher to conscientiously engage in clinical research, but also creating and maintaining a supportive environment for such researchers. Under such conditions, Nagoya University Graduate School of Medicine has established the Department of Clinical Research Education: CRE. This department has been launched with the aim of improving research literacy and enhancing the quality and quantity of research capabilities at Nagoya University.

To enhance literacy in medical clinical research at Nagoya University, the department performs two important missions, clinical research education and support for clinical research (Fig.1). Regarding clinical

research education, activities began last year for medical school students in the first year (Medical Science Cafe), fourth year (special lecture "Clinical Trial"), fifth year (Clinical Training I), and sixth year (Clinical Training II). In addition, for graduate students and other clinical researchers with some degree of clinical experience and who are affiliated with the University, "Introduction to the preparation of protocol for clinical trials" and "Clinical Research Seminar" have been prepared as a place for practical education. In "Introduction to the preparation of protocol for clinical trials" participants read a hypothetical clinical research plan and explanatory document in advance, and then discuss points of improvement in a workshop style environment. Although held online due to COVID-19, enthusiastic discussions were held each time and the event has been well received by participants. The "Clinical Research Seminar" is held in cooperation with the Department of Clinical Research Education, Department of Advanced Medicine, Tokai National Higher Education and Research System/Center for Healthcare Information Technology(C-Hit), and the Convolution of Informatics and Biomedical Sciences on Global Alliances (CIBoG). From "Clinical Research A to Z: From Planning to Publication" given in a lecture style, to "Planning Research Using Electronic Medical Chart Information in Hospitals," a participatory style where each participant personally designs and prepares a research plan outline and after which all participants seek to brush up the contents of the plan. The seminar was a complete success, with more than 30 people consistently attending each time. This event will continue to be held in the future, in recognition of the needs of the participants.

Core activities regarding "clinical research support" in clinical research education include reviewing clinical research outlines for all new clinical research subjects, and providing companion support for researchers. As of October 2021, all research plan outlines for new clinical research subjects must be reviewed by the Department of Clinical Research Education prior to submission to the Ethics Review Committee. For researchers, it means there is one more step before actual research begins. However, this advance confirmation is expected to improve the review process by the Bioethics Review Committee and enhance the overall quality of clinical research conducted at Nagoya University.

The current, overall support system for clinical research at Nagoya University is shown in Figure 2. Specifically, the Department of

(Fig.1) Trans-departmental missions of Clinical Research Education

Main Missions

- 1 . Goal-oriented clinical research education and human resource development and their implementation
- 2 . Support for clinical research other than clinical trials and specified clinical studies
(In coordination with Department of Advanced Medicine)
- 3 . Clinical trial design according to the significance and purpose of the research, data quality control and guarantee
- 4 . Establishment of places for co-creation in clinical research which transcend specialization, departments and positions
(In cooperation with MIU and C-Hit)

Other Missions

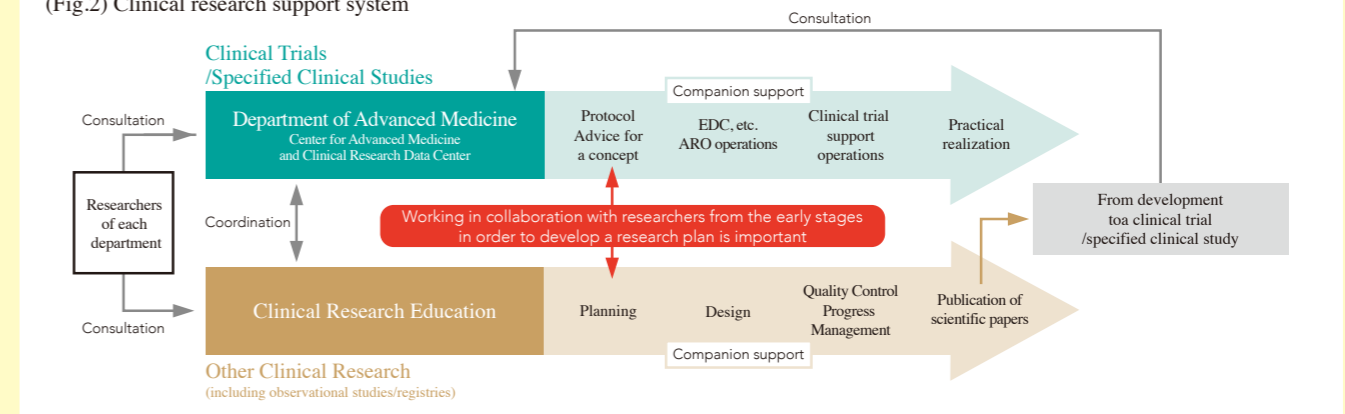
- 5 . Establishment and maintenance of a registry /cohort and research activation (In cooperation with C-Hit)
- 6 . Implementation of clinical research as needed by society (including PPI)
- 7 . Degree acquisition by research support personnel
- 8 . Acquisition of leadership in domestic and international collaborations
- 9 . Response for diversification and digitalization of clinical research
10. Ensuring the sustainability of a fundamental system of research

MIU : Medical and Healthcare Innovation Unit
C-Hit : Tokai National Higher Education and Research System / Center for Healthcare Information Technology
PPI : Patients and Public Involvement in Clinical Research

Advanced Medicine provides research support for clinical trials and specified clinical studies, while the Department of Clinical Research Education provides research support for other clinical research. The Department of Clinical Research Education has organized an arrangement to support the needs of researchers from research planning and design to quality control and publication after research. This is referred to as "companion support." In fact, many researchers need support at various stages of clinical research, and meetings are held as needed to assist such researchers in their steady advance in their research.

Over time, the direction required for clinical research has rapidly changed. Just looking ahead to the next 5 to 10 years, the list is endless, including strengthening cooperation between industry, government, and academia, promoting preventive medicine and personalized medicine, responding to the diversification of drug and medical device modalities, and digitalization of clinical research, etc. In addition to basic clinical research education for students and graduate students, the Department of Clinical Research Education will continue to take the lead in addressing issues related to clinical research by responding to the changes in times, and striving to enhance the medical clinical research capability at Nagoya University.

(Fig.2) Clinical research support system



鶴舞キャンパス

Tsurumai Campus

大学院医学系研究科

博士課程・修士課程

Graduate School of Medicine
Doctoral Course (Medical Sciences) / Master's Course

医学部 医学科

School of Medicine

名古屋市昭和区の鶴舞公園に隣接する名古屋大学鶴舞キャンパスには、大学院医学系研究科の博士課程と修士課程、医学部医学科、そして附属施設が集結している。市民に「名大病院」として親しまれる附属病院と緊密な連携を図りながら、質の高い教育と研究が行われている。

Located next to Tsuruma Park in Showa-ku, Nagoya city, the Doctoral Course (Medical Sciences), the Master's Course, the School of Medicine programs and associated facilities are concentrated on the Nagoya University Tsurumai Campus. The School of Medicine carries out quality education and research in close collaboration with the hospital popularly known as "Meidai Hospital" among area citizens.

大学院医学系研究科 博士課程
Graduate School of Medicine Doctoral Course (Medical Sciences) 16

大学院医学系研究科 修士課程
Graduate School of Medicine Master's Course 25

医学部 医学科
School of Medicine 26

附属施設等
University facilities etc. 27

博士課程	大学院医学系研究科 Graduate School of Medicine
Doctoral Course (Medical Sciences)	

■ 総合医学専攻

入学定員 151名

異なる研究分野が流動的に協力し合い、学生への教育・研究指導を進める体制を構築するため、基礎医学・臨床医学・統合医薬学を有機的に統合する単一専攻制である。

■ Department of Integrated Medicine

Admission Capacity 151

To enhance education for graduate students, a single department of that organically integrates basic medicine, clinical medicine, and clinical pharmacology is offered in which different research fields flexibly collaborate with each other.

基礎医学領域 | Basic Medicine Area

大講座名 Field	専門分野 Division	担当教授 Professor
生物化学 Biological Chemistry	分子生物学 Molecular Biology	門松 健治 教授 KADOMATSU, Kenji
	分子細胞化学 Molecular and Cellular Biology	(岡島 徹也 教授 OKAJIMA, Tetsuya)
微生物・免疫学 Microbiology and Immunology	分子病原細菌学 Bacteriology	柴山 恵吾 教授 SHIBAYAMA, Keigo
	分子細胞免疫学 Immunology	西川 博嘉 教授 NISHIKAWA, Hiroyoshi
	ウイルス学 Virology	木村 宏 教授 KIMURA, Hiroshi
先端応用医学(協力) Advanced Medical Science (Cooperating field)	機能分子制御学 Molecular Biochemistry	岡島 徹也 教授 OKAJIMA, Tetsuya <small>附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 先端応用医学部門 Center for Neurological Diseases and Cancer Department of Advanced Medical Sciences</small>
	神経遺伝情報学 Neurogenetics	大野 欽司 教授 OHNO, Kinji <small>附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 神経疾患病態統御部門 Center for Neurological Diseases and Cancer Department of Neuroscience</small>
	機能再生医学 Functional Regenerative Medicine	<small>附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 先端応用医学部門 Center for Neurological Diseases and Cancer Department of Advanced Medical Sciences</small>
	システム生物学 Systems Biology	島村 徹平 教授 SHIMAMURA, Teppei <small>附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 細胞情報統合解析部門 Center for Neurological Diseases and Cancer Department of Integrative Cellular Informatics</small>
	生物情報解析工学 Bioinformatics Analysis	本多 裕之 教授 HONDA, Hiroyuki <small>工学研究科 Graduate School of Engineering</small>
分子診断ナノ工学 Nanoengineered Molecular Diagnostics	馬場 嘉信 教授 BABA, Yoshinobu	
実験動物科学(協力) Laboratory Animal Science (Cooperating field)	実験動物科学 Laboratory Animal Science	<small>附属医学教育研究支援センター 実験動物部門 Center for Research of Laboratory Animals and Medical Research Engineering Division for Research of Laboratory Animals</small>
細胞科学 Cell Science	統合生理学 Integrative Physiology	中村 和弘 教授 NAKAMURA, Kazuhiro
	細胞生理学 Cell Physiology	久場 博司 教授 KUBA, Hiroshi
	細胞薬理学 Cell Pharmacology	
神経科学(協力) Neuroscience (Cooperating field)	神経情報薬理学 Neuroscience	<small>附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 神経疾患病態統御部門 Center for Neurological Diseases and Cancer Department of Neuroscience</small>
腫瘍病態学(協力) Oncology (Cooperating field)	分子腫瘍学 Molecular Oncology	鈴木 洋 教授 SUZUKI, Hiroshi <small>附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 腫瘍病態統御部門 Center for Neurological Diseases and Cancer Department of Oncology</small>
	腫瘍生物学 Cancer Biology	近藤 豊 教授 KONDO, Yutaka
高次神経統御学(協力) Higher Nervous Control (Cooperating field)	分子神経科学 Molecular / Cellular Neuroscience	竹本 さやか 教授 TAKEMOTO, Sayaka <small>環境医学研究所 Research Institute of Environmental Medicine</small>
	免疫代謝学 Immunometabolism	菅波 孝祥 教授 SUGANAMI, Takayoshi
器官系機能調節学(協力) Regulation of Organ Function (Cooperating field)	神経性調節学 Neural Regulation	<small>環境医学研究所 Research Institute of Environmental Medicine</small>
	内分泌代謝学 Endocrinology	林 良敬 教授 HAYASHI, Yoshitaka
分子・細胞適応学(協力) Molecular and Cellular Adaptation(Cooperating field)	人類遺伝・ 分子遺伝学 Human Genetics and Molecular Biology	荻 朋男 教授 OGI, Tomoo <small>環境医学研究所 Research Institute of Environmental Medicine</small>
	病態神経科学 Neuroscience and Pathobiology	山中 宏二 教授 YAMANAKA, Koji

大講座名 Field	専門分野 Division	担当教授 Professor
機能形態学 Anatomy and Cell Biology	分子細胞学 Molecular Cell Biology	和氣 弘明 教授 WAKE, Hiroaki
	機能組織学 Functional Anatomy and Neuroscience	木山 博資 教授 KIYAMA, Hiroshi
	細胞生物学 Cell Biology	宮田 卓樹 教授 MIYATA, Takaki
病理病態学 Pathology	生体反応病理学 Pathology and Biological Responses	豊國 伸哉 教授 TOYOKUNI, Shinya
	腫瘍病理学 Tumor Pathology	(榎本 篤 教授 ENOMOTO, Atsushi)
発生・再生医学(協力) Development (Cooperating field)	分子病理学 Molecular Pathology	榎本 篤 教授 ENOMOTO, Atsushi <small>附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 先端応用医学部門 Center for Neurological Diseases and Cancer Department of Advanced Medical Sciences</small>
社会生命科学 Social Life Science	法医学・生命倫理学 Legal Medicine and Bioethics	石井 晃 教授 ISHII, Akira
	環境労働衛生学 Occupational and Environmental Health	加藤 昌志 教授 KATO, Masashi
	予防医学 Preventive Medicine	若井 建志 教授 WAKAI, Kenji
	国際保健医療学・ 公衆衛生学 Public Health and Health Systems	八谷 寛 教授 YATSUYA, Hiroshi
	医療行政学 Healthcare Administration	山本 英子 教授 YAMAMOTO, Eiko
健康増進医学(協力) Health Promotion Medicine (Cooperating field)	健康栄養医学 Human Nutrition	石黒 洋 教授 ISHIGURO, Hiroshi
	健康スポーツ医学 Sports Medicine	山本 明子 教授 YAMAMOTO, Akiko
	精神病理学・ 精神療法学 Psychopathology and Psychotherapy	小池 晃彦 教授 KOIKE, Teruhiko <small>総合保健体育科学センター Research Center of Health, Physical Fitness and Sports</small>
	健康運動科学 Exercise and Sports Physiology	石田 浩司 教授 ISHIDA, Koji
老化基礎科学(連携) Aging Research (Partnership field)	老化基礎科学 Molecular Aging Research	丸山 光生 連携教授 MARUYAMA, Mitsuo
	認知機能科学 Cognitive Function Research	中村 昭範 連携教授 NAKAMURA, Akinori <small>国立長寿医療研究センター National Center for Geriatrics and Gerontology</small>
		櫻井 孝 連携教授 SAKURAI, Takashi
免疫不全統御学(連携) HIV and AIDS (Partnership field)	免疫不全統御学 HIV and AIDS	国立病院機構 名古屋医療センター Nagoya Medical Center 岩谷 靖雅 連携教授 IWATANI, Yasumasa
神経生化学(連携) Neurochemistry (Partnership field)	神経生化学 Neurochemistry	愛知県医療教育総合センター Institute for Developmental Research, Aichi Developmental Disability Center 中山 敦雄 連携教授 NAKAYAMA, Atsuo 永田 浩一 連携教授 NAGATA, Koichi
がん疫学・遺伝学(連携) Cancer Epidemiology and Prevention (Partnership field)	がん記述疫学 Descriptive Cancer Epidemiology	伊藤 秀美 連携教授 ITO, Hidemi
	がん分析疫学 Cancer Epidemiology	愛知県がんセンター研究所 Aichi Cancer Center Research Institute 松尾 恵太郎 連携教授 MATSUO, Keitaro
	腫瘍遺伝学 Cancer Genetics	
がん分子病因・病態学 (連携) Cancer Pathobiology and Informatics (Partnership field)	がん病態生理学 Cancer Physiology	青木 正博 連携教授 AOKI, Masahiro
	がん分子病因学 Molecular and Cellular Oncology	愛知県がんセンター研究所 Aichi Cancer Center Research Institute 関戸 好孝 連携教授 SEKIDO, Yoshitaka
	がんシステム情報学 Cancer Informatics	山口 類 連携教授 YAMAGUCHI, Rui
がん先端診断・ 治療開発学(連携) Cancer Diagnostics and Therapeutics (Partnership field)	標的探索・治療学 Target and Drug Discovery	小根山 千歳 連携教授 ONEYAMA, Chitose
	細胞腫瘍学 Cellular Oncology	龍谷 勇紀 連携教授 KAGOYA, Yuki
	がん免疫ゲノム学 Cancer Immunogenomics	愛知県がんセンター研究所 Aichi Cancer Center Research Institute 松下 博和 連携教授 MATSUSHITA, Hirokazu
	先端がん診断学 Advanced Cancer Diagnostics	田口 歩 連携教授 TAGUCHI, Ayumu
	先端がん標的治療学 Advanced Cancer Therapeutics	衣斐 寛倫 連携教授 EBI, Hiromichi
	応用ゲノム病理学 Translational Molecular Pathology	

博士課程	大学院医学系研究科 Graduate School of Medicine
Doctoral Course (Medical Sciences)	

臨床医学領域 | Clinical Medicine Area

大講座名 Field	専門分野 Division	担当教授 Professor
病態内科学 Internal Medicine	血液・腫瘍内科学 Hematology and Oncology	清井 仁 教授 KIIYOI, Hitoshi
	循環器内科学 Cardiology	室原 豊明 教授 MUROHARA, Toyoaki
	消化器内科学 Gastroenterology	川嶋 啓揮 教授 KAWASHIMA, Hiroki
	呼吸器内科学 Respiratory Medicine	石井 誠 教授 ISHII, Makoto
	糖尿病・内分泌内科学 Endocrinology and Diabetes	有馬 寛 教授 ARIMA, Hiroshi
	腎臓内科学 Nephrology	丸山 彰一 教授 MARUYAMA, Shoichi
高次医用科学 High-Technology Application of Medicine	量子医学 Radiology	長縄 慎二 教授 NAGANAWA, Shinji
	量子介入治療学 Interventional and Therapeutic Radiology	
	放射線治療学 Radiation Oncology	
	臓器病態診断学 Pathology and Laboratory Medicine	加留部 謙之輔 KARUBE, Kennosuke
	病態構造解析学 Diagnostic Pathology	
	がん薬物療法学 Clinical Oncology and Chemotherapy	(安藤 雄一 教授 ANDO, Yuichi)
脳神経病態制御学 Clinical Neurosciences	神経内科学 Neurology	勝野 雅央 教授 KATSUNO, Masahisa
	精神医学 Psychiatry	
	脳神経外科学 Neurosurgery	齋藤 竜太 教授 SAITO, Ryuta
	脳神経先端医療開発学 Frontier Surgical Neuroscience	
	脳血管内治療学 Endovascular Neurosurgery	
頭頸部・感覚器外科学 Head and Neck and Sensory Organ Medicine	眼科学 Ophthalmology	西口 康二 教授 NISHIGUCHI, Koji
	感覚器障害制御学 Protective Care for Sensory Disorders	
	耳鼻咽喉科学 Otorhinolaryngology	曾根 三千彦 教授 SONE, Michihiko
	顎顔面外科学 Maxillofacial Surgery	日比 英晴 教授 HIBI, Hideharu
病態外科学 Surgery	腫瘍外科学 Surgical Oncology	江畑 智希 教授 EBATA, Tomoki
	血管外科学 Vascular and Endovascular Surgery	坂野 比呂志 教授 BANNO, Hiroshi
	消化器外科学 Gastroenterological Surgery	小寺 泰弘 教授 KODERA, Yasuhiro
	乳腺・内分泌外科学 Breast and Endocrine Surgery	増田 慎三 教授 MASUDA, Norikazu
	移植外科学 (協力) Transplantation Surgery	病院 移植外科 University Hospital Transplantation Surgery
	心臓外科学 Cardiac Surgery	
	呼吸器外科学 Thoracic Surgery	芳川 豊史 教授 YOSHIKAWA, Toyofumi
	小児外科学 Pediatric Surgery	内田 広夫 教授 UCHIDA, Hiroo
	泌尿器科学 Urology	
運動・形態外科学 Musculoskeletal and Cutaneous Surgery	整形外科 Orthopaedics	今釜 史郎 教授 IMAGAMA, Shiro
	リウマチ学 Rheumatology	(今釜 史郎 教授 IMAGAMA, Shiro)
	人間拡張・手の外科学 Human Enhancement & Hand Surgery	
	皮膚科学 Dermatology	秋山 真志 教授 AKIYAMA, Masashi
	形成外科学 Plastic and Reconstructive Surgery	亀井 譲 教授 KAMEI, Yuzuru
生体管理医学 Biomedical Regulation	麻酔・蘇生医学 Anesthesiology	西脇 公俊 教授 NISHIWAKI, Kimitoshi
	臨床感染制御学 Infectious Diseases	八木 哲也 教授 YAGI, Tetsuya
	救急・集中治療医学 Emergency and Critical Care Medicine	松田 直之 教授 MATSUDA, Naoyuki

大講座名 Field	専門分野 Division	担当教授 Professor	
病態医療学 (協力) Clinical Management Medicine (Cooperating field)	手術医療学 Operation Medicine	病院 手術部 University Hospital Department of Surgical Center	
	細胞治療医学 Cell Therapy Medicine	病院 輸血部 University Hospital Department of Blood Transfusion Service	松下 正 教授 MATSUSHITA, Tadashi
	病理組織医学 Anatomical Pathology	病院 病理部 University Hospital Department of Pathology and Laboratory Medicine	
	光学医療学 Diagnostic and Therapeutic Endoscopy	病院 光学医療診療部 University Hospital Department of Endoscopy	
	放射線医療学 Clinical Radiology	病院 放射線部 University Hospital Central Block of Radiology	
	画像情報診断・工学 Diagnostic Medical Image Processing	情報学研究科 Graduate School of Informatics	森 健策 教授 MORI, Kensaku
発育・加齢医学 Medicine in Growth and Aging	小児科学 Pediatrics		高橋 義行 教授 TAKAHASHI, Yoshiyuki
	発達・老年精神医学 Developmental and Geriatric Psychiatry		
	地域在宅医療学・ 老年科学 Community Healthcare and Geriatrics		
	産婦人科学 Obstetrics and Gynecology		梶山 広明 教授 KAJIYAMA, Hiroaki
総合診療医学 (協力) General Medicine	病院 総合診療科 University Hospital General Medicine		
周産母子医学 (協力) Maternal and Perinatal Care (Cooperating field)	周産母子医学 Maternal and Perinatal Care	病院 総合周産期母子医療センター University Hospital Center for Maternal - Neonatal Care	
親と子どもの精神医学 (協力) Psychiatry for Parents and Children (Cooperating field)	親と子どもの心療学 Psychiatry for Parents and Children	病院 親と子どもの心療科 University Hospital Child and Adolescent Psychiatry	
総合管理医学 Comprehensive Management Medicine	総合医学教育学 (協力) Medical Education	医学部 附属総合医学教育センター Center for Medical Education	錦織 宏 教授 NISHIGORI, Hiroshi
	医療の質・患者安全学 (協力) Quality and Patient Safety	病院 患者安全推進部 University Hospital Department of Patient Safety	長尾 能雅 教授 NAGAO, Yoshimasa
	国際医学教育学 (協力) International Medical Education	国際連携室 Office of International Affairs	粕谷 英樹 教授 KASUYA, Hideki
	臨床研究教育学 Clinical Research Education		(勝野 雅央 教授 KATSUNO, Masahisa)
総合小児医療学 (連携) Comprehensive Pediatric Medicine (Partnership field)	総合小児医療学 Comprehensive Pediatric Medicine	あいち小児保健医療総合センター Aichi Children's Health and Medical Center	伊藤 浩明 連携教授 ITO, Komei 鬼頭 浩史 連携教授 KITO, Hiroshi

統合医薬学領域 | Clinical Pharmacology Area

大講座名 Field	専門分野 Division	担当教授 Professor	
分子医薬学 Molecular Pharmacology	薬物動態解析学 (協力) Molecular Pharmacokinetics	環境医学研究所 Research Institute of Environmental Medicine	澤田 誠 教授 SAWADA, Makoto
	分子機能薬学 (協力) Molecular Pharmaco-Biology		益谷 央豪 教授 MASUTANI, Chikahide
	トキシコゲノミクス Toxicogenomics		
臨床医薬学 Clinical Pharmacology	医療薬学 (協力) Neuropsychopharmacology and Hospital Pharmacy	病院 薬剤部 University Hospital Department of Hospital Pharmacy	山田 清文 教授 YAMADA, Kiyofumi
	化学療法学 (協力) Clinical Oncology and Chemotherapy	病院 化学療法部 University Hospital Department of Clinical Oncology and Chemotherapy	安藤 雄一 教授 ANDO, Yuichi
	生物統計学 Biostatistics		松井 茂之 教授 MATSUI, Shigeyuki

(令和4年8月1日現在)
(as of August 1, 2022)

博士課程

Doctoral Course (Medical Sciences)

大学院医学系研究科
Graduate School of
Medicine

国際連携総合医学専攻

入学定員 10名

名古屋大学大学院医学系研究科が設置する国際連携総合医学専攻(ジョイントディグリープログラム)は、連携する2大学が共同して教育プログラムを構築し、1人の学生の1つの研究テーマを2大学の2人の指導教員が中心となって指導するものである。研究が完結した暁には2つの機関が連名で単一の学位を授与する(=ジョイントディグリー)。通常と同じ4年間の大学院在籍期間において、原則1年の留学を保障され、かつ海外大学からも学位という形で国際経験が証明される。

担当教授 粕谷 英樹
Professor KASUYA, Hideki

特徴

- 標準修業年限4年で学位取得が可能
- 2つの大学で共同学位取得
- 経済的支援制度あり
- 世界レベルの学習・研究環境
- ネットワークを広げ、国際的なキャリアパスにつながる
- 国際的な視野と高い競争力を養う

年次概要

	1年次 1st year		2年次 2nd year		3年次 3rd year		4年次 4th year	
	10月 Oct.	4月 Apr.	10月 Oct.	4月 Apr.	10月 Oct.	4月 Apr.	10月 Oct.	4月 Apr.
名古屋大学 Nagoya University	10月 Oct.	4月 Apr.	10月 Oct.	4月 Apr.	10月 Oct.	4月 Apr.	10月 Oct.	4月 Apr.
アデレード大学 The University of Adelaide	4月 Apr.	10月 Oct.	4月 Apr.	10月 Oct.	4月 Apr.	10月 Oct.	4月 Apr.	10月 Oct.
ルンド大学 Lund University								
フライブルク大学 University of Freiburg								
国際連携総合医学専攻入学審査委員会 Collaborative Examination Committee for Admission	研究立案の開始 Start Planning thesis							
国際連携総合医学専攻学位共同審査委員会 Collaborative Examination Committee of Awarding PhD Degree								研究立案の開始 Start Planning thesis
主大学 Principal university	専門科目 Specialized Subject Course		名古屋大学で研究 Research in Nagoya University		副大学の研究室で研究 (2年次から4年次前期までの間で、原則1年間) Research at a laboratory in Partner University (one year in principle between the 2nd year and the first semester of the 4th year)		必修科目 Compulsory Course	
副大学 Partner university	専門科目 Specialized Subject Course		主大学で研究 Research in Principal University		名古屋大学の研究室で研究 (2年次から4年次前期までの間で、原則1年間) Research at a laboratory in Nagoya University (one year in principle between the 2nd year and the first semester of the 4th year)		共同学位記 日本語・英語併記 Joint single PhD Degree	

International Collaborative Program in Comprehensive Medical Science

Admission Capacity 10

The Graduate School of Medicine at Nagoya University has established International Collaborative Programs (so called Joint Degree Programs: JDP) that allow students to pursue a single project under 2 supervisors at 2 collaborative universities. Upon completion, they will receive a joint degree provided by both universities. To complete the program, attending additional years is not required. During the 4 year doctoral degree program, students are guaranteed to study at the partner university for 1 year in principle. This program ensures an international experience with the jointly awarded degree.

Characteristics

- Able to graduate within 4 years
- Receive a joint degree diploma
- Financial support available
- World class research training and high quality research environments
- Add value through international networking opportunity to enhance your future job prospective
- Broaden international perspective and develop competitive

Outline

出願資格

- 日本の大学の医学、歯学、薬学(修業年限が6年のものに限る)又は獣医学を履修する課程を卒業した者または入学時までに卒業予定の者
- 外国において学校教育における18年の課程を修了した者または入学時までに修了予定の者
- あるいは、本学大学院において、上記と同等以上の学力があると認められた者

カリキュラム

- 授業等で使用する言語は英語
- 4年博士課程で2年次から4年次前期までの期間で、原則1年間パートナー大学で研究を行う

名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻

- 養成する人材像
「豊かな人間性、高い倫理性、科学的論理性を備え、創造力に富み、多様な学問的素養を身に着け、国際的共同研究を推進し、医学と人類の福祉の発展に著しく貢献できる人材」を養成する
- 入学定員
4名(うち名古屋大学を主とする学生2名、アデレード大学を主とする学生2名)

名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻

- 養成する人材像
「高度な専門性と学識を備え、解決の道筋を見つけるデザイン力に富み、異なる文化を理解できる国際性を備え、国際的共同研究を推進し、医学と人類の福祉の発展に積極的に貢献できる人材」を養成する。
- 入学定員
4名(うち名古屋大学を主とする学生2名、ルンド大学を主とする学生2名)

名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻

- 養成する人材像
「高度な専門性と学識を備え、解決の道筋を見つけるデザイン力に富み、異なる文化を理解できる国際性を備え、学際横断的な感性を持って国際的共同研究を推進し、EUと日本を結ぶ研究リーダーとなる人材」を養成する。
- 入学定員
2名(うち名古屋大学を主とする学生1名、フライブルク大学を主とする学生1名)

ホームページ ▶ <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/jdp/>

Eligibility

- Must have graduated or will graduate from a Japanese university program in medicine, dentistry, pharmaceutical sciences (limited to those whose minimum duration of study is 6 years), or veterinary medicine by entrance to our university.
- Must have completed or will complete 18 years of formal education in a foreign country by entrance to our university.
- Alternatively, must have been recognized by Nagoya University Graduate School of Medicine as having equal academic abilities as a university graduate.

Curriculum

- English will be used as the common language.
- During the 4-year doctoral course, applicants need to stay at the partner university for 1 year in principle between the 2nd year and the first semester of the 4th year.

International Collaborative Program in Comprehensive Medical Science between Nagoya University and the University of Adelaide

- Expected Outcome
The educational curriculum has been created under the diploma policy of cultivating "graduates who are of well-rounded character with high ethical standards, scientific and logical minds, creative and well versed in a variety of academic fields. They can promote international collaborations significant to the development of medical science and human welfare"
- Number of Students to be Admitted
4 students (2 students who will be enrolled in the 1st year at Nagoya University and 2 students who will be enrolled in the 1st year at the University of Adelaide)

International Collaborative Program in Comprehensive Medical Science between Nagoya University and Lund University

- Expected Outcome
The educational curriculum has been created under the diploma policy of cultivating "graduates who are of well-rounded character with a high-level of specialty, knowledge, problems solving creativity, and global understanding of different cultures which will promote international collaborative researches and make a remarkable contribution to the development of medical science and human welfare"
- Number of Students to be Admitted
4 students (2 students who will be enrolled in the 1st year at Nagoya University and 2 students who will be enrolled in the 1st year at Lund University)

International Collaborative Program in Comprehensive Medical Science between Nagoya University and University of Freiburg

- Expected Outcome
The educational curriculum has been created under the diploma policy of cultivating "graduates who are of well-rounded character with a high-level of specialty, knowledge, problems solving creativity, and global understanding of different cultures which will foster research leaders who will promote international research collaboration and be the bridge between the EU and Japan"
- Number of Students to be Admitted
2 students (1 student who will be enrolled in the 1st year at Nagoya University and 1 student who will be enrolled in the 1st year at University of Freiburg)

website ▶ <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/jdp/en/>

<h2>MD・PhDコース</h2>	大学院医学系研究科 Graduate School of Medicine
MD/PhD Course	

研究志向の医学部生・医学部卒業生に、早期に研究に専念できる環境を提供し、MDとPhDの両学位を早期に取得するコース。

A course for research-oriented medical students or graduates. Provides an environment that enables them to concentrate on research early on and obtain both the MD and PhD degrees in a short period of time.

MD・PhDコースの特徴

- ・医学部4年生夏に「大学院博士課程プレプログラム」の受講開始
- ・医学部5年生以上も開始可能
- ・医学部時代に大学院必修単位取得科目の聴講可能
- ・医学部4年終了後から初期臨床研修修了までの4年間のいずれかのタイミングで、大学院博士課程の基礎医学領域又は統合医薬学領域に入学
- ・大学院入学筆記試験免除
- ・名古屋大学医学部附属病院で研修をする場合には、臨床研修医2年目に社会人として大学院入学可能
- ・医学部時代の第1著者論文を大学院短期修了のための2報目の学位論文として考慮
- ・大学院在籍中に月25～30万円の奨学金を優先受給

Characteristics of the MD / PhD Course

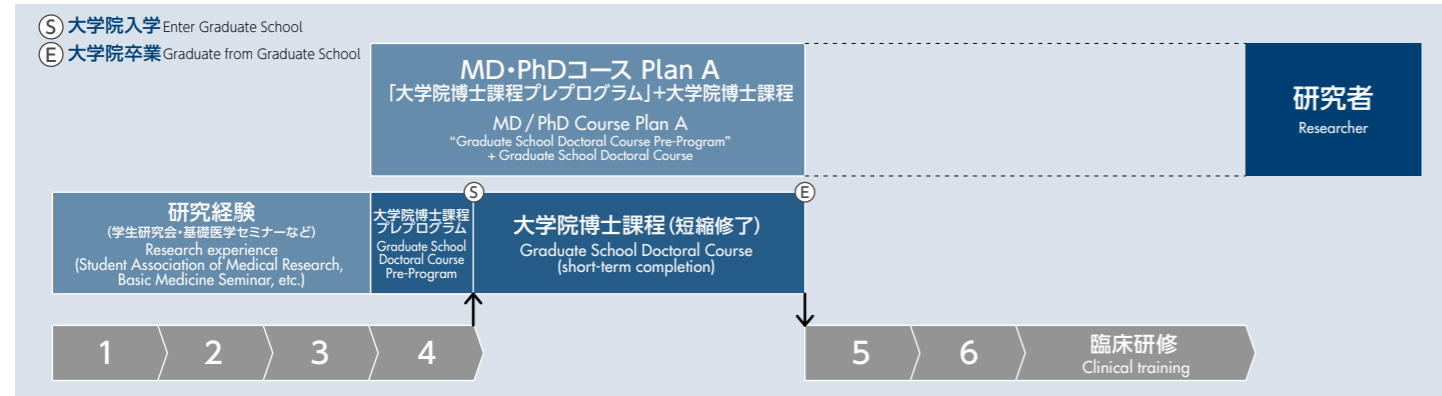
- ・The 4th year medical students begin participating in the “Graduate School Doctoral Course Pre-Program” during the summer term.
- ・Students in their 5th or 6th year of study in the School of Medicine will also be able to begin the program.
- ・Participants can attend graduate-level required credit courses while still enrolled in the School of Medicine.
- ・At any time during the 4 years between the end of the 4th year of study in the School of Medicine and the end of postgraduate clinical training, the student enrolls in the Graduate School Doctoral Course, with Basic Medicine or Clinical Pharmacology as the field of specialization.
- ・The written entrance examination for Graduate School is waived.
- ・Participants who are going to train at Nagoya University Hospital will be able to enter the Graduate School as on-the-job students in their 2nd year as residents.
- ・A thesis written by the applicant as the principal author during the period of study at the School of Medicine will be considered as the 2nd doctoral dissertation for short-term completion of the Graduate School program.
- ・Preferential eligibility for a scholarship providing 250,000 to 300,000 yen per month throughout enrollment in the Graduate School will be given.

MD・PhDコース PlanA

医学部医学科4年(5年可)を終えて、大学院博士課程の基礎医学領域又は統合医薬学領域(短期修了による3年間)に入るコース。

MD / PhD Course Plan A

A course in which the student enters the Graduate School Doctoral Course, specializing in Basic Medicine or Clinical Pharmacology, after completing the 4th year (or 5th year) of study in the School of Medicine (With short-term completion, the program takes 3 years).

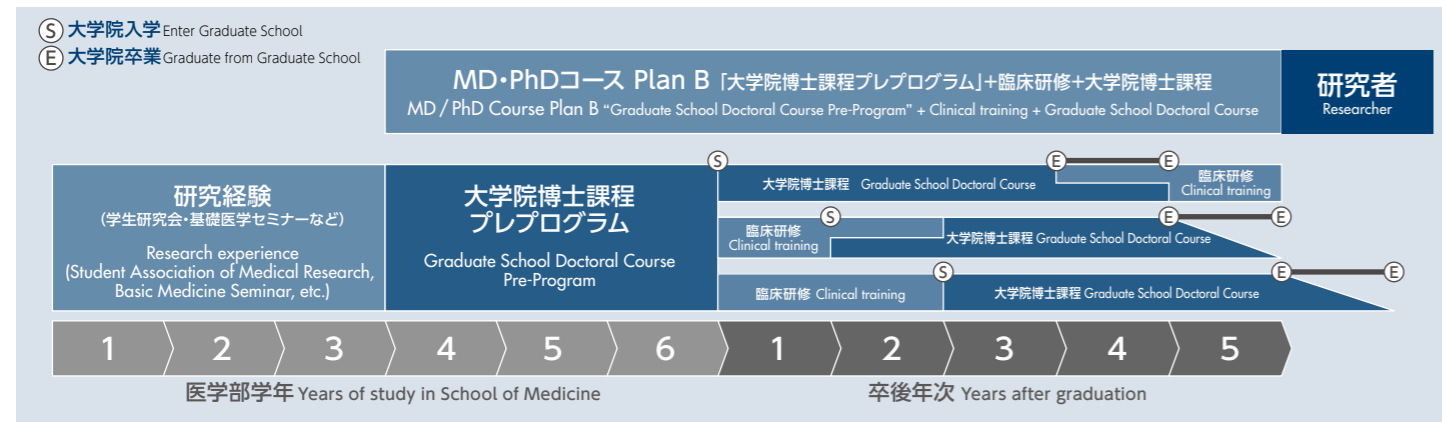


MD・PhDコース PlanB

医学部医学科4年生から卒業後5年間に、臨床研修と大学院博士課程を終えるコース。基礎医学領域又は統合医薬学領域を専攻する。名古屋大学医学部附属病院で研修をする場合は、1年間に社会人大学院生として臨床研修を行うことも可能。

MD / PhD Course Plan B

A course in which the student completes the clinical training and Graduate School Doctoral Program in the period spanning from the 4th year of study in the School of Medicine to 5 years after graduation. The field of specialization is Basic Medicine or Clinical Pharmacology. If the applicant is training at Nagoya University Hospital, 1 year of clinical training may be completed as an on-the-job graduate student.



<h2>寄附講座</h2>	大学院医学系研究科 Graduate School of Medicine
Endowed Chair	

地域医療教育学寄附講座 Department of Education for Community-Oriented Medicine			
設置 Established	平成21年10月1日 October 1, 2009	担当教員 Teacher in charge	宮崎 景 特任教授 MIYAZAKI, Kei

分子循環器医学(興和)寄附講座 Department of Molecular Medicine and Cardiology Endowed Chair:Kowa			
設置 Established	平成30年7月1日 July 1, 2018	担当教員 Teacher in charge	大内 乗有 特任教授 OUCHI, Noriyuki

障害児(者)医療学寄附講座 Department of Developmental Disability Medicine			
設置 Established	平成23年11月1日 November 1, 2011	担当教員 Teacher in charge	夏目 淳 特任教授 NATSUME, Jun

腎不全システム治療学寄附講座 Department of Renal Replacement Therapy			
設置 Established	平成27年2月1日 February 1, 2015	担当教員 Teacher in charge	水野 正司 特任教授 MIZUNO, Masashi

精神医療学寄附講座 Department of Clinical Psychiatry			
設置 Established	平成23年11月1日 November 1, 2011	担当教員 Teacher in charge	稲田 俊也 特任教授 INADA, Toshiya

周術期管理システム構築学寄附講座 Department of Perioperative Management System			
設置 Established	平成27年10月1日 October 1, 2015	担当教員 Teacher in charge	森 厚詞 特任講師 MORI, Atsushi

新規低侵襲画像診断法基盤開発研究寄附講座 Department of Fundamental Development for Advanced Low Invasive Diagnostic Imaging			
設置 Established	平成28年10月1日 October 1, 2016	担当教員 Teacher in charge	竹原 康雄 特任教授 TAKEHARA, Yasuo

四肢外傷学寄附講座 Department of Upper and Lower Limb Traumatology			
設置 Established	平成29年1月1日 January 1, 2017	担当教員 Teacher in charge	建部 将広 特任准教授 TATEBE, Masahiro

先進循環器治療学寄附講座 Department of Advanced Cardiovascular Therapeutics			
設置 Established	平成30年6月1日 June 1, 2018	担当教員 Teacher in charge	柴田 玲 特任教授 SHIBATA, Rei

外科周術期管理学(ヤクルト)寄附講座 Department of Perioperative Medicine			
設置 Established	平成30年10月1日 October 1, 2018	担当教員 Teacher in charge	横山 幸浩 特任教授 YOKOYAMA, Yukihiro

循環器先端医療研究学寄附講座 Department of Cardiovascular Research of Innovation			
設置 Established	令和4年4月1日 April 1, 2022	担当教員 Teacher in charge	辻 幸臣 特任准教授 TSUJI, Yukiomi

産学協同研究講座	大学院医学系研究科 Graduate School of Medicine
Industry-Academia Collaborative Chair	

名古屋大学 メナード協同研究講座 Nagoya University-MENARD Collaborative Research Chair			
設置期間(予定期間) Established	平成25年5月1日～令和8年3月31日 May 1, 2013 ~ March 31, 2026	設置年数 Duration	12年11ヶ月 12years 11months

個別化医療技術開発講座 Personalized Medical Technology			
設置期間(予定期間) Established	平成26年10月1日～令和4年9月30日 October 1, 2014 ~ September 30, 2022	設置年数 Duration	8年 8years

ベルリサーチセンター産婦人科産学協同研究講座 Laboratory of Bell Research Center-Department of Obstetrics and Gynecology Collaborative Research			
設置期間(予定期間) Established	平成26年7月1日～令和6年6月30日 July 1, 2014 ~ June 30, 2024	設置年数 Duration	10年 10years

伊藤忠商事次世代がん治療研究講座 ITOCHU Collaborative Research-Molecular Targeted Cancer Treatment for Next Generation			
設置期間(予定期間) Established	令和元年6月1日～令和4年9月30日 June 1, 2019 ~ September 30, 2022	設置年数 Duration	3年4ヶ月 3years 4months

革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座 Department of Innovative Biomedical Visualization (iBMV)			
設置期間(予定期間) Established	令和元年10月1日～令和6年9月30日 October 1, 2019 ~ September 30, 2024	設置年数 Duration	5年 5years

希少性・難治性がん解析研究講座 Department of Rare/Intractable Cancer Analysis Research			
設置期間(予定期間) Established	令和2年1月6日～令和6年3月31日 January 6, 2020 ~ March 31, 2024	設置年数 Duration	4年2ヶ月 4years 2months

ニューロテック再生医学研究講座 Nagoya University-NEUROTECH Collaborative Regenerative Medicine			
設置期間(予定期間) Established	令和4年4月1日～令和6年3月31日 April 1, 2022 ~ March 31, 2024	設置年数 Duration	2年 2years

(令和4年4月1日現在) (as of April 1, 2022)

産学協同研究センター	大学院医学系研究科 Graduate School of Medicine
Industry-Academia Collaborative Research Center	

ラクオリア創薬産学協同研究センター 薬効解析研究チーム RaQualia Pharma Industry-Academia Collaborative Research Center Team of Pharmacology			
設置期間(予定期間) Established	平成30年4月1日～令和7年3月31日 April 1, 2018 ~ March 31, 2025	設置年数 Duration	7年 7years

*ラクオリア創薬産学協同研究センターは環境医学研究所に設置。医学系研究科は協力部局としてセンター内の薬効解析研究チームを運営。RaQualia Pharma Industry-Academia Collaborative Research Center is established in Research Institute of Environmental Medicine. Graduate School of Medicine operates Team of Pharmacology as cooperating department.

(令和4年4月1日現在) (as of April 1, 2022)

修士課程	大学院医学系研究科 Graduate School of Medicine
Master's Course	

■ 医科学専攻 入学定員 20名

医・歯・獣医学科以外の学部を卒業した上でその分野と医学分野とを融合的に探求しようとする学生に、モデルコースを設定して医学の基礎と応用法を学ばせる専攻。卒業後、技術者・教育者などを目指す、または医学博士課程に進んだ上で教育者・研究者などをを目指すための高度な専門知識・技術を教育する。医科学コース及び公衆衛生コースの2コースを設けている。

■ 医科学専攻 医療行政コース Young Leaders' Program (YLP) 入学定員 10名

Young Leaders' Program (YLP) は、アジア及び東ヨーロッパなどの将来のナショナルリーダーの養成に貢献するとともに、日本に対する理解を深めることを通じて、世界各国指導者層の間にネットワークを創り、日本を含む諸国間の友好関係の構築、政策立案機能の向上に寄与することを目的とするもので、日本政府(文部科学省)の国費外国人留学生制度のひとつである。

YLPには5コースが設けられており、名古屋大学では医療行政コースを担当している。他の4コースは政策研究大学院大学、一橋大学、九州大学において開講されている。

開講時期は10月で修学期間は1年、修了時に「修士」の学位を授与する。講義はすべて英語で行っている。欧米ともアジア諸国とも交流の深い日本の利点を活用して、人的ネットワークを創造できる将来のナショナルリーダー育成にふさわしい多彩なカリキュラムを組んでいる。その例としてあげられるのが、医療行政にかかわりのある各分野の専門家による特別講義、学外研修であり、海外講師による講演もたびたび実施している。YLP医療行政コースのもうひとつの特徴は論文作成に重点を置いていることである。1年という極めて短い期間に修士論文を英語で書きあげ、英文で発行されている国際的ジャーナルに投稿することを学生に求めている。国際的ジャーナルに受理されるレベルの論文を作成することを目標として論文の書き方を体得し、論文のプレゼンテーションを行う能力を養うことができるようにカリキュラムを設定している。修士論文が国際的ジャーナルに受理されれば本人のみならず、名古屋大学・留学生の出身国にとっても、また、情報の共有という観点から見れば、世界的にも貴重な財産となり得る。

本プログラムの修了生たちは、出身国の保健省など医療分野を担当する省庁や、WHO、アジア開発銀行などの国際機関で活躍している。

YLPの対象国は下記の12ヶ国であり、募集は対象国の在外公館を通してのみ行っている(※名古屋大学への直接応募は行っていない)。

■ 対象国 Target countries

カザフスタン Kazakhstan	ミャンマー Myanmar	ベトナム Vietnam
ウズベキスタン Uzbekistan	バングラデシュ Bangladesh	カンボジア Cambodia
キルギス Kyrgyz Republic	ラオス Laos	マレーシア Malaysia
モンゴル Mongolia	タイ Thailand	インドネシア Indonesia

■ Department in Medical Science Admission Capacity 20

This course provides basic medical knowledge and expertise to apply this knowledge to other areas by setting a model course for students who have graduated from undergraduate schools other than medicine, dentistry, or veterinary medicine and desire to pursue those domains and medical fields by blending them together. After completion of the course, some students go on to become engineers and educators, while others further enroll in a doctoral course of Medical Science to become educators or researchers. This course provides highly advanced professional knowledge and skills to both types of students. We have 2 programs under this course, Program in Medical Science and Program in Public Health.

■ Department in Medical Science, Program in Healthcare Administration Young Leaders' Program (YLP) Admission Capacity 10

The Young Leaders' Program (YLP) contributes to establishing a global leadership network by fostering future national leaders in countries in Asia and Eastern Europe and deepening understanding of Japan. It also aims to establish amicable relationships between Japan and other countries and help strengthen policy-making abilities. The program is a government-financed foreign student program under the Japanese government (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology).

We, Nagoya University, provide the course in Healthcare Administration, while the other 4 courses are governed by National Graduate Institute for Policy Studies, Hitotsubashi University, and Kyushu University.

The program begins in October and lasts for 1 year. Students are granted a master's degree upon completion of the program. Lectures are given entirely in English. Making use of Japan's keen relationships with both Western and Asian countries, the program offers a wide curriculum that fits the purpose of the program fostering future national leaders who are capable of establishing personal global networks. For example, special lectures and externships are occasionally provided by professionals with various backgrounds from medical administration, in addition to lectures by overseas lecturers, are occasionally offered.

Another core feature of the YLP is the importance placed on producing a manuscript. The program requires students to produce a master's thesis in English within 1 year and encourages them to publish it in an international English-language journal. The curriculum is designed to cultivate students' ability to produce scientific papers that can be accepted by international journals and give presentations on their studies. Master's theses accepted by international journals become valuable global assets in terms of information sharing—not only for the student but also for Nagoya University and the student's home country.

Many graduates of this program in the past are now playing active roles in ministries in charge of the medical sector in their own countries, or international institutions such as the WHO and Asian Developing Bank. The diagram below shows the 12 participating countries in the YLP. Candidates can apply only through the diplomatic missions stationed in those countries(※ Direct applications to Nagoya University are not accepted).

医学科	医学部 School of Medicine
School of Medicine	

名古屋大学医学部医学科は、豊かな人間性・高い倫理性・科学的論理性をそなえ、創造力に富む医師・医学研究者を養成することを目標とした、6年間一貫教育の学科。

1998年～2000年に行われた大学院医学系研究科の改組を受けて、医学部教員はすべて大学院教員が兼務。高い専門性を持つ医師・研究者でもある大学院教員たちが、医学科学生のために作られた詳細な授業計画(シラバス)に則って、充実した教育を行っている。

The Nagoya University School of Medicine provides a consistent 6-year education with the goal of developing creative doctors and medical researchers with a well-rounded character, high ethical standards, and a scientific mind.

In response to the 1998-2000 reorganization of the Graduate School of Medicine, all teachers in the School of Medicine concurrently serve as teachers in the Graduate School of Medicine. This system provides a well-developed education program according to a detailed teaching scheme. The syllabus is specially designed for students of the School of Medicine by teachers of the Graduate School of Medicine, who are also doctors or researchers with a high degree of professionalism.

カリキュラム | Curriculum

学年	学期	科目
1年生 1st year	前期 1st semester	全学教育科目 (講義・実習・演習) Cross-departmental subjects (lectures, training, practice)
	後期 2nd semester	
2年生 2nd year	前期 1st semester	Academic subjects (science, liberal arts, cross-departmental)
	後期 2nd semester	
3年生 3rd year	前期 1st semester	社会医学 (講義・実習) Social medicine (lectures, training)
	後期 2nd semester	
4年生 4th year	前期 1st semester	社会医学 (講義・実習) Social medicine (lectures, training)
	後期 2nd semester	
5年生 5th year	前期 1st semester	臨床実習 Clinical practice
	後期 2nd semester	
6年生 6th year	前期 1st semester	卒業試験 Final exam
	後期 2nd semester	

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター	附属施設 University facilities
Center for Neurological Diseases and Cancer	平成15年4月1日設置 (Established: April 1, 2003)

神経疾患と悪性腫瘍という、2つの特定領域の医学研究の発展を図るセンター。多角的なアプローチによる発症機序の解明と、それを基盤とする革新的な分子診断・治療法の開発など、社会的要請の強い研究を系統的に推進し、得られた成果を高度先端医療へ橋渡しする、国際的にも存在意義の高い拠点を目指す。

This center facilitates the development of two particular research areas related to neurological disorders and malignancies. Systematically promoting research with a strong social need (e.g. identifying etiologic mechanisms of diseases, creating animal models, and developing new genetic diagnostic methods and molecular-targeted therapies), the center strives to bridge the obtained results and establishes an international presence.

部門 Department	分野 Division	概要 Purpose	担当教員 Teacher in charge
腫瘍病態統御部門 遺伝子変異による発癌機構や 癌細胞の浸潤・転移の分子機構を解明する。 Department of Oncology Clarifies carcinogenic mechanisms due to genetic / epigenetic alterations and molecular mechanisms of invasion / metastasis of carcinoma cells.	分子腫瘍学 Division of Molecular Oncology	ゲノムと RNA の作動原理を統合的に解明し、がんの革新的診断・治療法を開発する。 Comprehensively elucidates the operating principle of genome and RNA and develops innovative diagnosis / treatment methods for cancers.	鈴木 洋 教授 SUZUKI, Hiroshi
	腫瘍生物学 Division of Cancer Biology	細胞の遺伝子制御メカニズムについて解明し、その異常を標的とした新規がん治療法の開発を目指す。 Understands the dynamic regulation of gene expression by epigenetic mechanism and its clinical implications in human cancers to develop novel cancer treatments.	近藤 豊 教授 KONDO, Yutaka
神経疾患病態統御部門 神経細胞の発生・分化及び神経筋疾患の 分子機序に関する研究を行う。 Department of Neuroscience Conducts researches on the generation and differentiation of neurons and the molecular mechanism of neuromuscular disorders.	神経情報薬理学 Division of Neuroscience	神経活動と情動行動・学習の細胞内シグナル、精神疾患病態の分子機構を解明する。 Conducts research for the molecular mechanism underlying emotional behavior, learning, and pathology of psychiatric disorders.	天野 睦紀 准教授 AMANO, Mutsuki
	神経遺伝情報学 Division of Neurogenetics	神経筋接合部の病態分子機構解明と病態制御研究を行うとともに各種神経筋疾患における RNA 代謝の分子機構を解明する。 Clarifies molecular pathomechanisms of defective neuromuscular signal transmission and develops modalities to regulate them, and also elucidates molecular mechanisms of aberrant RNA metabolisms in neuromuscular disorders.	大野 欽司 教授 OHNO, Kinji
先端応用医学部門 悪性腫瘍・神経変性疾患の病態解明、及び 新規診断・治療法の開発などの研究を行う。 Department of Advanced Medical Sciences Investigates pathologic conditions of cancers and neurodegenerative diseases and develops novel diagnostics and therapeutics.	分子病理学 Division of Molecular Pathology	遺伝子改変マウスを用いた個体レベルでの血管新生、神経新生及び発がんの分子機構の研究を行う。 Research on the mechanisms of angiogenesis, neurogenesis and carcinogenesis is conducted at the whole-body level using genetically modified mice.	榎本 篤 教授 ENOMOTO, Atsushi
	機能分子制御学 Division of Molecular Biochemistry	糖鎖機能の理解に基づき、細胞の増殖・分化や細胞死の制御機構を解明し、神経変性疾患や腫瘍などの難病に対する新しい治療法の開発を目指す。 Based on glycan functions, our research aims to understand the regulatory mechanisms of cell proliferation, differentiation, and cell death, and to develop new therapies for intractable diseases such as neurodegenerative disorders and tumors.	岡島 徹也 教授 OKAJIMA, Tetsuya
細胞情報統合解析部門 悪性腫瘍・神経変性疾患の病因解析と応用を目指したオミクス解析とインフォマティクス解析を行う。 Department of Integrative Cellular Informatics Investigates the pathogenesis of cancers and neurodegenerative diseases and aims for translational applications through omics and informatics analyses.	機能再生医学 Division of Functional Regenerative Medicine	神経軸索病態の理解を通じて、神経損傷・神経変性疾患からの機能回復を目指す。 Aims for functional recovery from traumatic axon injury and neurodegenerative diseases through a comprehensive understanding of axonal pathology.	坂元 一真 准教授 SAKAMOTO, Kazuma
	システム生物学 Division of Systems Biology	数理モデルに基づき疾患をシステム的な観点から包括的に捉えるためのデータ解析法を開発する。 Develops methodologies of data analysis for integrative systems understanding of complex diseases based on mathematical modeling.	島村 徹平 教授 SHIMAMURA, Teppei

(令和4年7月1日現在) (as of July 1, 2022)

附属医学教育研究支援センター	附属施設 University facilities
Center for Research of Laboratory Animals and Medical Research Engineering	平成16年5月1日設置 (Established: May 1, 2004)

4部門からなる本センターは、四半世紀以上に設立された実験動物部門と分析機器部門を母体とし、2004年に統合された。研究設備の集約と、技術職員の集中配置によって、高度化・多様化する研究ニーズに対応し、大学院医学系研究科と医学部の教育・研究を広く支援している。

The Laboratory Animals and Medical Research Engineering divisions were established more than a quarter of a century ago. Our Center, which stems from those divisions, was newly launched in 2004 with 4 divisions. To meet the needs of highly advanced and diverse research, the Center integrates both the facilities and the technical staff at a single site and provides a broad range of features and services to support education and research at the Graduate School of Medicine and School of Medicine.

部門 Division	概要 Purpose
実験動物 Division for Research of Laboratory Animals	大学院医学系研究科で必要とされる動物実験を集中的に管理する部門。動物福祉の観点から適正で、なおかつ科学的に評価される動物実験の実施体制を整えている。 This division provides centralized control of the animal experimentation required by the Graduate School of Medicine and University Hospital. This facility has an appropriate system in terms of animal welfare and scientific reliability.
分析機器 Division for Medical Research Engineering	大学院医学系研究科における、各種分析・計測機器の共同利用のための部門。研究室ごとに機器を分散させずに1ヶ所に集中させることで、最先端機器をより有効に活用できる。名古屋大学他学部・学外からも利用可能。 This division is designed to manage the core facility sharing various analytical/measuring instruments in the Graduate School of Medicine. Concentrating instruments in one place instead of having them in each laboratory facilitates more effective use of precious, state-of-the-art equipment. University members other than the school and the people outside the university are also accessible to the facility.
先端領域支援 Division for Advanced Medical Research	将来の基礎系後継者養成を目的とする部門。 This division is designed to foster the next generation of researchers in basic biomedical sciences.
特任研究 Division for Designated Research	大学院医学系研究科における研究・教育の積極的かつ機動的な展開・推進及び充実を図るため、外部からの受け入れ資金を活用して形成する部門。 This division is supported by extramural funds to achieve active and dynamic development, promotion, and reinforcement of research and education at the Graduate School of Medicine.

研究科内措置施設等	附属施設 University facilities
Proprietary units for Graduate School of Medicine	

名称 Name	概要 Purpose	設置年月 Established	担当教員 Teacher in charge
メディカルxRセンター Medical xR Center	xR(VR, AR) 技術の医学・医療分野への応用を实践、研究するセンターである。診療現場をVRで再現するさまざまな設備や機器を備え、手術、救命、血管内治療、超音波・内視鏡検査、看護などの卒前から卒後の診療技術トレーニングが多く行われている。さらに新規導入機器や新入職員に対する機器教育を、医療機器総合管理部や臨床工学技術部と共同で行っている。新たな医療VR技術の開発も重要な使命で、教育や診療支援、さらに機器開発の医工、産学連携の場を目指している。 It is a center for practicing and researching the application of xR (VR, AR) technology to the medical field. We have the great variety of equipment and devices with VR reproducing clinical setting to provide pre/post graduate medical training for surgery, resuscitation, endovascular treatment, ultrasonic and endoscopic examination and also nursing skills. In addition we provide the education on newly introduced devices and basic guidance of medical devices for new employees in collaboration with Department of Medical Equipment and Supplies Management and Department of Clinical Engineering. Development of new medical VR technology is also our important mission, aiming to be a base for medical-engineering and academic-industrial collaboration for not only medical education and clinical support, but also new products development.	平成25年4月1日 April 1, 2013	藤原 道隆 病院教授 FUJIWARA, Michitaka
国際連携室 Office of International Affairs	国際戦略、国際関連業務を担当。提携校を中心とした学術交流、教職員、学生交流、ジョイントディグリープログラムを含む海外との共同教育、GAME、MIRAI、APRU、RENKEI、AC21を含む海外との共同研究推進コンソーシアム、医学英語教育など、医学部・医学系研究科及び医学部附属病院を中心に、学内組織を横断した取り組みを行う。 In charge of global strategy and operations related to international activities. Interdepartmental efforts that mainly involve School of Medicine, Graduate School of Medicine, and University Hospital focus on academic exchange with partner schools and others, teacher-staff-student exchange, joint education (Joint Degree Program, Supervision program), joint research (GAME, MIRAI, APRU, RENKEI, AC21), and Medical English Education.	平成25年5月1日 May 1, 2013	粕谷 英樹 教授 KASUYA, Hideki
卓越大学院・リーディング大学院推進室 Promotion Office for WISE and Leading Graduate Programs	文部科学省による卓越大学院プログラムおよび博士課程教育リーディングプログラムに採択されたプログラムを推進し、産官学にわたりグローバルに活躍することのできる、卓越したリーダーを育成する。 Cultivate power leaders who act and succeed globally in a broad range of integrated fields spanning industry, government, and academia by promoting degree programs adopted by the MEXT' doctoral programs for WISE (World-leading Innovative & Smart Education) and Leading Graduate Schools.	平成26年4月1日 April 1, 2014	木村 宏 研究科長 KIMURA, Hiroshi
医工連携推進室 Promotion Office for Medical Engineering Technologies	超解像共焦点顕微鏡、集束イオンビーム・走査電子顕微鏡、細胞イメージングシステムといった共通機器を置き、最先端の工学と医学が融合する拠点となる。今後、医工の連携を加速化し、メディカルデバイス創製プラットフォームとして機能することを目指す。 Serves as a base for the fusion of cutting-edge engineering and medicine by providing equipment for shared use, including ultra-high-resolution confocal microscopes, focused ion beam/scanning electron microscopes, and cell imaging systems. In the future, the Promotion Office will aim to function as a medical device invention platform through accelerated collaboration between medicine and engineering.	平成26年4月1日 April 1, 2014	木村 宏 研究科長 KIMURA, Hiroshi
食と健康の未来創造センター Food and Health of the Future Creation Center	内外の医療機関、教育研究機関、企業及び本学他研究科等と連携し、基礎研究・応用研究から社会変容に至るまで体系的に未来の食の在り方を研究し、社会貢献に資することを目的とする。 The purpose is to systematically examine the ideal way of food in future from basic research / applied research to social transformation in collaboration with domestic and foreign medical institutions, educational research institutes, companies, and other graduate schools of Nagoya university, and to contribute to society.	令和3年6月1日 July 1, 2021	勝野 雅央 教授 KATSUNO, Masahisa

本研究科との協定機関	大学院医学系研究科 Graduate School of Medicine
Agreement organization with Nagoya University Graduate School of Medicine	

機関名 Institutions	担当客員教員 Visiting Prof.
名城大学 Meijo University	野田 幸裕 客員教授 NODA, Yukihiro 岡本 浩一 客員教授 OKAMOTO, Hirokazu 灘井 雅行 客員教授 NADAI, Masayuki
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 National Institutes of Natural Sciences National Institute for Physiological Sciences	
独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 Pharmaceuticals and Medical Devices Agency	藤原 康宏 客員教授 FUJIWARA, Yasuhiro 宇山 佳明 客員教授 UYAMA, Yoshiaki
大学共同利用機関法人 情報システム研究機構 統計数理研究所 Research Organization of Information and Systems The Institute of Statistical Mathematics	藤澤 洋徳 客員教授 FUJISAWA, Hironori 吉田 亮 客員教授 YOSHIDA, Ryo
ノバルティス ファーマ株式会社 Novartis Pharma K.K.	原 健記 客員教授 HARA, Takeki 廣瀬 徹 客員教授 HIROSE, Toru 大山 尚貢 客員教授 OYAMA, Naotsugu
アステラス製薬株式会社 Astellas Pharma Inc.	

附属総合医学教育センター	附属施設 University facilities
Center for Medical Education	
平成17年8月1日 設置 (Established: August 1, 2005)	

担当教授 錦織 宏 教授
Professor NISHIGORI, Hiroshi

附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センターと一体の組織で、医学部と附属病院のすべての医療職の卒前、卒後、そして生涯教育の統括的役割を担っている。業務は医学科・保健学科の教員支援、附属病院における医科及び歯科研修医の卒後臨床研修の実施と管理、病院職員教育、附属病院及び関連病院の指導医のための講習会開催などからなり、若手医師のキャリア支援も行う。

Our center and the Center for Postgraduate Clinical Training and Career Development work together to provide all medical professionals in the medical school and university hospital with comprehensive guidance throughout their careers, as undergraduates, postgraduates, and in continuing education. The services include support for teachers of the School of Medicine and School of Health Sciences, implementation and administration of postgraduate clinical training for the medical and dental residents in the University Hospital, faculty development of hospital staff, and holding of lectures for the medical instructors in the University Hospital and associated hospitals. The Center also provides career support to young physicians.

名古屋大学附属図書館医学部分館

附属施設
University facilities

Nagoya University Medical Library

鶴舞キャンパスに医学部分館、大幸キャンパスに保健学図書室があり、医学部・医学系研究科の学部生、大学院生、研究者、附属病院の医療関係者を主な利用対象とする。

従来の図書館資料の提供のほかに電子ジャーナル、電子教科書、各種データベースなど新しい電子資料の導入、各種ガイダンスや講習会開催、PCコーナーの設置、Nagoya Journal of Medical Scienceの編集とwebでの公開など、教育・研究の支援サービスを提供している。

医学部分館2階にある医学部史料館では、名古屋大学医学部の歴史を世界の中に位置づけ、将来を展望する場として、医学部及び関連資料を展示・保存し、webでの公開とともに、企画展を開催している。

Nagoya University Medical Library consists of two libraries, the Medical Library on the Tsurumai Campus and the Library of Health Sciences on the Daiko Campus. It serves undergraduates, graduate students, and researchers at the School of Medicine as well as medical professionals from Nagoya University Hospital.

In addition to printed materials, it provides electronic journals, electronic textbooks, and various databases. Tutorials and seminars are also offered to support education and research. The Medical Library helps publish the Nagoya Journal of Medical Science.

The Nagoya University Medical Museum, located on the 2nd floor of the Medical library, provides an overview of the history of the Nagoya University School of Medicine thereby allowing insight into its future. As custodian of medical documents and artifacts of historical significance, the Medical Library hosts historically-themed exhibits and makes its collections publicly accessible through its digitalization project website.

附属図書館医学部分館ホームページ

▶ <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/>

附属図書館医学部分館保健学図書室ホームページ

▶ <https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/itan/>

近代医学の黎明デジタルアーカイブ

▶ <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history/>

Website for Medical Library

▶ https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/index_en.html

Website for Library of Health Sciences

▶ <https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/itan/>

The Dawn of Modern Medical Science Digital Archive

▶ https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history_en/

大幸キャンパス

Daiko Campus

大学院医学系研究科

博士前期課程・博士後期課程

Graduate School of Medicine
Master's / Doctoral Courses (Health Sciences)

医学部 保健学科

School of Medicine
School of Health Sciences

名古屋市東区の名古屋大学大幸キャンパスには、大学院医学系研究科博士前期課程・博士後期課程と医学部保健学科がある。医学科や附属病院と連携しつつ、新しい科学技術を取り入れながら、看護・医療技術・リハビリテーション分野の教育・研究を総合的に推進している。

The Master's/Doctoral Courses (Health Sciences) at the Graduate School of Medicine and the School of Health Sciences are located at the Nagoya University Daiko Campus, Higashi-ku, Nagoya. Incorporating new science and technology with the School of Medicine and the Nagoya University Hospital, the Daiko Campus comprehensively provides education and research in the health care disciplines, in specialties such as nursing, medical technology and rehabilitation.

大学院医学系研究科
博士前期課程・博士後期課程
Graduate School of Medicine Master's / Doctoral Courses (Health Sciences) 32

医学部 保健学科
School of Medicine School of Health Sciences 34

博士前期課程・博士後期課程

大学院医学系研究科
Graduate School of
Medicine

Master's / Doctoral Courses (Health Sciences)

総合保健学専攻

入学定員 [前期課程]70名 [後期課程]20名

次世代の情報社会の中で保健学領域を牽引する人材を輩出することを目的とする。3つの医療専門領域の学位(看護学、医療技術学、リハビリテーション療法学)コースを設け、それぞれの専門性を生かしつつ国際性と医療情報科学の研究技術を有する次世代のヘルスケアサイエンティストを育成し世界と伍する研究を推進する。

【学位コース】

看護学:高度化する医療に対応し、高い倫理観を有し包括的な患者家族支援を展開できる看護専門職のリーダー/変革者となる人材、多様化する保健医療において新しい看護学の創造に挑戦する研究・教育者の育成を目指す。

医療技術学:生体情報取得技術、診断技術、病態解析技術、治療技術などのライフイノベーションに繋がる専門技術の研究開発を目指し、高度化する医療技術を医療現場で創造的に活用できる研究者と医学物理士を含む指導的な高度専門職業人の育成を図る。

リハビリテーション療法学:現代の高齢社会の中で患者家族の疾病管理・生活支援を推進する理学療法・作業療法を開発推進する高度の専門知識を有する指導的研究・教育者の育成を図り、新しい理学療法・作業療法の分野を開拓創造する。

Department of Integrated Health Sciences

Admission Capacity [Master's Courses] 70 [Doctoral Courses] 20

Our mission is produce human resources, who will lead the field of health sciences in the next-generation informatics society. We have three master and doctor degree specialization courses (Nursing, Radiological and Medical Laboratory Sciences, Physical and Occupational Therapy). We will develop next-generation health-care-scientists, who have internationality and knowledges of medical informatics. Students will promote researches that compete internationally, making full use of their respective specialties.

【Master and Doctor Courses】

Nursing: Respecting the dignity of human being, this course cultivates healthcare professionals with outstanding specialist capabilities. Further, the course strives to foster creative and inquisitive researchers / educators to formulate theory driven, evidence-based nursing.

Radiological and Medical Laboratory Sciences: This program is primarily concerned with cultivating researchers and educators by approaching and understanding information on the human body from both macro and micro perspectives, in addition to developing professionals with advanced specialist capabilities such as medical physicists.

Physical and Occupational Therapy: The program is designed to develop researchers and professionals with highly advanced skills who can sufficiently respond to ever-changing medical situations. The program aims to establish a diverse and vital education system (e.g. collaboration between various clinical practices and areas of study) to define new fields of inquiry.

部門	Division	担当教授	Professor
看護科学 Nursing Sciences	看護システム・ケア開発学 Nursing for Fundamentals and care system	玉腰 浩司 教授 本田 育美 教授	TAMAKOSHI, Koji HONDA, Ikumi
	高度実践看護開発学 Nursing for Advanced Practice		
	次世代育成看護学 Nursing for Next Generation	浅野 みどり 教授 入山 茂美 教授	ASANO, Midori IRIYAMA, Shigemi
	地域包括ケア開発看護学 Nursing for Community-based Integrated Care	林 登志雄 教授 西谷 直子 教授	HAYASHI, Toshio NISHITANI, Naoko
バイオメディカルイメージング情報科学 Biomedical Imaging Sciences	医用画像工学 Medical Imaging Engineering		
	医用画像解析学 Medical Imaging Analysis	今井 國治 教授	IMAI, Kuniharu
	医用量子科学 Medical Quantum Science		
	医用機能画像評価学 Functional Medical Imaging	加藤 克彦 教授 古川 高子 教授	KATO, Katsuhiko FURUKAWA, Takako
	生体機能科学 Biofunctional Sciences	亀高 諭 教授 杉浦 英志 教授	KAMETAKA, Satoshi SUGIURA, Hideshi

部門	Division	担当教授	Professor
オミックス医療科学 Omics Health Sciences	生体防御情報科学 Host Defense Sciences	川部 勤 教授 佐藤 光夫 教授	KAWABE, Tsutomu SATO, Mitsuo
	病態情報科学 Pathophysiology Sciences	永田 浩三 教授	NAGATA, Kohzo
	細胞遺伝子情報科学 Cellular and Genetic Sciences	早川 文彦 教授	HAYAKAWA, Fumihiko
	生体分子情報科学 Biomolecular Sciences	石川 哲也 教授	ISHIKAWA, Tetsuya
予防・リハビリテーション科学 Prevention & Rehabilitation Sciences	創生理学療法学 Creative Physical Therapy	内山 靖 教授	UCHIYAMA, Yasushi
	作業療法科学 Occupational Therapy Sciences	千島 亮 教授 寶珠山 稔 教授	CHISHIMA, Makoto HOSHIYAMA, Minoru
ヘルスケア情報科学 Healthcare Informatics	先端メディア情報健康医療学 Interactive Medical and Healthcare Systems		
	生命人間情報健康医療学 Biomedical and Health Informatics		
	実社会情報健康医療学 Public Health Informatics		
	先端計測情報健康医療学 Translational Biomedical Intelligent Systems		
脳とこころの研究センター基盤整備部門(※協力講座)		磯田 治夫 教授 飯高 哲也 教授	ISODA, Haruo IIDAKA, Tetsuya

保健学科	医学部 School of Medicine
School of Health Sciences	

医療技術科学を学問領域として確立し、その科学・技術・実践技術を教育・研究し、幅広い基礎と高度な専門知識及び問題解決能力、人間性豊かな資質を備えた医療技術者・教育者・研究者を育成することを目指す。5専攻を有し、基礎から専門まで4年間一貫教育を行う。

The purpose of the School includes the development of medical service providers, educators, and researchers with a broad range of basic knowledge and sophisticated expertise, an outstanding ability to solve problems, as well as a wealthy sense of humanity. This purpose is pursued by establishing medical technology science as a field of science, with special emphasis on educational and research aspects of such field. The course consists of 5 departments, providing a 4-year integrated education from basic to professional disciplines.

組織 | Organization |

看護学専攻 Department of Nursing	入学定員 Admission Capacity	80
-------------------------------	---------------------------	----

看護学専攻は、「人間・環境・健康・看護」について学習し、科学的な看護実践を推進できる看護師、保健師及び教育・研究者の育成を目的とする。

The Department of Nursing aims to prepare nurses, public health nurses, and educators/researchers who facilitate scientific nursing practice through studies about person, environment, health and nursing.

放射線技術科学専攻 Department of Radiological Technology	入学定員 Admission Capacity	40
---	---------------------------	----

放射線技術科学専攻は、急速に進歩する画像診断・放射線治療の現状に対応できる診療放射線技師を育成するとともに、専門領域の教育・研究者の育成を目的とする。

The Department of Radiological Technology trains radiological technologists who can meet the current situation of diagnostic imaging and radiation therapy which is rapidly progressing, as well as educators and researchers in this specific field.

検査技術科学専攻 Department of Medical Technology	入学定員 Admission Capacity	40
---	---------------------------	----

検査技術科学専攻は、最新の検査に関する知識と技術を基礎にした問題解決能力を備えた臨床検査技師を育成するとともに、専門領域の教育・研究者の育成を目的とする。

The purpose of the Department of Medical Technology is to develop clinical laboratory technologists with problem-solving skills based on knowledge and techniques related to the latest testing methods, and to nurture educators and researchers in this specific field.

理学療法学専攻 Department of Physical Therapy	入学定員 Admission Capacity	20
--	---------------------------	----

理学療法学専攻は、人の尊厳、障害の予防・回復、チーム医療、理学療法学の基礎構築、など幅広い知識と教養を身につけ、次代の医療・保健・福祉全般に貢献でき指導的役割を担うことができる理学療法士の育成を目的とする。

The purpose of the Department of Physical Therapy is to acquire a broad range of knowledge and culture related to human dignity, prophylaxis and recovery of impairments, team medicine, establishment of the basis of physical therapy and so forth. We also aim to train physical therapists who can contribute to and demonstrate leadership in the whole range of medical care, health and welfare of the next generation.

作業療法学専攻 Department of Occupational Therapy	入学定員 Admission Capacity	20
--	---------------------------	----

作業療法学専攻は、生命の倫理に基づき対象者を理解し支援できる豊かな人間性と科学性を身につけ、探究心のある国際人として活動できる人材の養成を目的とする。

The purpose of the Department of Occupational Therapy is to train individuals to grow a matured humanity and scientific mind, based on bioethics, that enables them to understand and support the clients. The Department of Occupational Therapy is also committed to training individuals to be able to work actively in an international setting with an inquiring mind.

資料

Data

沿革 History	36
歴代医学部長 Past deans	38
役職員 Executives	39
機構図 Organization chart	40
事務部機構図 Organization chart of Administration Office	41
職員数 Number of staffs	42
学生定員及び現員 Number of students	42
大学院医学系研究科修了者数 Number of Graduate School of Medicine graduates	44
医学部卒業生数 Number of School of Medicine graduates	45
学位(医学博士)授与者数 Number of students granted doctorates (MDs)	45
外国人留学生・外国人研究者等 Number of foreign students / researchers and the like	46
国際交流協定による派遣学生数及び受入学生数 Number of students sent out / accepted under international exchange agreements	47
医学部・医学系研究科からの国別海外留学生数 Number of students studying abroad by country / region	47
名古屋大学附属図書館医学部分館(保健学図書室を含む) Nagoya University Medical Library (including Library of Health Sciences)	48
メディカルxRセンターの使用状況 Use survey of Nagoya University Medical xR Center	48
解剖体数 Number of necrotomies	48
産学官連携に関するデータ 知的財産／共同研究・受託研究 Data on government-industrial-academic collaboration: intellectual property, collaborative / funded research	49
科学研究費補助金の状況 Summary of Grant-in-Aid for Scientific Research	50
ニュースリリース News release	51
鶴舞公開講座 Extension courses at Tsurumai Campus	68

沿革

History	
年月	事項
明治4年	5月 名古屋藩評定所跡(現中区丸の内三丁目1)に公立の仮病院(明治5年閉院)及び元町役所に仮医学校(明治5年廃校)設置
明治5年	4月 廃藩により有志きよ金で義病院として経営(明治6年閉院)
明治6年	5月 県民きよ金で仮病院(西本願寺別院、現中区門前町1)として経営 <p>11月 医学講習場(西本願寺別院)設置</p>
明治8年	1月 愛知県病院と改称
明治9年	4月 公立医学講習場及び公立病院と改称 <p>6月 公立医学所と改称</p>
明治10年	7月 天王崎町(現中区栄一丁目17~18番地)に移転(7月1日病院開院式)
明治11年	4月 公立医学校と改称
明治14年	10月 愛知医学校及び愛知病院と改称
明治34年	8月 愛知医学校は愛知県立医学校と改称
明治36年	7月 愛知県立医学校は愛知県立医学専門学校として新発足
大正3年	3月 中区(現昭和区)鶴舞町に新築、移転
大正9年	7月 愛知医科大学に昇格
大正11年	7月 愛知病院を愛知医科大学病院と改称
大正13年	6月 愛知医科大学病院を愛知医科大学附属医院と改称
昭和6年	5月 官立移管 名古屋医科大学・名古屋医科大学附属医院となる
昭和14年	4月 名古屋帝国大学医学部の発足・名古屋帝国大学医学部附属病院と改称 <p>5月 名古屋帝国大学臨時附属医学専門部の設置(昭和24年廃止)</p>
昭和18年	2月 名古屋帝国大学航空医学研究所の設置(昭和21年廃止)
昭和19年	4月 名古屋帝国大学附属医学専門部と改称 <p>7月 名古屋帝国大学医学部附属病院分院の設置(平成8年本院へ統合一元化)</p>
昭和21年	4月 名古屋帝国大学環境医学研究所を設置
昭和22年	10月 名古屋大学医学部・名古屋大学医学部附属医院となる <p>名古屋大学附属医学専門部と改称(昭和25年廃止)</p>
昭和24年	5月 新制名古屋大学が発足 <p>名古屋大学医学部・名古屋大学医学部附属病院となる</p>
昭和26年	4月 医学部附属看護学校設置(昭和55年廃校)
昭和30年	7月 医学部附属診療エックス線技師学校設置
昭和34年	4月 医学部附属助産婦学校設置(昭和56年廃校) <p>医学部附属無菌動物研究施設設置(昭和58年改組)</p>
昭和36年	4月 医学部附属衛生検査技師学校設置
昭和37年	4月 医学部附属癌研究施設設置(昭和58年改組)
昭和40年	4月 医学部附属医真菌研究施設設置(昭和58年改組)
昭和41年	4月 医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科設置

年月	事項
昭和44年	4月 医学部附属診療放射線技師学校と改称(昭和57年廃校)
昭和47年	4月 医学部附属臨床検査技師学校と改称(昭和56年廃校)
昭和52年	10月 名古屋大学医療技術短期大学部設置(平成13年改組)
昭和58年	4月 医学部附属病態制御研究施設設置
昭和61年	3月 医学部附属動物実験施設設置
平成8年	5月 医学部附属病院分院を統合 <p>12月 診療所「名古屋大学大幸医療センター」設置(平成23年閉院)</p>
平成9年	10月 医学部保健学科設置
平成12年	4月 医学部の大学院重点化完成
平成13年	4月 医学研究科修士課程医科学専攻設置 <p>医学部附属病態制御研究施設(平成15年改組)と医学部附属動物実験施設(平成16年改組)の所属を大学院医学研究科に変更</p>
平成14年	4月 医学研究科を医学系研究科に改称し、医学系研究科に修士課程看護学専攻、修士課程医療技術学専攻及び修士課程リハビリテーション療法学専攻設置 <p>医学部附属病院遺伝子・再生医療センター設置(平成22年改組)</p>
平成15年	4月 医学系研究科附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター設置 <p>医学系研究科に修士課程医科学専攻医療行政コース設置</p>
平成16年	4月 医学系研究科修士課程看護学専攻、修士課程医療技術学専攻及び修士課程リハビリテーション療法学は博士課程(前期課程・後期課程)となる <p>5月 医学系研究科附属医学教育研究支援センター設置</p>
平成17年	7月 医学部附属総合医学教育センター設置
平成20年	2月 医学部附属病院臨床研究推進センター設置(平成22年改組)
平成22年	6月 医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター設置(平成30年先端医療開発部に改組)
平成23年	10月 脳とこころの研究センター設置(平成26年改組)
平成24年	4月 医学部保健学科の大学院講座化
平成25年	4月 医学系研究科附属クリニカルシミュレーションセンター設置(令和2年メディカルxRセンターに改組) <p>医学系研究科の4専攻を総合医学専攻として再編、基礎医学、臨床医学、統合医薬学の3領域を設置</p>
平成27年	10月 医学系研究科に名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻を設置
平成29年	4月 医学系研究科に名古屋大学・ Lund大学国際連携総合医学専攻を設置 <p>医学系研究科に修士課程医科学専攻公衆衛生コース設置</p>
平成30年	10月 医学系研究科に名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻を設置
令和2年	4月 医学系研究科の3専攻を再編し、総合保健学専攻を設置

Year	Event
1871	A temporary public hospital (closed in 1872) was established at the former site of the Nagoya Clan's judicial council (currently 1, Marunouchi 3-chome, Naka-ku), and a temporary medical school was established at a former town hall (abolished in 1872).
1872	Managed as a Alms Clinic based on donations, accompanying the abolition of the clan (closed in 1873).
1873	Managed as a temporary hospital with prefectural citizens' donations (at the separate temple of Nishi Honganji Temple; currently 1, Monzencho, Naka-ku). A medical training school was established (at the separate temple of Nishi Honganji Temple).
1875	The name was changed to Aichi Prefecture Hospital.
1876	The name was changed to Public Medical Training School and Public Hospital. The name was changed to Public Medical Center.
1877	The Center was relocated to Tennosaki-cho (currently 17 and 18, Sakae 1-chome, Naka-ku) (hospital opening ceremony on July 1).
1878	The name was changed to Public Medical School.
1881	The name was changed to Aichi Medical School and Aichi Hospital.
1901	The name Aichi Medical School was changed to Aichi Prefectural Medical School.
1903	Aichi Prefectural Medical School was newly started as Aichi Prefectural Medical College.
1914	A new building was built in Tsurumai-cho, Naka-ku (currently Showa-ku) and the school was relocated.
1920	Promoted to Aichi Medical College status.
1922	The name of Aichi Hospital was changed to Aichi Medical College Hospital.
1924	The name was changed to Aichi Medical College Affiliated Hospital.
1931	The jurisdiction was transferred; the names were respectively changed to Nagoya Medical College and Nagoya Medical College Affiliated Hospital.
1939	Nagoya Imperial University School of Medicine was started, and the name of the hospital was changed to Nagoya Imperial University School of Medicine-Affiliated Hospital. Nagoya Imperial University Provisional Affiliated Medical Division was established (abolished in 1949).
1943	Nagoya Imperial University Aviation Medicine Research Institute was established (abolished in 1946).
1944	The name was changed to Nagoya Imperial University Affiliated Medical Division.
1946	A separate hospital of Nagoya Imperial University School of Medicine-Affiliated Hospital was established (integrated to the main Hospital in 1996).
1946	Nagoya Imperial University Research Institute of Environmental Medicine was established.
1947	The names were respectively changed to Nagoya University School of Medicine and Nagoya University School of Medicine-Affiliated Hospital. The name was changed to Nagoya University Affiliated Medical Division (abolished in 1950).
1949	The New Nagoya University was started. The names were respectively changed and Nagoya University School of Medicine and Nagoya University Hospital were started.
1951	School of Medicine-Affiliated Nursing School was established (abolished in 1980).
1955	School of Medicine-Affiliated X-ray Technician School was established.
1959	School of Medicine-Affiliated Midwife School was established (abolished in 1981). School of Medicine-Affiliated Axenic Animal Research Facility was established (reorganized in 1983).
1961	School of Medicine-Affiliated Health Laboratory Technician School was established.
1962	School of Medicine-Affiliated Cancer Research Facility was established (reorganized in 1983).
1965	School of Medicine-Affiliated Medical Fungus Research Facility was established (reorganized in 1983).
1966	Honors courses were set up at the School of Medicine-Affiliated X-ray Technician School.

Year	Event
1969	The name was changed to the School of Medicine-Affiliated Radiological Technician School (abolished in 1982).
1972	The name was changed to the School of Medicine-Affiliated Clinical Laboratory Technician School (abolished in 1981).
1977	Nagoya University Medical Technology Junior College was established (reorganized in 2001).
1983	School of Medicine-Affiliated Pathological Control Research Facility was established.
1986	The School of Medicine-Affiliated Experimental Animals Facility was established.
1996	The separate hospital of the School of Medicine-Affiliated Hospital was integrated. Clinic"Nagoya University Daiko Medical Center"was established (closed in 2011).
1997	Nagoya University School of Health Sciences was established.
2000	Prioritization of the Nagoya University Graduate School of Medicine was completed.
2001	Program in Medical Science, Master's Course, Graduate School of Medicine was established. The School of Medicine-Affiliated Pathological Control Research Institute (recognized in 2003) and the School of Medicine-Affiliated Experimental Animals Facility (recognized in 2004) were placed under the Graduate School of Medicine.
2002	Program in Nursing, Master's Course; Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences, Master's Course; and Program in Physical and Occupational Therapy, Master's Course were established at the Graduate School of Medicine. The Center for Genetic and Regenerative Medicine was established at the University Hospital (reorganized in 2010).
2003	The Center for Neurological Diseases and Cancer, Affiliated with the Graduate School of Medicine was established. Program in Medical Science, Healthcare Administration Course, Master's Course was established at the Graduate School of Medicine.
2004	Program in Nursing, Master's Course; Program in Radiological and Medical Laboratory Sciences, Master's Course; and Program in Physical and Occupational Therapy, Master's Course at the Graduate School of Medicine were placed under Doctoral Course (first-stage course / second-stage course). The Graduate School of Medicine-Affiliated Center for Research of Laboratory Animals and Medical Research Engineering was established.
2005	The School of Medicine-Affiliated Center for Medical Education was established.
2008	The Center for Clinical Trial and of Clinical Research was established at the University Hospital (reorganized in 2010).
2010	Center for Advanced Medicine and Clinical Research was established at the University hospital. (reorganized to Department of Advanced Medicine in 2018)
2011	Brain and Mind Research Center was established (reorganized in 2014).
2012	Curriculum of School of Medicine, School of Health Sciences shifted to the department system.
2013	Nagoya University Clinical Simulation Center was established at the Graduate School of Medicine. (reorganized to Medical xR Center in 2020) Four departments in the Graduate School of Medicine were reorganized into the Department in Integrated Medicine, in which three divisions were established. They are the Division of Basic Medicine, the Division of Clinical Medicine, and the Division of Clinical Pharmacology.
2015	International Collaborative Program in Comprehensive Medical Science between Nagoya University and the University of Adelaide was established in the Graduate School of Medicine.
2017	International Collaborative Program in Comprehensive Medical Science between Nagoya University and Lund University was established in the Graduate School of Medicine. Program in Medical Science, Public Health Course, Master's Course was established at the Graduate School of Medicine.
2018	International Collaborative Program in Comprehensive Medical Science between Nagoya University and University of Freiburg was established in the Graduate School of Medicine.
2020	Three departments in the Graduate School of Medicine were reorganized into the Department of Integrated Health Sciences.

歴代医学部長

Past deans

田村 春吉	TAMURA, Harukichi	昭和14年 4月 1日 ~ 昭和21年 1月31日	April 1, 1939 – January 31, 1946
田村 春吉	TAMURA, Harukichi	昭和21年 1月31日 ~ 昭和21年 2月 9日*	January 31, 1946 – February 9, 1946*
戸苅 近太郎	TOGARI, Chikataro	昭和21年 2月 9日 ~ 昭和27年 2月 9日	February 9, 1946 – February 9, 1952
久野 寧	KUNO, Yasu	昭和27年 2月 9日 ~ 昭和29年 3月31日	February 9, 1952 – March 31, 1954
戸苅 近太郎	TOGARI, Chikataro	昭和29年 4月 1日 ~ 昭和33年 3月31日	April 1, 1954 – March 31, 1958
山田 和麻呂	YAMADA, Kazumaro	昭和33年 4月 1日 ~ 昭和35年 3月31日	April 1, 1958 – March 31, 1960
村松 常雄	MURAMATSU, Tsuneo	昭和35年 4月 1日 ~ 昭和37年 3月31日	April 1, 1960 – March 31, 1962
神田 善吾	KANDA, Zengo	昭和37年 4月 1日 ~ 昭和39年 3月31日	April 1, 1962 – March 31, 1964
橋本 義雄	HASHIMOTO, Yoshio	昭和39年 4月 1日 ~ 昭和41年 3月31日	April 1, 1964 – March 31, 1966
小笠原 一夫	OGASAWARA, Kazuo	昭和41年 4月 1日 ~ 昭和42年10月20日	April 1, 1966 – October 20, 1967
小嶋 克	KOJIMA, Koku	昭和42年10月20日 ~ 昭和44年 3月31日*	October 20, 1967 – March 31, 1969*
高木 健太郎	TAKAGI, Kentaro	昭和44年 4月 1日 ~ 昭和47年 4月 1日*	April 1, 1969 – April 1, 1972*
石塚 直隆	ISHIZUKA, Naotaka	昭和47年 4月 1日 ~ 昭和49年 3月31日	April 1, 1972 – March 31, 1974
田内 久	TAUCHI, Hisashi	昭和49年 4月 1日 ~ 昭和51年 3月31日	April 1, 1974 – March 31, 1976
加藤 延夫	KATO, Nobuo	昭和51年 4月 1日 ~ 昭和53年 3月31日	April 1, 1976 – March 31, 1978
祖父江 逸郎	SOBUE, Itsuro	昭和53年 4月 1日 ~ 昭和55年 3月31日	April 1, 1978 – March 31, 1980
飯島 宗一	IJIMA, Soichi	昭和55年 4月 1日 ~ 昭和56年 7月21日	April 1, 1980 – July 21, 1981
加藤 延夫	KATO, Nobuo	昭和56年 7月22日 ~ 昭和60年 7月21日	July 22, 1981 – July 21, 1985
佐久間 貞行	SAKUMA, Sadayuki	昭和60年 7月22日 ~ 昭和62年 7月21日	July 22, 1985 – July 21, 1987
青木 國雄	AOKI, Kunio	昭和62年 7月22日 ~ 平成元年 7月21日	July 22, 1987 – July 21, 1989
永津 俊治	NAGATSU, Toshiharu	平成元年 7月22日 ~ 平成 3年 7月21日	July 22, 1989 – July 21, 1991
齋藤 英彦	SAITO, Hidehiko	平成 3年 7月22日 ~ 平成 7年 7月21日	July 22, 1991 – July 21, 1995
粟屋 忍	AWAYA, Shinobu	平成 7年 7月22日 ~ 平成 9年 3月31日	July 22, 1995 – March 31, 1997
中島 泉	NAKASHIMA, Izumi	平成 9年 4月 1日 ~ 平成11年 3月31日	April 1, 1997 – March 31, 1999
勝又 義直	KATSUMATA, Yoshinao	平成11年 4月 1日 ~ 平成15年 3月31日	April 1, 1999 – March 31, 2003
杉浦 康夫	SUGIURA, Yasuo	平成15年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日	April 1, 2003 – March 31, 2005
濱口 道成	HAMAGUCHI, Michinari	平成17年 4月 1日 ~ 平成21年 3月31日	April 1, 2005 – March 31, 2009
祖父江 元	SOBUE, Gen	平成21年 4月 1日 ~ 平成24年 3月31日	April 1, 2009 – March 31, 2012
高橋 雅英	TAKAHASHI, Masahide	平成24年 4月 1日 ~ 平成29年 3月31日	April 1, 2012 – March 31, 2017
門松 健治	KADOMATSU, Kenji	平成29年 4月 1日 ~ 令和 4年 3月31日	April 1, 2017 – March 31, 2022
木村 宏	KIMURA, Hiroshi	令和 4年 4月 1日 ~	April 1, 2022 –

*事務取扱
*by clerical reasons

役職員

Executives

大学院医学系研究科 | Graduate School of Medicine

医学系研究科長	Dean of Graduate School of Medicine	木村 宏 教授*	KIMURA, Hiroshi*
副研究科長(学部教育担当)	Vice-Dean for Medical Education	八谷 寛 教授	YATSUYA, Hiroshi
副研究科長(大学院教育担当)	Vice-Dean for Graduate School Education	木山 博資 教授	KIYAMA, Hiroshi
副研究科長(評価・国際交流担当)	Vice-Dean for Evaluation and International Affairs	粕谷 英樹 教授	KASUYA, Hideki
副研究科長(研究担当)	Vice-Dean for Research	近藤 豊 教授	KONDO, Yutaka
副研究科長(産学官連携担当)	Vice-Dean for Future Plans	勝野 雅央 教授	KATSUNO, Masahisa
副研究科長(人事・労働環境担当)	Vice-Dean for Personnel Affairs and Labor Environment	秋山 真志 教授	AKIYAMA, Masashi
副研究科長(大幸地区担当)	Vice-Dean for School of Health Sciences	寶珠山 稔 教授	HOSHIYAMA, Minoru

医学部 | School of Medicine

医学部長	Dean of School of Medicine	木村 宏 教授*	KIMURA, Hiroshi*
医学科長	Head of School of Medicine	木村 宏 教授*	KIMURA, Hiroshi*
病院長	Director of University Hospital	小寺 泰弘 教授*	KODERA, Yasuhiro*
保健学科長	Head of School of Health Sciences	寶珠山 稔 教授	HOSHIYAMA, Minoru

その他の施設 | Other Facilities

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター長	Director of Center for Neurological Diseases and Cancer	近藤 豊 教授	KONDO, Yutaka
附属医学教育研究支援センター長	Director of Center for Research of Laboratory Animals and Medical Research Engineering	大野 欽司 教授	OHNO, Kinji
名古屋大学附属図書館医学部分館長	Director of Nagoya University Medical Library	豊國 伸哉 教授	TOYOKUNI, Shinya
アイソトープ総合センター分館長	Director of Radioisotope Research Center Medical Division	長縄 慎二 教授	NAGANAWA, Shinji

事務部 | Administration Office

事務部長	Director	藤江 進	FUJIE, Susumu
事務部次長	Assistant Director	平松 利朗	HIRAMATSU, Toshiaki
総務課長	Manager, General Affairs Division	正木 純一	MASAKI, Junichi
人事労務課長	Manager, Personnel Affairs & Labor Division	柳田 英輝	YANAGITA, Hideki
学務課長	Manager, Student Affairs Division	伊藤 嘉奈子	ITO, Kanako
経営企画課長	Manager, Management Planning Division	加納 典雄	KANO, Norio
経理課長	Manager, Accounting Division	高井 真治	TAKAI, Shinji
施設管理担当課長	Manager, Facilities Control Group	石原 光博	ISHIHARA, Mitsuhiro
医事課長	Manager, Medical Affairs Division	土屋 有司	TUTIYA, Yuusi
大幸地区事務統括室長	Office Manager, Daiko Campus General Administration Office	箕浦 績	MINOURA, Isao

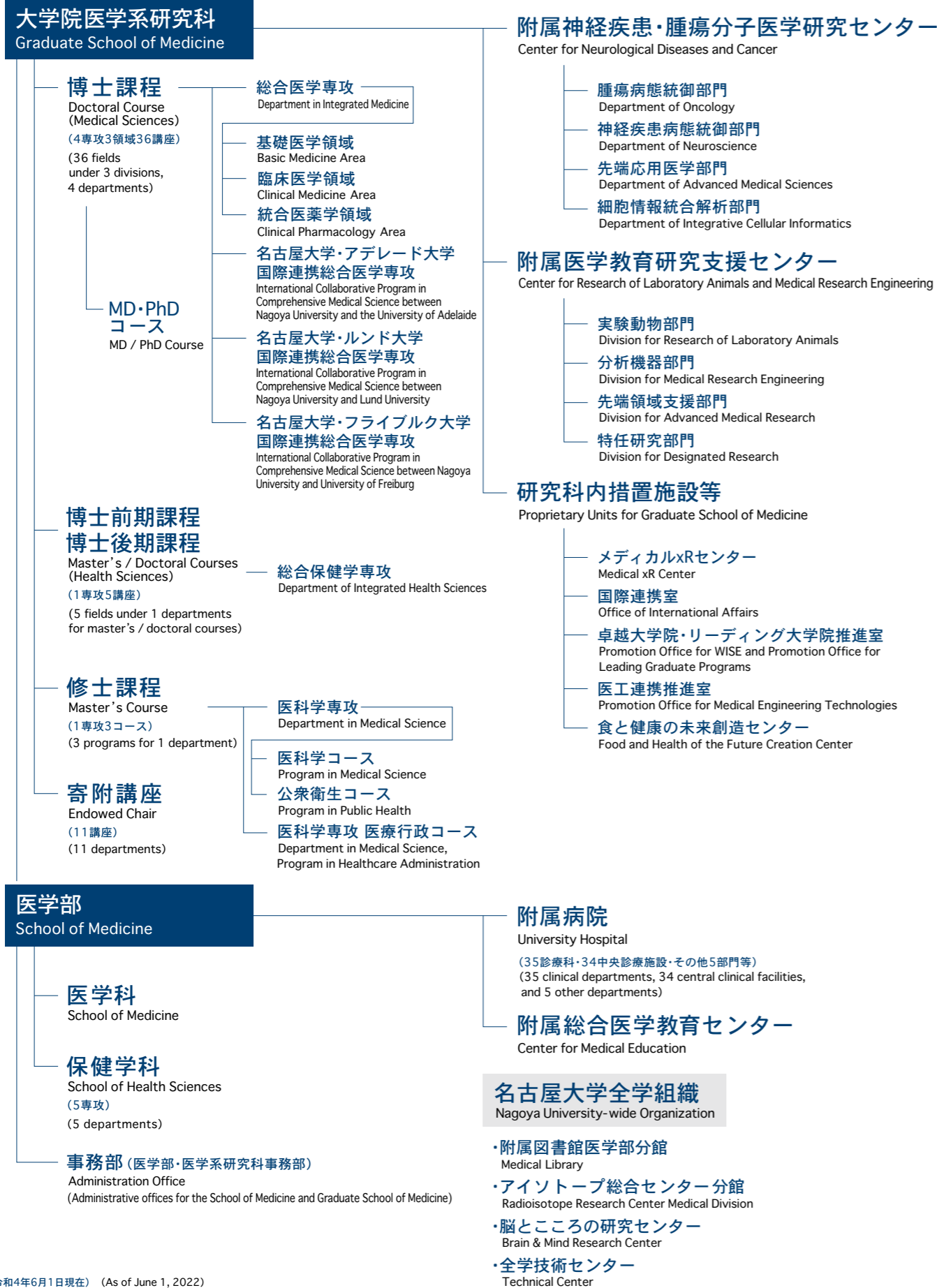
*名古屋大学教育研究評議会評議員を示す

*Professors marked with an asterisk are members of the Nagoya University Education and Research Council

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

機構図

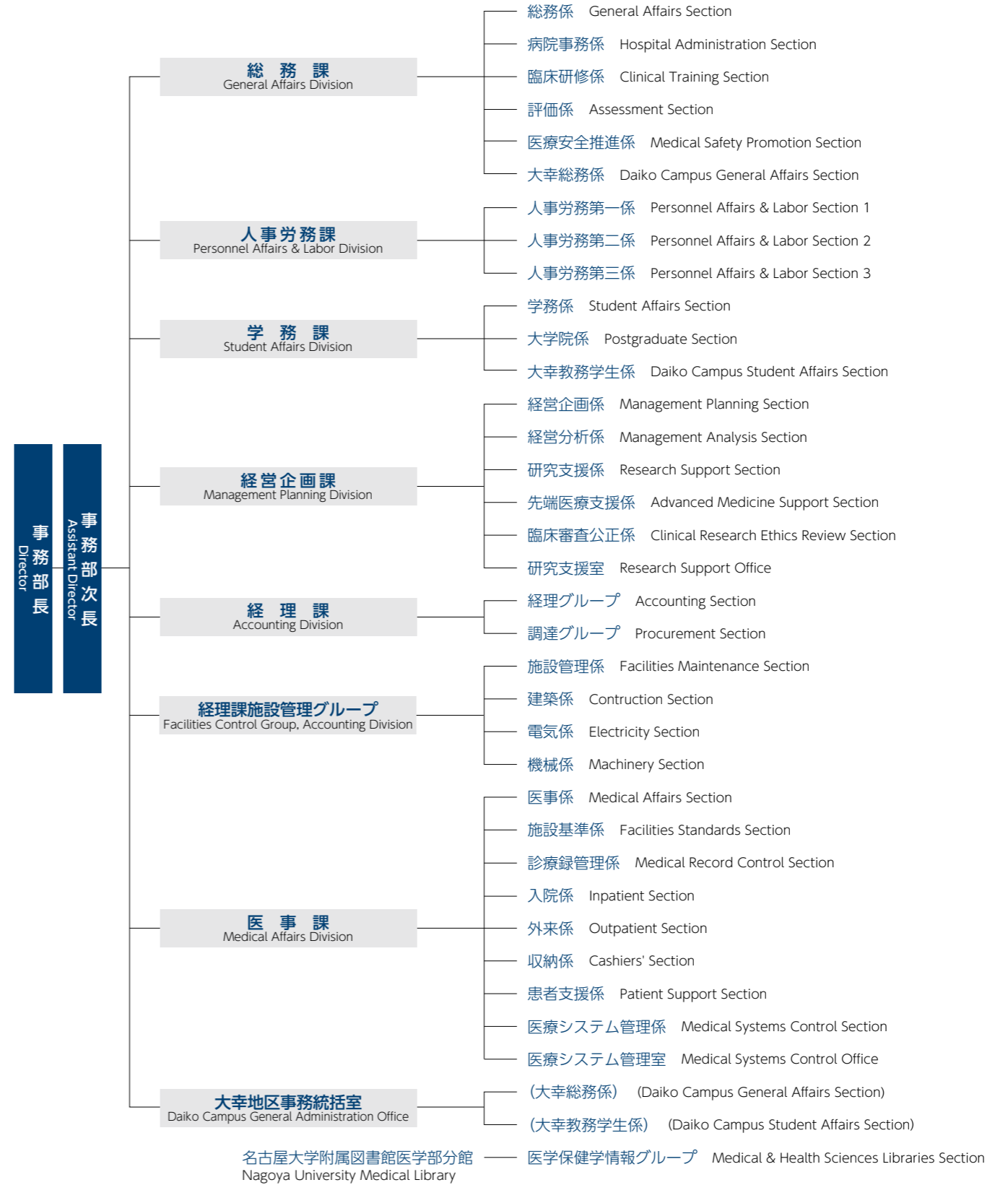
Organization chart



(令和4年6月1日現在) (As of June 1, 2022)

事務部機構図

Organization chart of Administration Office



(令和4年4月1日現在) (As of April 1, 2022)

職員数

Number of staffs

区分 Title	大学院医学系研究科(鶴舞地区) Graduate School of Medicine (Tsurumai Campus)	大学院医学系研究科(大幸地区) Graduate School of Medicine (Daiko Campus)	現員 Number of students		
			男 Male	女 Female	合計 Total
教職員 Faculty	教授 Professor	48 (11)	19 (0)		
	准教授 Associate Professor	46 (15)	20 (0)		
	講師 Lecturer	21 (18)	11 (0)		
	助教 Assistant Professor	36 (30)	25 (0)		
	助手 Research Associate	1	0		
	研究員 Researcher	0 (7)	0		
	教務職員 Education Associate	0	1		
小計 Subtotal	152 (81)	76 (0)			
事務系職員 Administrative Staff		180			
計 Total		408(81)			

* ()は特任教員・寄附講座教員を外数で示す

* Numbers in parentheses indicate additional number of specially appointed teachers

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

学生定員及び現員

Number of students

大学院医学系研究科 | Graduate School of Medicine

博士課程 | Doctoral Course (Medical Sciences)

	入学定員 Admission Capacity	現員 Number of students				
		男 Male	女 Female	合計 Total		
総合医学専攻 Department in Integrated Medicine	1年 1st year	151	131	42	173	
	2年 2nd year	151	129	36	165	
	3年 3rd year	151	123	40	163	
	4年 4th year	151	118	65	183	
小計 Subtotal	604	501	183	684		
国際連携総合医学専攻 International Collaborative Program in Comprehensive Medical Science	アデレード大学 The University of Adelaide	1年 1st year	4	0	0	0
		2年 2nd year	4	1	0	1
		3年 3rd year	4	1	0	1
		4年 4th year	4	0	3	3
	ルンド大学 Lund University	1年 1st year	4	0	0	0
		2年 2nd year	4	0	0	0
		3年 3rd year	4	0	0	0
		4年 4th year	4	1	2	3
	フライブルク大学 University of Freiburg	1年 1st year	2	0	0	0
		2年 2nd year	2	0	0	0
		3年 3rd year	2	0	0	0
		4年 4th year	2	1	0	1
小計 Subtotal	40	4	5	9		
計 Total	644	505	188	693		
大学院研究生 Research student at the graduate school	—	3	2	5		

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

MD・PhDコース | MD/PhD Course

	入学定員 Admission Capacity	現員 Number of students		
		男 Male	女 Female	合計 Total
1年 1st year	—	3	0	3
2年 2nd year	—	3	0	3
3年 3rd year	—	2	1	3
4年 4th year	—	0	1	1
計 Total	—	8	2	10

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

博士前期課程 | Master's Course (Health Sciences)

	入学定員 Admission Capacity	現員 Number of students			
		男 Male	女 Female	合計 Total	
看護学専攻 Department in Nursing	2年 2nd year	18	0	1	1
総合保健学専攻 Department in Integrated Health Sciences	1年 1st year	70	26	40	66
	2年 2nd year	70	29	31	60
計 Total	158	55	72	127	

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

博士後期課程 | Doctoral Course (Health Sciences)

	入学定員 Admission Capacity	現員 Number of students			
		男 Male	女 Female	合計 Total	
看護学専攻 Department in Nursing	3年 3rd year	6	1	18	19
医療技術学専攻 Department in Radiological and Medical Laboratory Sciences	3年 3rd year	7	0	0	0
リハビリテーション療法学専攻 Department in Physical and Occupational Therapy	3年 3rd year	4	1	2	3
総合保健学専攻 Department in Integrated Health Sciences	1年 1st year	20	14	3	17
	2年 2nd year	20	6	10	16
	3年 3rd year	20	6	12	18
計 Total	77	28	45	73	

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

修士課程 | Master's Course

	入学定員 Admission Capacity	現員 Number of students			
		男 Male	女 Female	合計 Total	
医科学専攻 Department in Medical Science	1年 1st year	20	6	11	17
	2年 2nd year	20	9	7	16
医科学専攻医療行政コース Department in Medical Science, Healthcare Administration Course (Young Leaders' Program (YLP))	1年(国費) 1st year (government-sponsored)	10	3	6	9
計 Total	50	18	24	42	

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

医学部 | School of Medicine

医学科 | School of Medicine

	入学定員 Admission Capacity	現員 Number of students		
		男 Male	女 Female	合計 Total
1年 1st year	107	84	28	112
2年 2nd year	107	81	36	117
3年 3rd year	107	83	36	119
4年 4th year	107	91	29	120
5年 5th year	107	83	23	106
6年 6th year	107	88	27	115
計 Total	642	510	179	689
研究生等 Research student and others	—	33	8	41

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

保健学科 | School of Health Sciences

	入学定員 Admission Capacity	現員 Number of students		
		男 Male	女 Female	合計 Total
1年 1st year	200	44	162	206
2年 2nd year	200	49	159	208
3年 3rd year	200	54	153	207
4年 4th year	200	57	153	210
計 Total	800	204	627	831
研究生等 Research student and others	—	0	1	1

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

大学院医学系研究科修了者数

Number of Graduate School of Medicine graduates

博士課程 | Doctoral Course (Medical Sciences)

専攻 Major	修了者数[令和3年度] Number of students who completed the program [Fiscal Year 2021]
総合医学専攻 Department in Integrated Medicine	63
国際連携総合医学専攻アデレード大学 Department in Integrated Medicine	0
国際連携総合医学専攻 Lund 大学 Department in Integrated Medicine	0
計 Total	63

*満期退学者は除く。短期修了者を含む

*Figure exclude those who finished the PhD program without completing a dissertation, and include those who completed the program more quickly

(令和4年3月31日現在)

(as of March 31, 2022)

博士前期課程 | Master's Course (Health Sciences)

専攻 Major	修了者数[令和3年度] Number of students who completed the program [Fiscal Year 2021]
看護学専攻 Department in Nursing	3
総合保健学専攻 Department in Integrated Health Sciences	60
計 Total	63

*短期修了者を含む

* Include those who completed the program more quickly

(令和4年3月31日現在)

(as of March 31, 2022)

博士後期課程 | Doctoral Course (Health Sciences)

専攻 Major	修了者数[令和3年度] Number of students who completed the program [Fiscal Year 2021]
看護学専攻 Department in Nursing	6
医療技術学専攻 Department in Radiological and Medical Laboratory Sciences	2
リハビリテーション療法学専攻 Department in Physical and Occupational Therapy	1
計 Total	9

*満期退学者は除く。短期修了者を含む

*Figure exclude those who finished the PhD program without completing a dissertation, and include those who completed the program more quickly

(令和4年3月31日現在)

(as of March 31, 2022)

修士課程 | Master's Course

■ 修了者数 | Number of students who completed the program

専攻 Major	修了者数[令和3年度] Number of students who completed the program [Fiscal Year 2021]
医科学専攻 Department in Medical Science	16 (8)

* () は Young Leaders' Program (YLP) 修了者を外数で示す

*Numbers in parentheses indicate additional number of YLP graduates

(令和4年3月31日現在)

(as of March 31, 2022)

■ 修了者の進路 | Careers of those who completed the course

進学者 Proceed to higher education	就職 Employed			その他 Others
	官庁 Government office	民間企業等 Private sector	医療機関 Medical institutions	
9	0	3	1	3 (8)

* () は Young Leaders' Program (YLP) 修了者を外数で示す

*Numbers in parentheses indicate additional number of YLP graduates

(令和4年3月31日現在)

(as of March 31, 2022)

医学部卒業生数

Number of School of Medicine graduates

卒業生数 | Number of successful undergraduates

学校名 School	期間 Period	卒業生数 Number of graduates
愛知医学校 Aichi Medical School	明治14年10月～明治36年 6月 October, 1881 – June, 1903	1,082
愛知県立医学専門学校 Aichi Prefectural Medical College	明治36年 7月～大正12年 6月 July, 1903 – June, 1920	1,967
愛知医科大学 Aichi Medical College	大正 9年10月～昭和 6年 4月 October, 1920 – April, 1931	427
名古屋医科大学 Nagoya Medical College	昭和 6年 5月～昭和14年 3月 May, 1931 – March, 1939	695
名古屋帝国大学医学部 Nagoya Imperial University School of Medicine	昭和14年 4月～昭和22年 9月 April, 1939 – September, 1947	749
名古屋帝国大学附属医学専門部* Nagoya Imperial University Affiliated Medical Division*	昭和19年 4月～昭和25年 3月 April, 1944 – March, 1950	744
名古屋大学医学部(旧制) Nagoya University School of Medicine (Under Old Educational System)	昭和22年10月～昭和29年 3月 October, 1947 – March, 1954	688
名古屋大学医学部 Nagoya University School of Medicine	昭和24年 5月～令和 4年 3月 May, 1949 – March, 2022	11,195
医学科 School of Medicine		(6,663)
保健学科 School of Health Sciences	平成14年 3月～令和 4年 3月 March, 2002 – March, 2022	(4,532)
計 Total		17,547

*1947(昭和22)年10月名古屋帝国大学附属医学専門部と改称

*Renamed Nagoya University Affiliated Medical Division in October 1947

2021(令和3)年度の医学部卒業生数 | Number of School of Medicine graduates in Fiscal Year 2021

学校名 School	卒業生数 Number of graduates
名古屋大学医学部 Nagoya University School of Medicine	113
医学科 School of Medicine	
保健学科 School of Health Sciences	204
計 Total	317

(令和4年3月31日現在)

(as of March 31, 2022)

学位(医学博士)授与者数

Number of students granted doctorates (MDs)

学位授与者数 | Number of persons granted degrees

区分 Status	学位授与者数 Number of degrees granted	
	令和3年度 Fiscal Year 2021	累計 Total
課程博士 Graduates of Doctor's Course	144	4,187
論文博士 Doctor's Approved by Thesis	20	3,538
計 Total	164	7,725

*「累計」は1960(昭和35)年4月1日以降の学位授与者数

*Total consists of the number of degrees granted on and after April 1, 1960

(令和4年3月31日現在)

(as of March 31, 2022)

旧制学位授与者数 | Number of degrees granted under old school system

期間 Period	学位授与者数 Number of degrees granted
自 大正15年1月23日 From: January 23, 1926	3,709
至 昭和35年3月31日 To: March 31, 1960	

外国人留学生・外国人研究者等

Number of foreign students / researchers and the like

外国人留学生数 | Number of foreign students accepted

身分 Status	国費 Government-scholarship foreign students				私費 Privately-financed foreign students				合計 Total
	男 Male		女 Female		男 Male		女 Female		
	学部学生 Undergraduate Students	0	0	5	3	8			
修士課程(博士前期課程) Master Students	3	8	4	13	28				
博士課程(博士後期課程) Doctoral Students	17	13	24	44	98				
研究生 Research Students	0	0	3	5	8				
大学院研究生 Graduate Research Students	1	0	2	1	4				
特別研究学生 Special Research Students	0	0	0	0	0				
計 Total	21	21	38	66	146				
外国人研究者等 Foreign researchers, etc.			5						

* いずれも保健学科を含む

* All numbers include students in the School of Health Sciences

(令和4年5月1日現在)
(as of May 1, 2022)

国別外国人留学生数・外国人研究者等数 | Number of foreign students by country/region and foreign researchers, etc.

国・地域名 Country / Region	外国人留学生 (令和4年5月1日現在) Foreign students (as of May 1, 2022)	外国人研究者等 [令和3年度] Foreign researchers, etc. [Fiscal Year 2021]
アフガニスタン Afghanistan	3	0
イギリス UK	1	0
イタリア Italy	1	0
イラン Iran	2	0
インドネシア Indonesia	2	0
ウズベキスタン Uzbekistan	1	0
エジプト Egypt	3	0
ガーナ Ghana	1	0
韓国 Republic of Korea	1	0
カンボジア Cambodia	1	0
サウジアラビア Saudi Arabia	1	0
シリア Syria	1	0
スリランカ Sri Lanka	1	0
タイ Thailand	1	1
台湾 Taiwan	1	0
中国 China	102	3
バングラデシュ Bangladesh	12	0
フィリピン Philippines	1	0
ベトナム Vietnam	3	0
ポルトガル Portugal	0	1
マレーシア Malaysia	1	0
ミャンマー Myanmar	2	0
モンゴル Mongolia	3	0
ラオス Laos	1	0
計 Total	146	5

国際交流協定による派遣学生数及び受入学生数

Number of students sent out / accepted under international exchange agreements

国・地域名 Country / Region	大学名 School	締結年月日 Agreement established on	派遣学生数 Number of students sent out	受入学生数 Number of students accepted
ドイツ(1機関) Germany	フライブルク大学医学部 University of Freiburg, Faculty of Medicine	平成12年4月5日 April 5, 2000	1	0
スウェーデン(1機関) Sweden	ルンド大学医学部 Lund University, Faculty of Medicine	平成26年3月19日 March 19, 2014	2	0
オーストラリア (2機関) Australia	アデレード大学健康科学部 University of Adelaide, Faculty of Health Sciences	平成16年10月22日 October 22, 2004	0	1
	モナシュ大学 Monash University	平成15年7月18日 July 18, 2003	1 (オンライン留学)	0
韓国(1機関) South Korea	高麗大学医学部 Korea University, College of Medicine	平成30年11月28日 November 28, 2018	1 (オンライン留学)	0
	GAME(Global Alliance of Medical Excellence)	平成29年11月10-11日* November 10-11, 2017*	7 (オンライン留学)	0
計 Total			12	1

* 設立会議開催日

* Inauguration meeting of establishment on

(令和3年度)

(Fiscal Year 2021)

医学部・医学系研究科からの国別海外留学者数

Number of students studying abroad by country / region

国・地域名 Country / Region	留学者数 Number of students studying abroad
アメリカ合衆国 USA	1
スウェーデン Sweden	1
ドイツ Germany	1
フランス France	1
計 Total	4

(令和3年度)

(Fiscal Year 2021)

名古屋大学附属図書館医学部分館 (保健学図書室を含む)

Nagoya University Medical Library (including Library of Health Sciences)

蔵書数 | Number of books collected

	蔵書数 Number of books collected		
	医学部分館 Medical Library	保健学図書室 Library of Health Sciences	計 Total
和書 Japanese Books	70,140	41,996	112,136
洋書 Foreign Books	74,825	7,645	82,470
計 Total	144,965	49,641	194,606

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

雑誌種類数 | Number of journal types

	種類数 Number of types		
	医学部分館 Medical Library	保健学図書室 Library of Health Sciences	計 Total
和雑誌 Japanese Journals	2,363	914	3,277
洋雑誌 Foreign Journals	2,390	179	2,569
計 Total	4,753	1,093	5,846

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

オープンアクセス・ジャーナル(査読付き季刊誌)
Open-access journal (peer-reviewed quarterly journal)

Nagoya Journal of Medical Science
▶https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/nagoya_j_med_sci/

メディカルxRセンターの使用状況

Use survey of Nagoya University Medical xR Center

部屋別 | Usage by room

部屋 Room	件数 [令和3年度] Number of uses [FY 2021]	1,538
スキルスラボ / xRコア Skills labs / xRcore	413	
診察室・ブリーフィング室 Medical interview and briefing	95	
顕微鏡実習室 Microscope lab	24	
医療機器教育スペース(2022/2~) Medical device educational room	20	
手術トレーニング&ギャラリー SimSurg & Gallery	690	
デジタル医用画像処理 Digital medical image processing	238	
センター外利用 Uses outside	58	
MCラボ(産学共同ラボ) Motion capture lab	常時使用	

目的別 | User's purpose

目的 Purpose	件数 [令和3年度] Number of uses [FY 2021]	1,538
病院職員研修・診療支援・研究 Training, clinical support, & reserch for medical staffs	1,040	
医学部学生教育 Education for medical students	498	

解剖体数

Number of necrotomies

年度 Fiscal Year	系統解剖体(献体数) Bodies donated for systemic anatomy (number of donor bodies)	病理解剖体 Bodies for pathologic autopsy
平成24年度 2012	57	39
平成25年度 2013	54	25
平成26年度 2014	44	18
平成27年度 2015	63	22
平成28年度 2016	51	23
平成29年度 2017	35	26
平成30年度 2018	40	17
令和元年度 2019	40	33
令和2年度 2020	30	23
令和3年度 2021	37	25

産学官連携に関するデータ 知的財産 / 共同研究・受託研究

Data on government-industrial-academic collaboration: intellectual property, collaborative / funded research

特許等件数(登録) | Number of patents (filed)

区分 Organization	国内 Domestic		外国 Overseas		合計 Total
	単独 Sole application	共同 Joint application	単独 Sole application	共同 Joint application	
大学院医学系研究科 Graduate School of Medicine	54	42	5	53	154
医学部附属病院 University Hospital	20	26	3	36	85
計 Total	74	68	8	89	239

(令和4年4月1日現在) (as of April 1, 2022)

共同研究 | Collaborative research

民間等との共同研究実施件数及び受入金額

Number of collaborative research projects carried out with the private sector and amount received

年度 Fiscal year	医学科・保健学科 School of Medicine・School of Health Sciences	
	件数 Number of projects	受入金額(千円) Amount received (Unit: 1,000 yen)
平成27年度 2015	62	245,275
平成28年度 2016	60	315,702
平成29年度 2017	79	519,188
平成30年度 2018	61	218,891
令和元年度 2019	72	736,515
令和2年度 2020	66	445,296
令和3年度 2021	65	532,220

* 研究員・産学連携費(間接経費)を含む
* Figures include researcher costs and business-academic collaboration costs (indirect costs)

受託研究 | Funded research

受託研究経費(政府出資資金を含む)受入件数及び受入金額

Number of projects / amount accepted for funded research expenses(including government-sponsored funds)

年度 Fiscal year	医学科・保健学科 School of Medicine・School of Health Sciences	
	件数 Number of projects	受入金額(千円) Amount received (Unit: 1,000 yen)
平成27年度 2015	156	1,341,045
平成28年度 2016	164	1,510,267
平成29年度 2017	159	1,565,343
平成30年度 2018	150	1,383,694
令和元年度 2019	151	1,442,193
令和2年度 2020	153	1,694,102
令和3年度 2021	168	1,704,995

* 間接経費を含む
* Including indirect expenses

共同研究・受託研究について詳しくは

For more information on collaborative/funded research, see the link below
▶ https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_J/company/gov-ind-acd/

〈問い合わせ先等・担当事務〉

医学部・医学系研究科 経営企画課研究支援係
TEL : 052-744-2429 FAX : 052-744-2881
E-mail : iga-kenkyu@adm.nagoya-u.ac.jp

〈Inquiries / administrative office in charge〉

School of Medicine and Graduate School of Medicine
Research Support Section
TEL : +81-52-744-2429 FAX : +81-52-744-2881
E-mail : iga-kenkyu@adm.nagoya-u.ac.jp

科学研究費補助金の状況

Summary of Grant-in-Aid for Scientific Research

令和3年度外部資金の状況 | Summary of External Funds in Fiscal Year 2021

研究種目 Categories	件数 Number of project	金額(千円) Amount received (Unit: 1,000 yen)
学術変革領域(A) Grant-in-Aid for Transformative Research Area (A)	5	50,050
学術変革領域(B) Grant-in-Aid for Transformative Research Area (B)	1	10,400
新学術領域研究(研究領域提案型) Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas	8	37,570
基盤研究(S) Grant-in-Aid for Scientific Research (S)	2	37,960
基盤研究(A) Grant-in-Aid for Scientific Research (A)	9	138,710
基盤研究(B) Grant-in-Aid for Scientific Research (B)	90	472,230
基盤研究(C) Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	286	392,113
挑戦的研究(開拓) Challenging Research (Pioneering)	4	34,190
挑戦的研究(萌芽) Challenging Research (Exploratory)	25	61,750
若手研究 Grant-in-Aid for Early-Career Scientists	153	219,700
研究活動スタート支援 Grant-in-Aid for Research Activity Start-up	19	25,740
特別研究員奨励費 Grant-in-Aid for JSPS Fellows	8	8,930
特別研究員奨励費(外国人) Grant-in-Aid for JSPS International Research Fellow	1	1,100
奨励研究 Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists	7	3,190
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) Fund for the Promotion of Joint International Research (Fostering Joint International Research(B))	2	9,620
ひらめき☆ときめきサイエンス HIRAMEKI☆TOKIMEKI SCIENCE	1	650
計 Total	621	1,503,903

*間接経費、研究分担者による受入件数・金額を含む

* Including indirect expenses and number of grants/amounts awarded to co-investigators

ニュースリリース

News release

名古屋大学大学院医学系研究科では、最新の研究成果の中から特に社会的影響力が強いと考えるものを選び、ニュースソースとして各メディアに報告している。期間内では、以下の74件をリリースした。

※主たる研究者《所属》は、ニュースリリース時の職名・所属を記載

The Nagoya University Graduate School of Medicine selected research achievements with particularly strong social impact and published the details to the public as news. Within the given period, the following 74 achievements were released.

※Lead researcher (affiliation) represent those current at the time of press release

脳腫瘍を1mLの尿で判定可能に！

～尿中のマイクロRNAにて99%の正確度で脳腫瘍を発見～

Urinary MicroRNA-based Diagnostic Model for Central Nervous System Tumors Using Nanowire Scaffolds

主たる研究者《所属》

夏目 敦至 准教授、北野 詳太郎 客員研究者、
青木 恒介 特任助教 《脳神経外科学》

論文情報 / Paper information

Yotaro Kitano, Kosuke Aoki, Fumiharu Ohka, Shintaro Yamazaki, Kazuya Motomura, Kuniaki Tanahashi, Masaki Hirano, Tsuyoshi Naganawa, Mikiko Iida, Yukihiro Shiraki, Tomohide Nishikawa, Hiroyuki Shimizu, Junya Yamaguchi, Sachi Maeda, Hidenori Suzuki, Toshihiko Wakabayashi, Yoshinobu Baba, Takao Yasui, and Atsushi Natsume. Urinary MicroRNA-based Diagnostic Model for Central Nervous System Tumors Using Nanowire Scaffolds. *ACS Applied Materials & Interfaces*, published online on April 1, 2021.

DOI: 10.1021/acsami.1c01754

がん免疫治療薬により発症する下垂体副作用の事前予測が可能に

Anti-pituitary antibodies and susceptible human leukocyte antigen alleles as predictive biomarkers for pituitary dysfunction induced by immune checkpoint inhibitors

主たる研究者《所属》

小林 朋子 病院助教、
岩間 信太郎 講師 《附属病院糖尿病・内分泌内科》、
有馬 寛 教授 《糖尿病・内分泌内科学》

論文情報 / Paper information

Tomoko Kobayashi, Shintaro Iwama, Daisuke Sugiyama, Yoshinori Yasuda, Takayuki Okuji, Masaaki Ito, Sachiko Ito, Mariko Sugiyama, Takeshi Onoue, Hiroshi Takagi, Daisuke Hagiwara, Yoshihiro Ito, Hidetaka Suga, Ryoichi Banno, Hiroyoshi Nishikawa, Hiroshi Arima. Anti-pituitary antibodies and susceptible human leukocyte antigen alleles as predictive biomarkers for pituitary dysfunction induced by immune checkpoint inhibitors. *Journal for ImmunoTherapy of Cancer*, published online on May 19, 2021.

DOI: 10.1136/jitc-2021-002493

「腸呼吸の応用により、呼吸不全の治療に成功！」 —腸換気技術を用いた新たな呼吸管理法の開発へ光— Ventilating the rectum to support respiration

主たる研究者《所属》

芳川 豊史 教授 《呼吸器外科学》
※東京医科歯科大学、京都大学との共同研究

論文情報 / Paper information

Ryo Okabe, Toyofumi F. Chen-Yoshikawa, Yosuke Yoneyama, Yuhei Yokoyama, Satona Tanaka, Akihiko Yoshizawa, Wendy L. Thompson, Gokul Kannan, Kenji Wakabayashi, Eiji Kobayashi, Hiroshi Date, Takanori Takebe. Mammalian Enteral Ventilation Ameliorates Respiratory Failure. *Med*, published online on May 14, 2021.

DOI: 10.1016/j.medj.2021.04.004

卵巣摘出マウスを用いた閉経後骨粗鬆症に対する、低エネルギーのショートレンジ紫外線LED照射 Short-range UV-LED irradiation in postmenopausal osteoporosis using ovariectomized mice

主たる研究者《所属》

西田 佳弘 病院教授 《附属病院リハビリテーション科》、
落合 聡史 医員 《附属病院整形外科》

論文情報 / Paper information

Satoshi Ochiai, Yoshihiro Nishida, Yoshitoshi Higuchi, Daigo Morita, Kazuya Makida, Taisuke Seki, Kunihiro Ikuta, Shiro Imagama. Short-range UV-LED irradiation in postmenopausal osteoporosis using ovariectomized mice. *Scientific Reports*, published online on April 12, 2021.

DOI: 10.1038/s41598-021-86730-0

5

Linked Color Imagingを使用した画像強調内視鏡で腺腫の見逃し率減少を実証

Detection of colorectal neoplasms using linked color imaging: A prospective, randomized, tandem colonoscopy trial

主たる研究者《所属》

藤城 光弘 教授、山村 健史 助教《消化器内科学》、
長谷川 一成 医員《附属病院消化器内科》

論文情報 / Paper information

Issei Hasegawa, Takeshi Yamamura, Hiroto Suzuki, Keiko Maeda, Tsunaki Sawada, Yasuyuki Mizutani, Eri Ishikawa, Takuya Ishikawa, Naomi Kakushima, Kazuhiro Furukawa, Eizaburo Ohno, Hiroki Kawashima, Masanao Nakamura, Mitsuhiro Fujishiro. Detection of colorectal neoplasms using linked color imaging: A prospective, randomized, tandem colonoscopy trial. *Clinical Gastroenterology and Hepatology*, published online on April 8, 2021. DOI: 10.1016/j.cgh.2021.04.004

6

PSMB9遺伝子変異による新規 I 型インターフェロン異常症を発見

～ JAK 阻害薬が重症 I 型インターフェロン異常症に有効である可能性を示唆～

Successful treatment of a novel type I interferonopathy due to a de novo PSMB9 gene mutation with a Janus kinase inhibitor

主たる研究者《所属》

高橋 義行 教授《小児科学》、村松 秀城 講師、川島 希 助教、
片岡 伸介 病院助教《附属病院小児科》

論文情報 / Paper information

Shinsuke Kataoka, Nozomu Kawashima, Yusuke Okuno, Hideki Muramatsu, Shunsuke Miwata, Kotaro Narita, Motoharu Hamada, Norihiro Murakami, Rieko Taniguchi, Daisuke Ichikawa, Hironobu Kitazawa, Kyogo Suzuki, Eri Nishikawa, Atsushi Narita, Nobuhiro Nishio, Hidenori Yamamoto, Yoshie Fukasawa, Taichi Kato, Hiroyuki Yamamoto, Jun Natsume, Seiji Kojima, Ichizo Nishino, Takeshi Taketani, Hidenori Ohnishi, Yoshiyuki Takahashi. Successful treatment of a novel type I interferonopathy due to a de novo PSMB9 gene mutation with a Janus kinase inhibitor. *Journal of Allergy and Clinical Immunology*, published online on March 13, 2021. DOI: 10.1016/j.jaci.2021.03.010

7

抗PD-1抗体による甲状腺副作用の発症メカニズムをマウスで解明

CD4⁺ T cells are essential for the development of destructive thyroiditis induced by anti-PD-1 antibody in thyroglobulin-immunized mice

主たる研究者《所属》

安田 康紀 医員、
岩間 信太郎 講師《附属病院糖尿病・内分泌内科》、
有馬 寛 教授《糖尿病・内分泌内科学》、
西川 博嘉 教授《分子細胞免疫学》

論文情報 / Paper information

Yoshinori Yasuda, Shintaro Iwama, Daisuke Sugiyama, Takayuki Okuji, Tomoko Kobayashi, Masaaki Ito, Norio Okada, Atsushi Enomoto, Sachiko Ito, Yue Yan, Mariko Sugiyama, Takeshi Onoue, Taku Tsunekawa, Yoshihiro Ito, Hiroshi Takagi, Daisuke Hagiwara, Motomitsu Goto, Hidetaka Suga, Ryoichi Banno, Masahide Takahashi, Hiroyoshi Nishikawa, and Hiroshi Arima. CD4⁺ T cells are essential for the development of destructive thyroiditis induced by anti-PD-1 antibody in thyroglobulin-immunized mice. *Science Translational Medicine*, published online on May 12, 2021. DOI: 10.1126/scitranslmed.abb7495

8

遺伝性骨髄不全症の診断プロセス向上に期待

～骨髄不全症における血球テロメア長の測定の意義～

Clinical diagnostic value of telomere length measurement in inherited bone marrow failure syndromes

主たる研究者《所属》

高橋 義行 教授、村松 秀城 講師、成田 敦 助教、
三輪田 俊介 大学院生《小児科学》

論文情報 / Paper information

Shunsuke Miwata, Atsushi Narita, Yusuke Okuno, Kyogo Suzuki, Motoharu Hamada, Taro Yoshida, Masayuki Imaya, Ayako Yamamori, Manabu Wakamatsu, Kotaro Narita, Hironobu Kitazawa, Daisuke Ichikawa, Rieko Taniguchi, Nozomu Kawashima, Eri Nishikawa, Nobuhiro Nishio, Seiji Kojima, Hideki Muramatsu, Yoshiyuki Takahashi. Clinical diagnostic value of telomere length measurement in inherited bone marrow failure syndromes. *Haematologica*, published online on April 22, 2021. DOI: 10.3324/haematol.2021.278334

9

プラズマ活性化乳酸リンゲル液が悪性中皮腫細胞を特異的に殺傷することを発見

Lysosomal nitric oxide determines transition from autophagy to ferroptosis after exposure to plasma-activated Ringer's lactate

主たる研究者《所属》

蔣 麗 研究員、豊國 伸哉 教授《生体反応病理学》

論文情報 / Paper information

Li Jiang, Hao Zheng, Qinying Lyu, Shotaro Hayashi, Kotaro Sato, Yoshitaka Sekido, Kae Nakamura, Hiromasa Tanaka, Kenji Ishikawa, Hiroaki Kajiyama, Masaaki Mizuno, Masaru Hori and Shinya Toyokuni. Lysosomal nitric oxide determines transition from autophagy to ferroptosis after exposure to plasma-activated Ringer's lactate. *Redox Biology*, published online on April 23, 2021. DOI: 10.1016/j.redox.2021.101989

10

GPR87をターゲットとした光免疫療法の胸部腫瘍への応用開発

～ヒト化抗体の開発と治療応用～

Near-infrared photoimmunotherapy targeting GPR87: Development of a humanized anti-GPR87 mAb and therapeutic efficacy on a lung cancer mouse model

主たる研究者《所属》

安井 裕智 大学院生《呼吸器内科学》、
佐藤 和秀 S-YLC 特任助教《高等研究院》

論文情報 / Paper information

Hirotochi Yasui, Yuko Nishinaga, Shunichi Taki, Kazuomi Takahashi, Yoshitaka Isobe, Misae Shimizu, Chiaki Koike, Tetsuro Taki, Aya Sakamoto, Keiko Katsumi, Keisuke Ishii, Kazuhide Sato. Near-infrared photoimmunotherapy targeting GPR87: Development of a humanised anti-GPR87 mAb and therapeutic efficacy on a lung cancer mouse model. *EBioMedicine*, published online on May 13, 2021. DOI: 10.1016/j.ebiom.2021.103372

11

緩徐進行1型糖尿病患者のBMI高値、HbA1c低値、抗GAD抗体価低値は長期にわたってインスリン療法が不要であることを示唆する

Higher BMI, lower HbA1c, and lower glutamic acid decarboxylase antibodies levels can predict non-insulin-dependent state for at least several years in Japanese slowly progressive insulin-dependent (type 1) diabetes mellitus patients

主たる研究者《所属》

和田 絵梨 大学院生、有馬 寛 教授《糖尿病・内分泌内科学》、
尾上 剛史 病院助教《附属病院糖尿病・内分泌内科》

論文情報 / Paper information

Eri Wada, Takeshi Onoue, Tamaki Kinoshita, Ayaka Hayase, Tomoko Handa, Masaaki Ito, Mariko Furukawa, Takayuki Okuji, Tomoko Kobayashi, Shintaro Iwama, Mariko Sugiyama, Hiroshi Takagi, Daisuke Hagiwara, Hidetaka Suga, Ryoichi Banno, Motomitsu Goto, and Hiroshi Arima. Adult-onset autoimmune diabetes identified by glutamic acid decarboxylase autoantibodies: a retrospective cohort study. *Diabetologia*, published online on July 15, 2021. DOI: 10.1007/s00125-021-05516-1

12

悪性リンパ腫治療に応用が可能となるCD37CAR-T細胞の作成に成功

Optimization of Chimeric Antigen Receptor (CAR) Structure Enables Fine-Tuning of Signaling and Successful Creation of Clinically Usable CD37 CAR-T Cells

主たる研究者《所属》

清井 仁 教授、寺倉 精太郎 講師、奥野 真吾 大学院生、
安達 慶高 大学院生《血液・腫瘍内科学》

論文情報 / Paper information

Shingo Okuno, Yoshitaka Adachi, Seitaro Terakura, Jakrawadee Julamanee, Toshiyasu Sakai, Koji Umemura, Kotaro Miyao, Tatsunori Goto, Atsushi Murase, Kazuyuki Shimada, Tetsuya Nishida, Makoto Murata and Hitoshi Kiyoi. Spacer length modification facilitates discrimination between normal and neoplastic cells and provides clinically relevant CD37 CAR-T cells. *The Journal of Immunology*, published online on June 15, 2021. DOI: 10.4049/jimmunol.2000768

13

従来の細胞内ドメインよりも強力に細胞内シグナルを伝える新規の細胞内ドメインを用いた CAR-T 細胞を開発！～CAR-T 細胞療法の効果増強を期待～

Newly developed composite CD79A/CD40 costimulatory endodomain enhances CD19CAR-T cell proliferation and survival

主たる研究者《所属》

Jakrawadee Julamanee 大学院生、寺倉 精太郎 講師、清井 仁 教授《血液・腫瘍内科学》

論文情報 / Paper information

Jakrawadee Julamanee, Seitaro Terakura, Koji Umemura, Yoshitaka Adachi, Kotaro Miyao, Shingo Okuno, Erina Takagi, Toshiyasu Sakai, Daisuke Koyama, Tatsunori Goto, Ryo Hanajiri, Michael Hudecek, Peter Steinberger, Judith Leitner, Tetsuya Nishida, Makoto Murata, and Hitoshi Kiyoi. Composite CD79A/CD40 costimulatory endodomain enhances CD19CAR-T cell proliferation and survival. *Molecular Therapy*, published online on May 1, 2021. DOI: 10.1016/j.ymthe.2021.04.038

14

悪性リンパ腫の抗がん剤耐性化の新しい機序を解明～新たな治療方法の確立に期待～

Publication of the elucidation of novel mechanism of anti-cancer drug resistance in malignant lymphoma ~Anticipation to establish novel treatment strategies~

主たる研究者《所属》

久納 俊祐 大学院生、高井 美佳 大学院生、清井 仁 教授《血液・腫瘍内科学》、島田 和之 講師《附属病院血液内科》※名古屋医療センター、愛知県がんセンターとの共同研究

論文情報 / Paper information

Shunsuke Kunou, Kazuyuki Shimada, Mika Takai, Akihiko Sakamoto, Tomohiro Aoki, Tomoya Hikita, Yusuke Kagaya, Eisuke Iwamoto, Masashi Sanada, Satoko Shimada, Fumihiko, Hayakawa, Chitose Oneyama, Hitoshi Kiyoi. Exosomes secreted from cancer-associated fibroblasts elicit anti-pyrimidine drug resistance through modulation of its transporter in malignant lymphoma. *Oncogene*, published online on May 16, 2021. DOI: 10.1038/s41388-021-01829-y

15

新しい非アルコール性脂肪肝炎関連肝がんモデルの確立

The sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor Tofogliflozin prevents the progression of nonalcoholic steatohepatitis-associated liver tumors in a novel murine model

主たる研究者《所属》

菅波 孝祥 教授、田中 都 講師、吉岡 直輝 大学院生《免疫代謝学（医学系研究科協力講座）》

論文情報 / Paper information

Naoki Yoshioka, Miyako Tanaka, Kozue Ochi, Akiko Watanabe, Kenji Ono, Makoto Sawada, Tomoo Ogi, Michiko Itoh, Ayaka Ito, Yukihiro Shiraki, Atsushi Enomoto, Masatoshi Ishigami, Mitsuhiro Fujishiro, Yoshihiro Ogawa, Takayoshi Suganami. The sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor Tofogliflozin prevents the progression of nonalcoholic steatohepatitis-associated liver tumors in a novel murine model. *Biomedicine & Pharmacotherapy*, published online on May 21, 2021. DOI: 10.1016/j.biopha.2021.111738

16

指定難病「特発性肺線維症」の疾患進行の運命を握る線維芽細胞を世界で初めて同定～特発性肺線維症克服へ向けての新展開～

Fibroblasts positive for meflin have anti-fibrotic property in pulmonary fibrosis

主たる研究者《所属》

橋本 直純 准教授《呼吸器内科学》、榎本 篤 教授《分子病理学・腫瘍病理学》、阪本 考司 病院助教、中原 義夫 病院助教《附属病院呼吸器内科》※米国 Yale 大学、米国 Baylor 医科大学との国際共同研究

論文情報 / Paper information

Yoshio Nakahara, Naozumi Hashimoto, Koji Sakamoto, Atsushi Enomoto, Taylor S. Adams, Toyoharu Yokoi, Norihito Omote, Sergio Poli, Akira Ando, Keiko Wakahara, Atsushi Suzuki, Masahide Inoue, Akitoshi Hara, Yasuyuki Mizutani, Kazuyoshi Imaizumi, Tsutomu Kawabe, Ivan O. Rosas, Masahide Takahashi, Naftali Kaminski, Yoshinori Hasegawa. Fibroblasts positive for meflin have anti-fibrotic property in pulmonary fibrosis. *European Respiratory Journal*, published online on May 28, 2021. DOI: 10.1183/13993003.03397-2020

17

名古屋発；飛沫を防ぐ内視鏡検査マスク：「e-mask」の開発に成功

Made in Nagoya; Development of a mask for bronchoscopy to prevent infection under COVID-19 pandemic; image evaluation

主たる研究者《所属》

安井 裕智 大学院生《呼吸器内科学》、岡地 祥太郎 病院助教《附属病院呼吸器内科》、深津 紀暁 学部生《医学部医学科》、佐藤 和秀 S-YLC 特任助教《高等研究院》

論文情報 / Paper information

Hirotohi Yasui, Shotaro Okachi, Noriaki Fukatsu, and Kazuhide Sato. Development of a mask for bronchoscopy to prevent infection under COVID-19 pandemic; image evaluation. *American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine*, published online on June 15, 2021. DOI: 10.1164/rccm.202010-4037IM

18

日本人の年齢・性別による大腿四頭筋の筋肉量と質の違いが明らかに

Clarification of the differences in quadriceps muscle mass and muscle quality by age and sex in Japanese people

主たる研究者《所属》

今釜 史郎 教授、水野 隆文 大学院生《整形外科》※国立長寿医療研究センターとの共同研究

論文情報 / Paper information

Takafumi Mizuno, Yasumoto Matsui, Makiko Tomida, Yasuo Suzuki, Yukiko Nishita, Chikako Tange, Hiroshi Shimokata, Shiro Imagama, Rei Otsuka, Hidenori Arai. Differences in the mass and quality of the quadriceps with age and sex and their relationships with knee extension strength. *Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle*, published online on May 19, 2021. DOI: 10.1002/jcsm.12715

19

指定難病 神経線維腫症1型患者のための院内診療ネットワークを日本で初めて確立

Establishment of in-hospital clinical network for patients with neurofibromatosis type 1 in Nagoya University Hospital

主たる研究者《所属》

西田 佳弘 病院教授《附属病院リハビリテーション科》、生田 国大 助教《附属病院整形外科》、尾崎 紀夫 教授《精神医学》

論文情報 / Paper information

Yoshihiro Nishida, Kunihiko Ikuta, Atsushi Natsume, Naoko Ishihara, Maki Morikawa, Hiroyuki Kidokoro, Yukako Muramatsu, Norie Nonobe, Kanako Ishizuka, Takuya Takeichi, Miki Kanbe, Seiji Mizuno, Shiro Imagama, Norio Ozaki. Establishment of in-hospital clinical network for patients with neurofibromatosis type 1 in Nagoya University Hospital. *Scientific Reports*, published online on June 7, 2021. DOI: 10.1038/s41598-021-91345-6

20

ナノ素材による健康被害の新たなメカニズムを明らかに！～貪食細胞の小器官エンドソームに着目～

Discovery of novel mechanism controlling lung inflammation induced by nano materials ~ Focused on the signaling inside small cellular organelles ~

主たる研究者《所属》

橋本 直純 准教授、井上 正英 大学院生《呼吸器内科学》、阪本 考司 助教《附属病院呼吸器内科》、澤田 誠 教授《薬物動態解析学（医学系研究科協力講座）》

論文情報 / Paper information

Masahide Inoue, Koji Sakamoto, Atsushi Suzuki, Shinya Nakai, Akira Ando, Yukihiko Shiraki, Yoshio Nakahara, Mika Omura, Atsushi Enomoto, Ikuhiko Nakase, Makoto Sawada, and Naozumi Hashimoto. Size and surface modification of silica nanoparticles affect the severity of lung toxicity by modulating endosomal ROS generation in macrophages. *Particle and Fibre Toxicology*, published online on June 17, 2021. DOI: 10.1186/s12989-021-00415-0

21

エイコサペンタエン酸の摂取は形質細胞分化を抑制し、全身性エリテマトーデス病態を改善する
Dietary supplementation with eicosapentaenoic acid inhibits plasma cell differentiation and attenuates lupus autoimmunity

主たる研究者《所属》
菅波 孝祥 教授、伊藤 綾香 助教、
小林 アズサ 大学院生《免疫代謝学（医学系研究科協力講座）》

論文情報 / Paper information
Azusa Kobayashi, Ayaka Ito, Ibuki Shirakawa, Atsushi Tamura, Susumu Tomono, Hideo Shindou, Per Niklas Hedde, Miyako Tanaka, Naotake Tsuboi, Takuji Ishimoto, Sachiko Akashi-Takamura, Shoichi Maruyama, Takayoshi Suganami. Dietary supplementation with eicosapentaenoic acid inhibits plasma cell differentiation and attenuates lupus autoimmunity. *Frontiers in Immunology*, published online on June 15, 2021. DOI: 10.3389/fimmu.2021.650856

22

高齢者の認知機能低下予防に効果的な運動要素とは？
What type of exercise is the most effective for preventing cognitive decline in older adults?

主たる研究者《所属》
葛谷 雅文 教授、
梅垣 宏行 准教授《地域在宅医療学・老年科学》、
牧野 多恵子 招へい教員《未来社会創造機構》

論文情報 / Paper information
Taeko Makino, Hiroyuki Umegaki, Masahiko Ando, Xian Wu Cheng, Koji Ishida, Hiroshi Akima, Yoshiharu Oshida, Yasuko Yoshida, Kazuki Uemura, Hiroyuki Shimada, Masafumi Kuzuya. Effects of aerobic, resistance, or combined exercise training among older adults with subjective memory complaints: a randomized controlled trial. *Journal of Alzheimer's Disease*, published online on May 29, 2021. DOI: 10.3233/JAD-210047

23

マウス脳微小透析法の温故知新 ～ 神経伝達物質の濃度変化を1分ごとに観測し、ベイズ統計モデリングから単一マウスの時系列データ解析が可能に～
Renewal of the established microdialysis technique – make it possible with ambient ionization mass spectrometry and Bayesian statistical modelling –

主たる研究者《所属》
財津 桂 准教授《高等研究院》、
川上 大輔 大学院生《法医・生命倫理学》

論文情報 / Paper information
Daisuke Kawakami, Mitsuki Tsuchiya, Tasuku Murata, Akira Iguchi, Kei Zaitzu. Rapid quantification of extracellular neurotransmitters in mouse brain by PESI/MS/MS and longitudinal data analysis using the R and Stan-based Bayesian state-space model. *Talanta*, published online on June 30, 2021. DOI: 10.1016/j.talanta.2021.122620

24

小児固形腫瘍におけるRNAシーケンスの有用性を評価
～RNAシーケンスは小児固形腫瘍の診断と治療戦略の開発に貢献する～
Integrated diagnosis based on transcriptome analysis in suspected pediatric sarcomas

主たる研究者《所属》
高橋 義行 教授、村松 秀城 講師《小児科学》、
奥野 友介 病院講師《附属病院小児がん治療センター》、
下山 芳江 准教授《附属病院病理部》

論文情報 / Paper information
Daisuke Ichikawa, Kyoko Yamashita, Yusuke Okuno, Hideki Muramatsu, Norihiro Murakami, Kyogo Suzuki, Daiei Kojima, Shinsuke Kataoka, Motoharu Hamada, Rieko Taniguchi, Eri Nishikawa, Nozomu Kawashima, Atsushi Narita, Nobuhiro Nishio, Asahito Hama, Kenji Kasai, Seiji Mizuno, Yoshie Shimoyama, Masato Nakaguro, Hajime Okita, Seiji Kojima, Atsuko Nakazawa, and Yoshiyuki Takahashi. Integrated diagnosis based on transcriptome analysis in suspected pediatric sarcomas. *npj Genomic Medicine*, published online on June 15, 2021. DOI: 10.1038/s41525-021-00210-y

25

特発性肺線維症のポリファーマシーに対する抗線維化薬の副次的効果を世界で初めて報告
The effect of pirfenidone on the prescription of antibiotics and antitussive drugs in patients with idiopathic pulmonary fibrosis: a post-hoc exploratory analysis of phase III clinical trial

主たる研究者《所属》
鈴木 淳 病院助教、阪本 考司 病院助教《附属病院呼吸器内科》
※塩野義製薬株式会社との共同研究

論文情報 / Paper information
Atsushi Suzuki, Hiroki Sakaguchi, Koji Sakamoto, Masahito Ebina, Arata Azuma, Takashi Ogura, Yoshio Taguchi, Moritaka Suga, Hiroki Takahashi, Yukihiko Sugiyama, Shoji Kudoh, Toshihiro Nukiwa, Shogo Miyazawa, Yasuhiro Kondoh. The effect of pirfenidone on the prescription of antibiotics and antitussive drugs in patients with idiopathic pulmonary fibrosis: a post-hoc exploratory analysis of phase III clinical trial. *CHEST*, published online on June 5, 2021. DOI: 10.1016/j.chest.2021.05.058

26

侵害性および非侵害性瞬目反射を用いた内因性疼痛抑制能測定法を確立
Conditioned pain modulation: comparison of the effects on nociceptive and non-nociceptive blink reflex

主たる研究者《所属》
絹川 友章 病院助教《附属病院麻酔科》、
西脇 公俊 教授《麻酔・蘇生医学》
※愛知医療療育総合センター、生理学研究所との共同研究

論文情報 / Paper information
Tomooki Alex Kinukawa, Koji Inui, Tomoya Taniguchi, Nobuyuki Takeuchi, Shunsuke Sugiyama, Makoto Nishihara, Kimitoshi Nishiwaki and Ryusuke Kakigi. Conditioned pain modulation: comparison of the effects on nociceptive and non-nociceptive blink reflex. *Neuroscience*, published online on June 17, 2021. DOI: 10.1016/j.neuroscience.2021.06.019

27

自己免疫性の筋炎や間質性肺炎患者における血清中自己抗体の新規測定法の開発に成功
～患者の持つ抗OJ抗体はリジルトRNA合成酵素とイソロイシルtRNA合成酵素を認識する～
Immune recognition of lysyl-tRNA synthetase and isoleucyl-tRNA synthetase by anti-OJ antibody-positive sera

主たる研究者《所属》
室 慶直 准教授、秋山 真志 教授《皮膚科学》

論文情報 / Paper information
Yoshinao Muro, Yasuhiko Yamano, Ken Yoshida, Yohsuke Oto, Kimiko Nakajima, Teruyuki Mitsuma, Shiori Kikuchi, Akihiro Matsumae, Mariko Ogawa-Momohara, Takuya Takeichi, Yasuhiro Kondoh, Masao Katayama, Yasuyuki Todoroki, Yoshiya Tanaka, Minoru Satoh, Masashi Akiyama. Immune recognition of lysyl-tRNA synthetase and isoleucyl-tRNA synthetase by anti-OJ antibody-positive sera. *Journal of Autoimmunity*, published online on June 11, 2021. DOI: 10.1016/j.jaut.2021.102680

28

敗血症性凝固障害の重要なパラメーターの同定
Identification of key parameters of septic coagulopathy

主たる研究者《所属》
春日井 大介 病院助教、後藤 縁 病院講師《附属病院救急科》、
松井 茂之 教授《生物統計学》、
松田 直之 教授《救急・集中治療医学》

論文情報 / Paper information
Daisuke Kasugai, Masayuki Ozaki, Kazuki Nishida, Yukari Goto, Kunihiko Takahashi, Shigeyuki Matsui, Naoyuki Matsuda. Relative platelet reductions provide better pathophysiologic signatures of coagulopathies in sepsis. *Scientific Reports*, published online on July 7, 2021. DOI: 10.1038/s41598-021-93635-5

29

既存の抗がん剤と異なるレセプターを標的とした新しいがん治療抗体医薬
～がん細胞の転移を促進するCHRNA2を狙い撃つ分子標的治療薬の開発～

Blockade of CHRNA2 signaling with a therapeutic monoclonal antibody attenuates the aggressiveness of gastric cancer cells

主たる研究者《所属》
小寺 泰弘 教授、 神田 光郎 講師 《消化器外科学》

論文情報 / Paper information
Mitsuro Kanda, Dai Shimizu, Shunsuke Nakamura, Koichi Sawaki, Shinichi Umeda, Takashi Miwa, Haruyoshi Tanaka, Yoshikuni Inokawa, Norifumi Hattori, Masamichi Hayashi, Chie Tanaka, Goro Nakayama, Yohei Iguchi, Masahisa Katsuno, and Yasuhiro Koderu. Blockade of CHRNA2 signaling with a therapeutic monoclonal antibody attenuates the aggressiveness of gastric cancer cells. *Oncogene*, published online on July 30, 2021. DOI: 10.1038/s41388-021-01945-9

脳腫瘍の悪性化を防ぐ最適な治療法を解明！
～数学的アプローチにより明らかとなった症例毎に異なる最適治療戦略～

Mathematical modeling and mutational analysis reveal optimal therapy to prevent malignant transformation in grade II IDH-mutant gliomas

主たる研究者《所属》
青木 恒介 特任助教、 夏目 敦至 准教授 《脳神経外科学》
※東京大学との共同研究

論文情報 / Paper information
Kosuke Aoki, Hiromichi Suzuki, Takashi Yamamoto, Kimiyo N Yamamoto, Sachi Maeda, Yusuke Okuno, Melissa Ranjit, Kazuya Motomura, Fumiharu Ohka, Kuniaki Tanahashi, Masaki Hirano, Tomohide Nishikawa, Hiroyuki Shimizu, Yotaro Kitano, Junya Yamaguchi, Shintaro Yamazaki, Hideo Nakamura, Masamichi Takahashi, Yoshitaka Narita, Mitsutoshi Nakada, Shoichi Deguchi, Masahiro Mizoguchi, Yasutomo Momii, Yoshihiro Muragaki, Tatsuya Abe, Jiro Akimoto, Toshihiko Wakabayashi, Ryuta Saito, Seishi Ogawa, Hiroshi Haeno, and Atsushi Natsume. Mathematical modeling and mutational analysis reveal optimal therapy to prevent malignant transformation in grade II IDH-mutant gliomas. *Cancer Research*, published online on July 31, 2021. DOI: 10.1158/0008-5472.CAN-21-0985

30

CD63はIRE-IRPを介して鉄によって制御されており、細胞外小胞によるフェリチン分泌に重要である
CD63 is Regulated by Iron via the IRE-IRP System and is Important for Ferritin Secretion by Extracellular Vesicles

主たる研究者《所属》
築取 いずみ 助教、 豊國 伸哉 教授、
Des R Richardson 客員教授 《生体反応病理学》

論文情報 / Paper information
Izumi Yanatori, Des R. Richardson, Herschel S. Dhekne, Shinya Toyokuni, Fumio Kishi. CD63 is Regulated by Iron via the IRE-IRP System and is Important for Ferritin Secretion by Extracellular Vesicles. *Blood*, published online on July 15, 2021. DOI: 10.1182/blood.2021010995

31

腹水中に浮遊する癌細胞塊の存在と卵巣癌難治性化との関連を実証
～新たな治療標的の確立に期待～

Prognostic aspects of positive ascites cytology and effects of therapeutic interventions in epithelial ovarian cancer: a large-scale multi-institutional study

主たる研究者《所属》
吉原 雅人 特任助教、 芳川 修久 助教、
梶山 広明 教授 《産婦人科学》、
江本 遼 特任助教、 松井 茂之 教授 《生物統計学》

論文情報 / Paper information
Masato Yoshihara, Ryo Emoto, Kazuhisa Kitami, Shohei Iyoshi, Kaname Uno, Kazumasa Mogi, Sho Tano, Nobuhisa Yoshikawa, Shigeyuki Matsui, Hiroaki Kajiyama. A large-scale multi-institutional study evaluating prognostic aspects of positive ascites cytology and effects of therapeutic interventions in epithelial ovarian cancer. *Scientific Reports*, published online on July 26, 2021. DOI: 10.1038/s41598-021-93718-3

32

33

老化した細胞が炎症を引き起こすしくみを解明
～非翻訳RNAが炎症関連遺伝子のスイッチをオンにする～

Pericentromeric noncoding RNA changes DNA binding of CTCF and inflammatory gene expression in senescence and cancer

主たる研究者《所属》
豊國 伸哉 教授 《生体反応病理学》
※がん研究会との共同研究

論文情報 / Paper information
Kenichi Miyata, Yoshinori Imai, Satoshi Hori, Mika Nishio, Tze Mun Loo, Ryo Okada, Lying Yang, Tomoyoshi Nakadai, Reo Maruyama, Risa Fujii, Koji Ueda, Li Jiang, Hao Zheng, Shinya Toyokuni, Toyonori Sakata, Katsuhiko Shirahige, Ryosuke Kojima, Mizuho Nakayama, Masanobu Oshima, Satoshi Nagayama, Hiroyuki Seimiya, Toru Hirota, Hideyuki Saya, Eiji Hara, and Akiko Takahashi. Pericentromeric noncoding RNA changes DNA binding of CTCF and inflammatory gene expression in senescence and cancer. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*; *PNAS*, published online on August 24, 2021. DOI: 10.1073/pnas.2025647118

髄膜腫の新たな実験モデルを世界で初めて樹立！
～患者腫瘍由来のオルガノイドモデルを用いた病態解析により新たな治療法の確立へ～

Newly Established Experimental Model for Meningioma Research
: Patient-derived meningioma organoid model for unraveling tumor biology leads to new therapeutic strategies

主たる研究者《所属》
山崎 慎太郎 大学院生、 大岡 史治 講師、
夏目 敦至 准教授 《脳神経外科学》

論文情報 / Paper information
Shintaro Yamazaki, Fumiharu Ohka, Masaki Hirano, Yukihiro Shiraki, Kazuya Motomura, Kuniaki Tanahashi, Takashi Tsujiuchi, Ayako Motomura, Kosuke Aoki, Keiko Shinjo, Yoshiteru Murofushi, Yotaro Kitano, Sachi Maeda, Akira Kato, Hiroyuki Shimizu, Junya Yamaguchi, Alimu Adilijiang, Toshihiko Wakabayashi, Ryuta Saito, Atsushi Enomoto, Yutaka Kondo, and Atsushi Natsume. Newly Established Patient-derived Organoid Model of Intracranial Meningioma. *Neuro-Oncology*, published online on July 2, 2021. DOI: 10.1093/neuonc/noab155

34

卵巣癌細胞が腹腔内転移巣で増殖する新たなメカニズムを解明
～癌細胞が誘発する脂肪細胞の脱分化プロセスと癌進展への関与～

A new mechanism of ovarian cancer cells proliferation in peritoneal metastases lesion: Cancer cell-induced adipocyte dedifferentiation process and its involvement in cancer progression

主たる研究者《所属》
伊吉 祥平 大学院生、 吉原 雅人 特任助教、
梶山 広明 教授 《産婦人科学》

論文情報 / Paper information
Shohei Iyoshi, Masato Yoshihara, Kae Nakamura, Mai Sugiyama, Yoshihiro Koya, Kazuhisa Kitami, Kaname Uno, Kazumasa Mogi, Sho Tano, Hiroyuki Tomita, Keiji Kajiyama, Masayasu Taki, Shigehiro Yamaguchi, Akihiro Nawa, and Hiroaki Kajiyama. Pro-tumoral behavior of omental adipocyte-derived fibroblasts in tumor microenvironment at the metastatic site of ovarian cancer. *International Journal of Cancer*, published online on September 16, 2021. DOI: 10.1002/ijc.33770

35

肺腺がんにおいて高悪性化をきたすメカニズムを解明
～予後不良なサブタイプに対する新規治療法開発に期待～

SRGN fosters aggressive and immunosuppressive phenotype in TTF-1-negative lung adenocarcinomas

主たる研究者《所属》
田口 歩 分野長 《先端がん診断学 (医学系研究科連携講座)》、
田中 一大 病院助教 《附属病院呼吸器内科》、
長谷川 好規 名誉教授 《呼吸器内科学》、
芳川 豊史 教授 《呼吸器外科学》
※愛知県がんセンター、MD アンダーソンがんセンターとの国際共同研究

論文情報 / Paper information
Ichidai Tanaka, Delphine Dayde, Mei Chee Tai, Haruki Mori, Luisa M. Solis, Satyendra C. Tripathi, Johannes F. Fahrman, Nese Unver, Gargy Parhy, Rekha Jain, Edwin R. Parra, Yoshiko Murakami, Clemente Aguilar-Bonavides, Barbara Mino, Muge Celiktas, Dilsher Dhillon, Julian Phillip Casabar, Masahiro Nakatochi, Francesco Stingo, Veera Baladandayuthapani, Hong Wang, Hiroyuki Katayama, Jennifer B. Dennison, Philip L. Lorenzi, Kim-Anh Do, Junya Fujimoto, Carmen Behrens, Edwin J. Ostrin, Jaime Rodriguez-Canales, Tetsunari Hase, Takayuki Fukui, Taisuke Kajino, Seiichi Kato, Yasushi Yatabe, Waki Hosoda, Koji Kawaguchi, Kohei Yokoi, Toyofumi F. Chen-Yoshikawa, Yoshinori Hasegawa, Adi F. Gazdar, Ignacio I. Wistuba, Samir Hanash, Ayumu Taguchi. SRGN-Triggered Aggressive and Immunosuppressive Phenotype in a Subset of TTF-1-Negative Lung Adenocarcinomas. *Journal of the National Cancer Institute*, published online on September 16, 2021. DOI: 10.1093/jnci/djab183

36

37

**シングルセルマルチオミクスデータから有用な知見を抽出する人工知能技術を開発！
～疾患の一細胞レベルでの理解を加速～**
Development of Artificial Intelligence Technology to Extract Useful Knowledge from Single-Cell Multi-Omics Data
～Accelerating the understanding of diseases at the single-cell level～

主たる研究者《所属》
島村 徹平 教授、箕浦 広大 医学生《システム生物学》、
西川 博嘉 教授《分子細胞免疫学》

論文情報 / Paper information
Kodai Minoura, Ko Abe, Nam Hyunha, Hiroyoshi Nishikawa, and
Teppei Shimamura. A mixture-of-experts deep generative model for
integrated analysis of single-cell multiomics data. *Cell Reports
Methods*, published online on September 15, 2021.
DOI: 10.1016/j.crmeth.2021.100071

38

**簡便な心エコー指標による敗血症性ショックの予後予測の有用性
～右心機能障害に伴う心原性ショックが病態を悪化させる～**
Clinical Impact of Visually Assessed Right Ventricular Dysfunction in Patients With Septic Shock

主たる研究者《所属》
春日井 大介 病院助教、後藤 縁 病院講師《附属病院救急科》、
平岩 宏章 病院助教、室原 豊明 教授《循環器内科学》、
松田 直之 教授《救急・集中治療医学》、
松井 茂之 教授《生物統計学》

論文情報 / Paper information
Hiroaki Hiraiwa, Daisuke Kasugai, Masayuki Ozaki, Yukari Goto,
Naruhito Jingushi, Michiko Higashi, Kazuki Nishida, Toru Kondo,
Kenji Furusawa, Ryota Morimoto, Takahiro Okumura, Naoyuki
Matsuda, Shigeyuki Matsui, Toyoaki Murohara. Clinical impact of
visually assessed right ventricular dysfunction in patients with septic
shock. *Scientific Reports*, published online on September 22, 2021.
DOI: 10.1038/s41598-021-98397-8

39

若年性骨髄単球性白血病患者のリスク層別化のためのシンプルで堅牢なメチル化検査法を開発
A simple and robust methylation test for risk stratification of patients with juvenile myelomonocytic leukemia

主たる研究者《所属》
高橋 義行 教授、村松 秀城 講師《小児科学》

論文情報 / Paper information
Hironobu Kitazawa, Yusuke Okuno, Hideki Muramatsu, Kosuke Aoki,
Norihito Murakami, Manabu Wakamatsu, Kyogo Suzuki, Kotaro
Narita, Shinsuke Kataoka, Daisuke Ichikawa, Motoharu Hamada,
Rieko Taniguchi, Nozomu Kawashima, Eri Nishikawa, Atsushi Narita,
Nobuhiro Nishio, Asahito Hama, Mignon L. Loh, Elliot Stieglitz, Seiji
Kojima, and Yoshiyuki Takahashi. A simple and robust methylation
test for risk stratification of patients with juvenile myelomonocytic
leukemia. *Blood Advances*, published on September 27, 2021.
DOI: 10.1182/bloodadvances.2021005080

40

**名古屋大学発ベンチャー、高感度で半定量の新型コロナウイルス抗体検査キットを開発！
～家庭で簡便に測定可能～**
A Venture Company Launched by Nagoya University Develops a Highly Sensitive, Semi-quantitative
COVID-19 Antibody Test Kit! - An easy and convenient at-home test. ～

主たる研究者《所属》
柴田 玲 特任教授《先進循環器治療学講座》、
山本 徳則 特任教授《間葉系幹細胞治療プロジェクト教室》
※名古屋大学発ベンチャー株式会社 U's science との共同
研究

論文情報 / Paper information
(なし)

41

Reelinの前頭前皮質内微量投与はMK-801誘発性認知記憶障害を改善する
Microinjection of Reelin into the mPFC prevents MK-801-induced recognition memory impairment in mice

主たる研究者《所属》
澤幡 雅仁 元特任助教、永井 拓 元准教授、
山田 清文 教授《医療薬学》

論文情報 / Paper information
Masahito Sawahata, Hiroki Asano, Taku Nagai, Norimichi Ito,
Takao Kohno, Toshitaka Nabeshima, Mitsuharu Hattori, Kiyofumi
Yamada. Microinjection of Reelin into the mPFC prevents MK-
801-induced recognition memory impairment in mice.
Pharmacological research, published online on August 24, 2021.
DOI: 10.1016/j.phrs.2021.105832

42

転写ネットワーク発展の礎となったゲノム進化を同定
Splicing regulation of large exons secures phase-separation of transcription factors in vertebrates

主たる研究者《所属》
河地 利彦 医学部生、増田 章男 准教授《神経遺伝情報学》

論文情報 / Paper information
Toshihiko Kawachi, Akio Masuda, Yoshihiro Yamashita, Jun-ichi
Takeda, Bisei Ohkawara, Mikako Ito, Kinji Ohno. Regulated
splicing of large exons is linked to phase separation of vertebrate
transcription factors. *The EMBO Journal*, published online on
October 4, 2021.
DOI: 10.15252/emj.2020107485

43

難治性腫瘍のデスマイドにおいて、腹壁発生に対してはR1手術で良好な成績が得られる
Less-invasive, R1 surgery gives good results for abdominal wall desmoid

主たる研究者《所属》
西田 佳弘 病院教授《附属病院リハビリテーション科》、
酒井 智久 助教《附属病院整形外科》

論文情報 / Paper information
Yoshihiro Nishida, Shunsuke Hamada, Tomohisa Sakai, Kan Ito,
Kunihiro Ikuta, Hiroshi Urakawa, Hiroshi Koike, Shiro Imagama.
Less-invasive fascia-preserving surgery for abdominal wall
desmoid. *Scientific Reports*, published online on September 29,
2021.
DOI: 10.1038/s41598-021-98775-2

44

日本初の新生児マススクリーニング検査が重症複合免疫不全症の赤ちゃんの早期診断と治療に貢献
Usefulness of Newborn Screening Program for Severe Combined Immunodeficiency for an Early
Identification and Treatment

主たる研究者《所属》
高橋 義行 教授、村松 秀城 講師、若松 学 大学院生《小児科学》

論文情報 / Paper information
(なし)

45

胆管癌の発生を抑制するタンパク質を発見～胆管癌治療への応用に期待～
The novel tumor suppressor to inhibit cholangiocarcinogenesis.

主たる研究者《所属》
江畑 智希 教授、山口 淳平 病院講師、
長谷部 圭史 大学院生《腫瘍外科学》

論文情報 / Paper information
Keiji Hasebe, Junpei Yamaguchi, Toshio Kokuryo, Yukihiko
Yokoyama, Yosuke Ochiai, Masato Nagino, Tomoki Ebata.
Trefoil factor family 2 inhibits cholangiocarcinogenesis by
regulating the PTEN pathway in mice. *Carcinogenesis*, published
online on October 13, 2021.
DOI: 10.1093/carcin/bgab093

46

**光とがん免疫で相乗効果を発揮して癌を治療
～免疫チェックポイントを標的とした腫瘍微小環境の改変とがん免疫を応用した近赤外線免疫療法の開発～**
Spatiotemporal depletion of tumor-associated immune checkpoint PD-L1 with near-infrared
photoimmunotherapy promotes antitumor immunity

主たる研究者《所属》
滝 俊一 元大学院生《呼吸器内科学》、
佐藤 和秀 S-YLC 特任助教《高等研究院》

論文情報 / Paper information
Shunichi Taki, Kohei Matsuoka, Yuko Nishinaga, Kazuomi
Takahashi, Hirotohi Yasui, Chiaki Koike, Misae Shimizu, Mitsuo
Sato, Kazuhide Sato. Spatiotemporal depletion of tumor-associated
immune checkpoint PD-L1 with near-infrared photoimmunotherapy
promotes antitumor immunity. *Journal for ImmunoTherapy of
Cancer*, published online on November 1, 2021.
DOI: 10.1136/jitc-2021-003036

47

27種類の悪性腫瘍を同時に診断・鑑別可能なDNAメチル化パネルの作成に成功
DNA methylation panel that can diagnose and distinguish 27 types of malignant tumors at the same time was successfully generated

主たる研究者《所属》
清水 大 助教、小寺 泰弘 教授《消化器外科学》、
松井 佑介 准教授《総合保健学》
※東京大学、九州大学との共同研究

論文情報 / Paper information
Dai Shimizu, Kenzui Taniue, Yusuke Matsui, Hiroshi Haeno, Hiromitsu Araki, Fumihito Miura, Mitsuko Fukunaga, Kenji Shiraishi, Yuji Miyamoto, Seiichi Tsukamoto, Aya Komine, Yuta Kobayashi, Akihiro Kitagawa, Yukihiko Yoshikawa, Kuniaki Sato, Tomoko Saito, Shuhei Ito, Takaaki Masuda, Atsushi Niida, Makoto Suzuki, Hideo Baba, Takashi Ito, Nobuyoshi Akimitsu, Yasuhiro Kodera, Koshi Mimori. Pan-cancer Methylation Analysis for Cancer Diagnosis and Classification of Cancer Cell of Origin. *Cancer Gene Therapy*, published online on November 8, 2021.
DOI: 10.1038/s41417-021-00401-w

48

術前化学療法を受ける食道癌患者におけるシンバイオティクス摂取の有効性を確認
～シンバイオティクス摂取によるバクテリアルトランスロケーションおよび重度胃腸障害の抑制～
Impact of synbiotics treatment on bacteremia induced during neoadjuvant chemotherapy for esophageal cancer: A randomised controlled trial

主たる研究者《所属》
横山 幸浩 特任教授《外科周術期管理学(ヤクルト) 寄附講座》
※株式会社ヤクルト本社との共同研究

論文情報 / Paper information
Masahide Fukaya, Yukihiko Yokoyama, Hiroaki Usu, Hironori Fujieda, Yayoi Sakatoku, Takamasa Takahashi, Kazushi Miyata, Mai Niikura, Takuya Sugimoto, Takashi Asahara, Masato Nagino, Tomoki Ebata. Impact of synbiotics treatment on bacteremia induced during neoadjuvant chemotherapy for esophageal cancer. *Clinical Nutrition*, published on October 12, 2021.
DOI: 10.1016/j.clnu.2021.10.004

49

高侵襲手術の術後経過の実態を可視化 ～より安全な術後管理法の確立に期待～
Early prediction of serious postoperative course in perihilar cholangiocarcinoma: trajectory analysis of the comprehensive complication index

主たる研究者《所属》
江畑 智希 教授、川勝 章司 大学院生《腫瘍外科学》

論文情報 / Paper information
Shoji Kawakatsu, Junpei Yamaguchi, Takashi Mizuno, Nobuyuki Watanabe, Shunsuke Onoe, Tsuyoshi Igami, Yukihiko Yokoyama, Kay Uehara, Masato Nagino, Keitaro Matsuo, Tomoki Ebata. Early prediction of serious postoperative course in perihilar cholangiocarcinoma: trajectory analysis of the comprehensive complication index. *Annals of Surgery*, published online on August 13, 2021.
DOI: 10.1097/SLA.0000000000005162

50

糖尿病・脂肪肝の新たな治療標的を発見！
～乳酸輸送を担う細胞膜蛋白Basiginの喪失による糖新生の抑制及びケトン産生による脂肪肝の抑制～

主たる研究者《所属》
門松 健治 教授《分子生物学》、丸山 彰一 教授、
龍華 章裕 客員研究者《腎臓内科学》

論文情報 / Paper information
Akihiro Ryuge, Tomoki Kosugi, Kayaho Maeda, Ryoichi Banno, Yang Gou, Kei Zaitzu, Takanori Ito, Yuka Sato, Akiyoshi Hirayama, Shoma Tsubota, Takashi Honda, Kazuki Nakajima, Tomoya Ozaki, Kunio Kondoh, Kazuo Takahashi, Noritoshi Kato, Takuji Ishimoto, Tomoyoshi Soga, Takahiko Nakagawa, Teruhiko Koike, Hiroshi Arima, Yukio Yuzawa, Yasuhiko Minokoshi, Shoichi Maruyama, Kenji Kadomatsu. Basigin deficiency prevents anaplerosis and ameliorates insulin resistance and hepatosteatosis. *JCI Insight*, published on October 22, 2021.
DOI: 10.1172/jci.insight.142464

51

フェロトシス依存的細胞外小胞 (FedEVs) によるアスベスト発がん機構の解明
～マクロファージの細胞死に伴って分泌されるFedEVsはフェリチン供与を介し中皮細胞の発がんに寄与する～
Ferroptosis-dependent extracellular vesicles from macrophage contribute to asbestos induced mesothelial carcinogenesis through loading ferritin

主たる研究者《所属》
伊藤 文哉 研究員、梁取 いずみ 助教、
豊國 伸哉 教授《生体反応病理学》、加藤 勝洋 病院助教、
室原 豊明 教授《循環器内科学》

論文情報 / Paper information
Fumiya Ito, Katsuhiko Kato, Izumi Yanatori, Toyoaki Murohara, and Shinya Toyokuni. Ferroptosis-dependent extracellular vesicles from macrophage contribute to asbestos-induced mesothelial carcinogenesis through loading ferritin. *Redox Biology*, published online on October 21, 2021.
DOI: 10.1016/j.redox.2021.102174

52

肺がんの免疫療法に対する新規耐性メカニズムの解明
～がん免疫療法の新たな治療標的の発見～
Activated WNT/β-catenin pathway induces resistance to immunotherapies in cancers harboring high tumor mutation burden

主たる研究者《所属》
西川 博嘉 教授《分子細胞免疫学》
* 国立がん研究センター、大阪大学、九州大学などの
共同研究

論文情報 / Paper information
Yoshiko Takeuchi, Tokiyoshi Tanegashima, Eiichi Sato, Takuma Irie, Atsuo Sai, Kota Itahashi, Shogo Kumagai, Yasuko Tada, Yosuke Togashi, Shohei Koyama, Esra A. Akbay, Takahiro Karasaki, Keisuke Kataoka, Soichiro Funaki, Yasushi Shintani, Izumi Nagatomo, Hiroshi Kida, Genichiro Ishii, Tomohiro Miyoshi, Keiju Aokage, Kazuhiro Kakimi, Seishi Ogawa, Meinoshin Okumura, Masatoshi Eto, Atsushi Kumanogoh, Masahiro Tsuboi and Hiroyoshi Nishikawa. Highly Immunogenic Cancer Cells Require Activation of the WNT Pathway for Immunological Escape. *Science Immunology*, published on November 13, 2021.
DOI: 10.1126/sciimmunol.abc6424

53

腸内細菌Collinsella属がCOVID-19の感染・重症化を予防
Intestinal bacteria, genus Collinsella, may mitigate the infection and exacerbation of COVID-19 by producing ursodeoxycholate

主たる研究者《所属》
平山 正昭 准教授《オミックス医療科学》、
大野 欽司 教授、西脇 寛 助教《神経遺伝情報学》

論文情報 / Paper information
Masaaki Hirayama, Hiroshi Nishiwaki, Tomonari Hamaguchi, Mikako Ito, Jun Ueyama, Tetsuya Maeda, Kenichi Kashihara, Yoshio Tsuboi, and Kinji Ohno. Intestinal Collinsella may mitigate infection and exacerbation of COVID-19 by producing ursodeoxycholate. *PLOS ONE*, published on online November 24, 2021.
DOI: 10.1371/journal.pone.0260451

54

樹状突起におけるシナプス集積の新たな役割
Novel role of synaptic clustering in dendrites

主たる研究者《所属》
山田 玲 助教、久場 博司 教授《細胞生理学》

論文情報 / Paper information
Rei Yamada and Hiroshi Kuba. Dendritic synapse geometry optimizes binaural computation in a sound localization circuit. *Science Advances*, published online November 24, 2021.
DOI: 10.1126/sciadv.abh0024

55

大腸がんのがん細胞周囲の線維芽細胞の起源を解明
～大腸がんのがん細胞を取り囲む細胞を標的とした新規治療法の開発に期待～
The origin and contribution of cancer-associated fibroblasts in colorectal carcinogenesis

主たる研究者《所属》
榎本 篤 教授、高橋 雅英 名誉教授《分子病理学》、
小林 大貴 元研究員《アデレード大学国際連携総合医学専攻》

論文情報 / Paper information
Hiroki Kobayashi, Krystyna A. Gieniec, Tamsin RM. Lannagan, Tongtong Wang, Naoya Asai, Yasuyuki Mizutani, Tadashi Iida, Ryota Ando, Elaine M. Thomas, Akihiro Sakai, Nobumi Suzuki, Mari Ichinose, Josephine A Wright, Laura Vrbanac, Jia Q Ng, Jarrad Goyne, Georgette Radford, Matthew J. Lawrence, Tarik Sammour, Yoku Hayakawa, Sonja Klebe, Alice E. Shin, Samuel Asfaha, Mark L. Bettington, Florian Rieder, Nicholas Arpaia, Tal Danino, Lisa M. Butler, Alastair D. Burt, Simon J. Leedham, Anil K. Rustgi, Siddhartha Mukherjee, Masahide Takahashi, Timothy C. Wang, Atsushi Enomoto, Susan L. Woods, and Daniel L. Worthley. The origin and contribution of cancer-associated fibroblasts in colorectal carcinogenesis. *Gastroenterology*, published online on December 6, 2021.
DOI: 10.1053/j.gastro.2021.11.037

56

血管の周りを覆う細胞ペリサイトの新しい機能を発見
～ミクログリアの恒常性を維持し脳発生をサポート～

The new function of pericytes in the developing brain
- Pericytes facilitate microglial homeostasis and contribute to brain development -

主たる研究者《所属》
服部 祐季 特任助教、宮田 卓樹 教授《細胞生物学》

論文情報 / Paper information
Yuki Hattori, Haruka Itoh, Yoji Tsugawa, Yusuke Nishida, Kaori Kurata, Akiyoshi Uemura, Takaki Miyata. Embryonic pericytes promote microglial homeostasis and their effects on neural progenitors in the developing cerebral cortex. *The Journal of Neuroscience*, published on November 24, 2021.
DOI: 10.1523/JNEUROSCI.1201-21.2021

57

低酸素環境下においてLPLとAQP7とGPD2はグリセロール代謝を促進し虚血時の心機能悪化を抑制する
LPL/AQP7/GPD2 promotes glycerol metabolism under hypoxia and prevents cardiac dysfunction during ischemia

主たる研究者《所属》
石濱 総太 客員研究者、竹藤 幹人 病院講師、
室原 豊明 教授《循環器内科学》

論文情報 / Paper information
Sohta Ishihama, Satoya Yoshida, Tatsuya Yoshida, Yu Mori, Noriyuki Ouchi, Shunsuke Eguchi, Teruhiro Sakaguchi, Takuma Tsuda, Katsuhiro Kato, Yuuki Shimizu, Koji Ohashi, Takahiro Okumura, Yasuko K Bando, Hiroaki Yagyu, Nina Wettschreck, Naoto Kubota, Stefan Offermanns, Takashi Kadowaki, Toyoaki Murohara, Mikito Takefuji. LPL/AQP7/GPD2 promotes glycerol metabolism under hypoxia and prevents cardiac dysfunction during ischemia. *The FASEB Journal*, published online on November 22, 2021.
DOI: 10.1096/fj.202100882R

58

漢方薬（インチンコウトウ）の薬効と腸内細菌の関係を腸内細菌の代謝能およびメタボロームを用いて解明
Predicting Inchinkoto efficacy, in patients with obstructive jaundice associated with malignant tumors, through pharmacomicrobiomics

主たる研究者《所属》
山下 浩正 医員、江畑 智希 教授《腫瘍外科学》、
横山 幸浩 特任教授《外科周術期管理学（ヤクルト）寄附講座》

論文情報 / Paper information
Hiromasa Yamashita, Mitsue Nishiyama, Katsuya Ohbuchi, Hitomi Kanno, Kazuaki Tsuchiya, Junpei Yamaguchi, Takashi Mizuno, Tomoki Ebata, Masato Nagino, Yukihiko Yokoyama. Predicting Inchinkoto efficacy, in patients with obstructive jaundice associated with malignant tumors, through pharmacomicrobiomics. *Pharmacological Research*, published on November 17, 2021.
DOI: 10.1016/j.phrs.2021.105981

59

JAK1遺伝子の機能獲得変異による自己炎症性角化症を発見
Autoinflammatory keratinization disease with hepatitis/autism reveals roles for JAK1 hyperactivity

主たる研究者《所属》
秋山 真志 教授、武市 拓也 講師《皮膚科学》

論文情報 / Paper information
Takuya Takeichi, John Y. W. Lee, Yusuke Okuno, Yuki Miyasaka, Yuya Murase, Takenori Yoshikawa, Kana Tanahashi, Emi Nishida, Tatsuya Okamoto, Komei Ito, Yoshinao Muro, Kazumitsu Sugiura, Tamio Ohno, John A. McGrath and Masashi Akiyama. Autoinflammatory keratinization disease with hepatitis and autism reveals roles for JAK1 kinase hyperactivity in autoinflammation. *Frontiers in Immunology*, published online on January 3, 2022.
DOI: 10.3389/fimmu.2021.737747

60

子どもの入眠時刻はADHD症状と関連し、遺伝的リスクの低い子どもにおいて睡眠の関連が強いことが明らかに
Delayed bedtime is associated with ADHD symptoms especially in children at low genetic risk for ADHD

主たる研究者《所属》
高橋 長秀 准教授《附属病院親と子どもの心療科》
※浜松医科大学子どものこころの発達研究センターとの
共同研究

論文情報 / Paper information
Nagahide Takahashi, Akemi Okumura, Tomoko Nishimura, Taeko Harada, Toshiki Iwabuchi, Md Shafiqur Rahman, Kenji J. Tsuchiya. Exploration of sleep parameters, daytime hyperactivity/inattention and an attention deficit hyperactivity disorder polygenic risk score in children in a birth cohort in Japan. *JAMA Network Open*, published online on January 6, 2022.
DOI: 10.1001/jamanetworkopen.2021.41768

61

血液がん治療薬をがん免疫療法薬として新たに展開
抗CCR4抗体（モガムリズマブ）を用いた新規免疫療法の可能性を示唆
Depletion of central memory CD8⁺T cells might impede the antitumor therapeutic effect of Mogamulizumab

主たる研究者《所属》
西川 博嘉 教授《分子細胞免疫学》
* 国立がん研究センター、大阪大学、愛知医科大学など
との共同研究

論文情報 / Paper information
Yuka Maeda, Hisashi Wada, Daisuke Sugiyama, Takuro Saito, Takumi Irie, Kota Itahashi, Kodai Minoura, Susumu Suzuki, Takashi Kojima, Kazuhiro Kakimi, Jun Nakajima, Takeru Funakoshi, Shinsuke Iida, Mikio Oka, Teppai Shimamura, Toshihiko Doi, Yuichiro Doki, Eiichi Nakayama, Ryuzo Ueda and Hiroyoshi Nishikawa. Depletion of central memory CD8⁺T cells might impede the antitumor therapeutic effect of Mogamulizumab. *Nature Communications*, published on December 14, 2021.
DOI: 10.1038/s41467-021-27574-0

62

16p11.2重複患者に見られる多様な精神症状 ～患者4例のケースシリーズ～
Variable psychiatric manifestations in patients with 16p11.2 duplication: A case series of four patients

主たる研究者《所属》
尾崎 紀夫 教授、久島 周 病院講師、林 優 大学院生《精神医学》

論文情報 / Paper information
Yu Hayashi, Itaru Kushima, Branko Aleksic, Tetsu Senaha, Norio Ozaki. Variable psychiatric manifestations in patients with 16p11.2 duplication: A case series of four patients. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, published online on December 23, 2021.
DOI: 10.1111/pcn.13324

63

凝固波形解析を応用したフィブリノゲンの“質”を評価する新しい臨床検査法を開発
～日常検査で利用可能かつ追加コスト不要の新規スクリーニング検査～
Development and validation of a novel qualitative test for plasma fibrinogen utilizing clot waveform analysis

主たる研究者《所属》
鈴木 敦夫 主任臨床検査技師《附属病院医療技術部》、
鈴木 伸明 講師、松下 正 教授《附属病院輸血部》

論文情報 / Paper information
Atsuo Suzuki, Nobuaki Suzuki, Takeshi Kanematsu, Sho Shinohara, Hiroshi Kurono, Nobuo Arai, Shuichi Okamoto, Naruko Suzuki, Shogo Tamura, Ryosuke Kikuchi, Akira Katsumi, Tetsuhito Kojima, and Tadashi Matsushita. Development and validation of a novel qualitative test for plasma fibrinogen utilizing clot waveform analysis. *Scientific Reports*, published online on January 21, 2022.
DOI: 10.1038/s41598-021-04464-5

64

肺塞栓症発症後慢性期に従来の報告より高頻度で肺動脈残存血栓を指摘：
新たなCTプロトコルを用いたNagoya PE studyの知見
Usefulness of a refined computed tomography imaging method to assess the prevalence of residual pulmonary thrombi in patients 1 year after acute pulmonary embolism: the Nagoya PE study

主たる研究者《所属》
中野 嘉久 客員研究員、足立 史郎 病院助教、
室原 豊明 教授《循環器内科学》、
岩野 信吾 診療教授《附属病院放射線科》

論文情報 / Paper information
Yoshihisa Nakano, Shiro Adachi, Itsumure Nishiyama, Kenichiro Yasuda, Ryo Imai, Masahiro Yoshida, Shingo Iwano, Takahisa Kondo, Toyoaki Murohara. Usefulness of a refined computed tomography imaging method to assess the prevalence of residual pulmonary thrombi in patients 1 year after acute pulmonary embolism: the Nagoya PE study. *Journal of Thrombosis and Haemostasis*, published on January 9, 2022.
DOI: 10.1111/jth.15636

65

慢性心不全の新規治療薬創出に向けて；CRHR2阻害剤RQ-00490721は圧負荷による心不全を改善する
Corticotropin releasing hormone receptor 2 antagonist, RQ-00490721, for the prevention of pressure overload-induced cardiac dysfunction

主たる研究者《所属》
森 悠 大学院生、竹藤 幹人 講師、室原 豊明 教授《循環器内科学》
* ラクオリア創薬株式会社との共同研究

論文情報 / Paper information
Yu Mori, Ayako Tsuchihira, Tatsuya Yoshida, Satoya Yoshida, Akiyoshi Fujiuchi, Masashi Ohmi, Yumi Isogai, Teruhiro Sakaguchi, Shunsuke Eguchi, Takuma Tsuda, Katsuhiro Kato, Koji Ohashi, Noriyuki Ouchi, Hyi-Man Park, Toyoaki Murohara, Mikito Takefuji. Corticotropin releasing hormone receptor 2 antagonist, RQ-00490721, for the prevention of pressure overload-induced cardiac dysfunction. *Biomedicine & Pharmacotherapy*, published online on December 23, 2021.
DOI: 10.1016/j.biopha.2021.112566

66

肝転移病変における免疫チェックポイント阻害薬に対する新規耐性メカニズムの解明
—新規がん免疫療法開発の可能性が期待—
 Lactic acid promotes PD-1 expression in regulatory T cells in highly glycolytic tumor microenvironments

主たる研究者《所属》
 西川 博嘉 教授《分子細胞免疫学》
 ※国立がん研究センターなどとの共同研究

論文情報 / Paper information
 Shogo Kumagai, Shohei Koyama, Kota Itahashi, Tokiyoshi Tanegashima, Yi-tzu Lin, Yosuke Togashi, Takahiro Kamada, Takuma Irie, Genki Okumura, Hidetoshi Kono, Daisuke Ito, Rika Fujii, Sho Watanabe, Atsuo Sai, Shota Fukuoka, Eri Sugiyama, Go Watanabe, Takuya Owari, Hitomi Nishinakamura, Daisuke Sugiyama, Yuka Maeda, Akihito Kawazoe, Hiroki Yukami, Keigo Chida, Yuuki Ohara, Tatsuya Yoshida, Yuki Shinno, Yuki Takeyasu, Masayuki Shirasawa, Kenta Nakama, Keiju Aokage, Jun Suzuki, Genichiro Ishii, Takeshi Kuwata, Naoya Sakamoto, Masahito Kawazu, Toshihide Ueno, Taisuke Mori, Naoya Yamazaki, Masahiro Tsuboi, Yasushi Yatabe, Takahiro Kinoshita, Toshihiko Doi, Kohei Shitara, Hiroyuki Mano and Hiroyoshi Nishikawa. Lactic acid promotes PD-1 expression in regulatory T cells in highly glycolytic tumor microenvironments. *Cancer Cell*, published online on January 27, 2022. DOI: 10.1016/j.ccell.2022.01.001

免疫アレルギー領域の日本、欧米の研究助成インパクトの長期的・社会的特徴が明らかに
～「厚み」指標と自然言語解析を用いたアレルギー領域での世界初の研究結果～
 International funding and evaluation differences impact immunology, allergy research

主たる研究者《所属》
 小川 靖 講師《附属病院先端医療開発部》
 ＊京都府立医科大学、自然科学研究機構、慶応義塾大学などとの共同研究

論文情報 / Paper information
 Takeya Adachi, Yasushi Ogawa, Tamami Fukushi, Kei Ito, Amane Koizumi, Masashi Shirabe, Masako Toriya, Jun Hirako, Takenori Inomata, Katsunori Masaki, Ryohei Sasano, Sakura Sato, Keigo Kainuma, Masaki Futamura, Keiko Kan-o, Yosuke Kurashima, Saeko Nakajima, Masafumi Sakashita, Hideaki Morita, Aikichi Iwamoto, Sankei Nishima, Mayumi Tamari, Hajime Iizuka. Research impact analysis of international funding agencies in the realm of allergy and immunology. *Allergy*, published on February 18, 2021. DOI: 10.1111/all.15249

腸管上皮細胞による新たな感染防御機構を発見
—腸管感染症や炎症性腸疾患の病態解明や治療応用へ期待—
 Discovery of a New Mechanism of Infection Defense by Intestinal Epithelial Cells
 -Hopes for elucidating the pathogenesis of intestinal infections and inflammatory bowel diseases and for therapeutic applications

主たる研究者《所属》
 前田 啓子 病院助教
 川嶋 啓揮 准教授《附属病院光学医療診療部》
 石上 雅敏 准教授《消化器内科学》

論文情報 / Paper information
 Keiko Maeda, Nicholas C. Zachos, Megan H. Orzalli, Stefanie S. Schmieder, Denis Chang, Katlynn Bugda Gwilt, Michele Doucet, Nicholas W. Baetz, Sun Lee, Sue E. Crawford, Mary K. Estes, Jonathan C. Kagan, Jerrold R. Turner, and Wayne I. Lencer. Depletion of the apical endosome in response to viruses and bacterial toxins provides cell-autonomous host defense at mucosal surfaces. *Cell Host & Microbe*, published on February 9, 2022. DOI: 10.1016/j.chom.2021.12.011

脊髄小脳失調症患者の上肢運動失調の定量的評価法の開発
 Quantitative evaluation of upper limb ataxia in spinocerebellar ataxias

主たる研究者《所属》
 勝野 雅央 教授、岸本 祥之 客員研究者《神経内科学》、
 中枅 昌弘 准教授《実社会情報健康医療学》

論文情報 / Paper information
 Yoshiyuki Kishimoto, Atsushi Hashizume, Yuta Imai, Masahiro Nakatochi, Shinichiro Yamada, Daisuke Ito, Ryota Torii, Yoshitaka Nagano, Hideo Fujimoto, and Masahisa Katsuno. Quantitative evaluation of upper limb ataxia in spinocerebellar ataxias. *Annals of Clinical and Translational Neurology*, published on March 16, 2022. DOI: 10.1002/acn3.51528

70

進行膵癌に対する術前化学療法の効果を実証
～臨床試験により安全性と治療効果を確認～
 The feasibility and effectiveness of multidrug neoadjuvant chemotherapy for advanced pancreatic cancer

主たる研究者《所属》
 江畑 智希 教授《腫瘍外科学》、
 山口 淳平 病院講師《附属病院消化器外科》

論文情報 / Paper information
 Junpei Yamaguchi, Yukihiko Yokoyama, Tsutomu Fujii, Suguru Yamada, Hideki Takami, Hiroki Kawashima, Eizaburo Ohno, Takuya Ishikawa, Osamu Maeda, Hiroshi Ogawa, Yasuhiro Kodera, Masato Nagino, and Tomoki Ebata. Results of a phase II study on the use of neoadjuvant chemotherapy (FOLFIRINOX or gemcitabine with nab-paclitaxel) for borderline-resectable pancreatic cancer (NUPAT-01). *Annals of Surgery*, published online on March 9, 2022. DOI: 10.1097/SLA.0000000000005430

子宮平滑筋肉腫の特徴として、細胞周期関連酵素の異常な活性化の同定
—新規治療薬としてPLK1およびCHEK1阻害剤の効果が期待—
 Aberrant activation of cell cycle-related kinases in uterine leiomyosarcoma
 ~the potential therapeutic impact of PLK1 or CHEK1 inhibition~

主たる研究者《所属》
 梶山 広明 教授、吉田 康将 特任助教《産婦人科学》、
 横井 暁 病院助教《附属病院産婦人科》
 ※国立がん研究センターとの共同研究

論文情報 / Paper information
 Kosuke Yoshida, Akira Yokoi, Tomofumi Yamamoto, Yusuke Hayashi, Jun Nakayama, Tsuyoshi Yokoi, Hiroshi Yoshida, Tomoyasu Kato, Hiroaki Kajiyama, Yusuke Yamamoto. Aberrant activation of cell cycle-related kinases and the potential therapeutic impact of PLK1 or CHEK1 inhibition in uterine leiomyosarcoma. *Clinical Cancer Research*, published online on March 18, 2022. DOI: 10.1158/1078-0432.CCR-22-0100

71

心理的インスリン抵抗性を克服するための要因を解明：日本人2型糖尿病患者を対象とした質的研究から
 Three key factors for overcoming psychological insulin resistance: a qualitative study in Japanese people with type 2 diabetes.

主たる研究者《所属》
 岡崎 研太郎 特任准教授、
 高橋 徳幸 特任助教《地域医療教育学寄附講座》

論文情報 / Paper information
 Kentaro Okazaki, Noriyuki Takahashi, Tomotaka Shingaki, Magaly Perez-Nieves, Heather Stuckey. Key factors for overcoming psychological insulin resistance: a qualitative study in Japanese people with type 2 diabetes. *Primary Care Diabetes*, published online on March 4, 2022. DOI: 10.1016/j.pcd.2022.02.009

72

白血病患者由来異種移植マウスモデルによる難治性急性骨髄性白血病クローンの解明
～新たな予後層別化因子、治療標的の同定から治療成績の向上へとつながる期待～
 Comparison of clonal architecture between primary and immunodeficient mouse engrafted acute myeloid leukemia cells

主たる研究者《所属》
 清井 仁 教授、川島 直実 助教《血液・腫瘍内科学》、
 石川 裕一 病院講師《附属病院血液内科》

論文情報 / Paper information
 Naomi Kawashima, Yuichi Ishikawa, Jeong Hui Kim, Yoko Ushijima, Akimi Akashi, Yohei Yamaguchi, Hikaru Hattori, Marie Nakashima, Seara Ikeno, Rika Kihara, Takahiro Nishiyama, Takanobu Morishita, Koichi Watamoto, Yukiyasu Ozawa, Kunio Kitamura, Hitoshi Kiyoi. Comparison of clonal architecture between primary and immunodeficient mouse engrafted acute myeloid leukemia cells. *Nature Communications*, published online on March 25, 2022. DOI: 10.1038/s41467-022-29304-6

73

プラチナの分布パターンより卵巣癌治療のキーポイントであるプラチナ抵抗性を可視化することに成功
—卵巣癌新規治療戦略への布石—
 Significance of platinum distribution to predict platinum resistance in ovarian cancer after platinum treatment in neoadjuvant chemotherapy

主たる研究者《所属》
 宇野 枢 大学院生《ルンド大学国際連携総合医学専攻》、
 芳川 修久 助教、梶山 広明 教授《産婦人科学》

論文情報 / Paper information
 Kaname Uno, Nobuhisa Yoshikawa, Akira Tazaki, Shoko Ohnuma, Kazuhisa Kitami, Shohei Iyoshi, Kazumasa Mogi, Masato Yoshihara, Yoshihiro Koya, Mai Sugiyama, Satoshi Tamauchi, Yoshiaki Ikeda, Akira Yokoi, Fumitaka Kikkawa, Masashi Kato, Hiroaki Kajiyama. Significance of platinum distribution to predict platinum resistance in ovarian cancer after platinum treatment in neoadjuvant chemotherapy. *Scientific Reports*, published online on March 16, 2022. DOI: 10.1038/s41598-022-08503-7

74

鶴舞公開講座

Extension courses at Tsurumai Campus

医学部医学科では、2005（平成17）年度から市民向け公開講座として、社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマに、鶴舞公開講座を附属病院との共催で年一回開催している。

20代から80代までの幅広い年齢層の市民に参加いただいており、開催を重ねるごとにリピーターとして参加する方も増えてきている。

毎回、熱心に聴講するだけでなく活発な質疑応答が行われるなど、市民の方々の関心が高いことが窺われる。

鶴舞公開講座は、医学部医学科・附属病院と市民との貴重な交流の場となっており、地域連携、社会貢献の機会として重要な役割を果たしている。

Since 2005, the School of Medicine and the University Hospital have co-hosted Extension Courses at Tsurumai Campus annually as open seminars for the public. These focus on topics of modern interest and that are useful for everyday life. The seminars are attended by a wide range of people from those in their 20's to 80's, and the number of repeat attendees is steadily increasing. Every seminar attracts an eager audience who are keen to ask questions, reflecting people's strong interest in these courses. The Extension Courses at Tsurumai Campus provide a valuable forum for social exchange among the School of Medicine, the University Hospital, and the general public. Thus, we are playing an important role in connecting with the local community and contributing to society.

鶴舞公開講座の歩み | History of extension courses at Tsurumai Campus

年度 Fiscal year	講座名 Seminar	開催日 Date	参加者数 Number of participants
平成26年度 2014	いつまでも頭スッキリ! 暮らすためには To Keep a Clear Head! For All Time	12月6日 December 6	約220名 About 220
平成27年度 2015	「家族のきずなで健やかに生きる」～子・親・祖父母で考える家庭内の医療～ "Healthy Life Based on Family Ties" -Medical care within families to be considered by children, parents, and grandparents-	11月14日 November 14	約100名 About 100
平成28年度 2016	“がん”最新スタンダード～予防・治療・暮らしの観点から～ New Standards for Cancer -From the Perspectives of Prevention, Treatment and Livelihood-	11月19日 November 19	約140名 About 140
平成29年度 2017	老いは怖くない!～薬に頼らない健康づくり～ Don't fear aging! Leading a healthy, pill-free lifestyle	11月18日 November 18	約180名 About 180
平成30年度 2018	ここまで身近になった! 移植医療の最新事情 No longer a distant concept! Recent trends in Transplantation Medicine	12月8日 December 8	約150名 About 150

令和元年度の公開講座 | Extension courses held during Fiscal Year 2019

自分の力で元気に過ごす
～健康管理と医療サポートの活用～
Taking control of your own health—
utilizing healthcare and medical support

健康管理と医療サポートの活用についてをテーマとし、4人の講師が講演を行った。

Four lecturers presented talks on the theme of utilizing healthcare and medical support

「健康長寿のための上手な食事の食べ方」田中文彦栄養管理部副部長 / 「睡眠から考える健康習慣」岩本邦弘講師 / 「医者まかせにいませんか?—賢い患者になるために必要な知識—」鈴木裕介病院准教授 / 「薬剤師が伝えたい薬との上手な付き合い方」宮崎雅之副薬剤師

“How to eat good meals for healthy longevity” Deputy Director of Clinical Nutrition TANAKA Fumihiko / “Healthy habits from a view point of sleep medicine” Lecturer IWAMOTO Kunihiko / “Leaving too much to doctors? —Tips to become a smart patient for your own health—” Clinical Associate Professor SUZUKI Yusuke / “Good way of taking with medicines pharmacists want to teach” Deputy Director of Pharmacy MIYAZAKI Masayuki

※職名は講演時のもの
Occupational titles current at time of lecture

開催日 2019年12月7日
参加者数 約220名
Date December 7, 2019
Number of participants about 220

令和2年度の公開講座 | Extension courses held during Fiscal Year 2020

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を受け、次年度へ実施を延期した。

Due to the spread of COVID-19, The extension course was postponed to the next fiscal year.

令和3年度の公開講座 | Extension courses held during Fiscal Year 2021

創基150周年を迎えた
名古屋大学医学部と次世代がん治療
Future Generation Cancer Therapy : The next step from the 150th Anniversary of its Founding at Nagoya University School of Medicine

【キーノートスピーチ】
「名古屋発信の基礎研究に基づく新たながん治療の展開」西川博嘉 教授
「名古屋大学がリードする血液がん治療」清井仁 教授
「名古屋から世界へ—私たちの健康・生命をまもるためのイノベーション創出のための名古屋大学とBMSのパートナーシップ」後藤太郎 医師・医学博士 / プリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社 執行役員 血液事業部門長

“Development of new cancer therapy based on basic research in Nagoya” Professor NISHIKAWA Hiroyoshi
“Treatment of hematological malignancies led by Nagoya University” Professor KIYOI Hitoshi
“From Nagoya to the World: A Partnership between Nagoya University and BMS to Create Innovation for Protecting Our Health and Life” Taro Goto, M.D., Ph.D./Executive Officer, Vice President, Business Unit Director Hematology Japan, Bristol Myers Squibb

【座談会】
「医療者、産業界、患者による座談会 -これからのがん治療における名古屋大学のビジョン」後藤太郎 医師・医学博士、花井美紀 NPO法人ミーネット 理事長、門松健治 研究科長、清井仁 教授、西川博嘉 教授、松下正 教授

“Roundtable discussion by medical professionals, industry and patients - Nagoya University's vision for the future of cancer treatment” Taro Goto, M.D., Ph.D, HANAI Miki, Chairwoman of NPO Me-net, Dean KADOMATSU Kenji, Professor NISHIKAWA Hiroyoshi, Professor KIYOI Hitoshi, Professor MATSUSHITA Tadashi

※職名は講演時のもの
Occupational titles current at time of lecture

開催日 2021年12月11日
参加者数 約140名
Date December 11, 2021
Number of participants about 140

施設とアクセス

Facilities and Access

鶴舞キャンパスは、名古屋市昭和区の緑豊かな鶴舞公園に隣接する場所に、大幸キャンパスは、ナゴヤドームにほど近い名古屋市東区にある。両キャンパスとも近くにJRと地下鉄が乗り入れるなど、アクセスも良い。

Tsurumai Campus is located next to leafy Tsuruma Park in the Showa Ward of Nagoya City, whereas Daiko Campus is located near the Nagoya Dome in the Higashi Ward of the same city.

Both campuses are easily accessible, with JR and subway stations nearby.

鶴舞キャンパス配置図
Site map in Tsurumai Campus 70

大学院医学研究科・医学部 建物各階案内図
Floor guide for Graduate School of Medicine / School of Medicine 71

大幸キャンパス配置図
Site map in Daiko Campus 72

アクセス
Access 73

鶴舞キャンパス配置図

Site map in Tsurumai Campus

面積 : 88,151㎡
Area

位置 : 名古屋市昭和区鶴舞町65番地
Location 65 Tsurumai-cho, Showa-ku, Nagoya city

建物 : 建面積 : 35,441㎡
Building building area

延面積 : 217,751㎡
gross floor area



医学部附属病院施設 University Hospital

名称 Name	構造・階 Structure	建面積 Building area (㎡)	延面積 Gross floor area (㎡)
1 外来棟	Outpatient Building	RC4	5,252 / 19,446
2 中央診療棟A	Central Consultation Building A	SRC7-2	5,881 / 43,582
3 中央診療棟B	Central Consultation Building B	SRC7-1	2,581 / 18,301
4 病棟	Ward Building	S14-2	4,830 / 42,190
5 看護師宿舎A棟	Residence for Nurses A	SRC10	675 / 6,763
6 看護師宿舎B棟	Residence for Nurses B	RC6	563 / 2,741
7 オアシスクープ (福祉施設)	Oasis Cube (Welfare facility)	S1	604 / 595

大学院医学系研究科・医学部施設 Graduate School of Medicine/School of Medicine

名称 Name	構造・階 Structure	建面積 Building area (㎡)	延面積 Gross floor area (㎡)
A 医系研究棟1号館	Medical Science Research Building 1	S13-2	1,307 / 19,072
B 医系研究棟2号館	Medical Science Research Building 2	RC7	1,525 / 10,300
C 医系研究棟3号館	Medical Science Research Building 3	SRC10-1	1,474 / 13,088
D 基礎研究棟 (講義棟)	Basic Medical Research Building	RC4-1	1,651 / 6,479
E 基礎研究棟別館	Basic Medical Research Building Annex	RC5	648 / 3,158
F 附属医学教育研究支援センター (実験動物部門)	Center for Research of Laboratory Animals and Medical Research Engineering (Division for Research of Laboratory Animals)	RC7-1	1,424 / 8,807
G 附属図書館・医学部史料館・学生食堂	Medical Library / Medical Museum / Co-op Cafeteria	RC4-1	656 / 2,791
H 福祉施設	Welfare Facility	RC3	245 / 760
I 鶴友会館	Kakuyu Kaikan (Alumni Hall)	RC3	525 / 1,307
その他	Others		5,600 / 18,371

(※) ドナルド・マクドナルド・ハウス などや RMH Nagoya

大学院医学系研究科・医学部 建物各階案内図

Floor guide for Graduate School of Medicine / School of Medicine

(令和4年4月1日現在)
(as of April 1, 2022)

13F	皮膚科/形成外科/小児外科 Dermatology, Plastic and Reconstructive Surgery, Pediatric Surgery		
12F	整形外科/リウマチ科/ 耳鼻いんこう科 Orthopedic Surgery, Rheumatology, Otorhinolaryngology		
11F	眼科/歯科口腔外科 Ophthalmology, Oral and Maxillofacial Surgery		
10F	精神医学・親と子どもの心療学/ 脳神経外科 Psychiatry・Child and Adolescent Psychiatry, Neurosurgery	先端医療開発部 Department of Advanced Medicine	
9F	消化器内科/腎臓内科/ 神経内科 Gastroenterology and Hepatology, Nephrology, Neurology	地域医療教育学(寄)/先進循環器治療学(寄)/ 精神医学(寄)/糖鎖生命コア研究所/ 呼吸器内科/個別化医療技術開発講座/癌免疫治療 Education for Community-Oriented Medicine(*), Advanced Cardiovascular Therapeutics(*), Clinical Psychiatry(*), Institute for Glyco-cor Research, Respiriology, Personalized Medical Technology, Cancer Immune Terapy Restarch Center	
8F	放射線科/臨床感染統御学/ 化学療法部 Radiology, Infectious Diseases, Department of Clinical Oncology and Chemotherapy	障害児(者)医療学(寄)/精神科/腎臓内科/ 腎不全システム治療学(寄)/神経内科/呼吸器内科/消化器内科/ 周術期管理システム構築学(寄) Developmental Disability Medicine(*), Psychiatry, Nephrology, Renal Replacement Therapy(*), Neurology, Respiriology, Gastroenterology and Hepatology, Perioperative Management System(*)	
7F	血液内科/循環器内科/ 臓器病態診断学 Hematology, Cardiology, Pathology and Laboratory Medicine	国際保健医療学・公衆衛生学/ 環境労働衛生学/医療行政学(YLP)/ 呼吸器外科学 Public Health and Health Systems, Occupational and Environmental Health, Healthcare Administration(YLP), Thoracic Surgery	分子細胞学/生物統計学/産婦人科/分子細胞免疫学/ 神経遺伝情報学/化学療法部(がんプロ)/心臓外科/ 糖尿病・内分泌内科/法医・生命倫理学 Molecular Cell Biology, Biostatistics, Obstetrics and Gynecology, Immunology, Neurogenetics, Department of Clinical Oncology and Chemotherapy (Training Program of Oncology Specialist), Cardiac Surgery, Endocrinology and Diabetes, Legal Medicine and Bioethics
6F	呼吸器内科/糖尿病・内分泌内科/ 老年内科/未来社会創造機構(COI) Respirology, Endocrinology and Diabetes, Geriatrics, Institute of Innovation for Future Society	予防医学/細胞生理学/ 細胞生物物理学 Preventive Medicine, Cell Physiology, Cell Biophysics	ライブラリ/総合周産期母子医療センター/名古屋大学メナード協同研究/ ペリネータセンター産婦人科産学協同研究/健康栄養医学/ 神経内科 Library, Center for Maternal-Neonatal Care, Nagoya University-MENARD Collaborative Research, Laboratory of Bell Research Center-Department of Obstetrics and Gynecology Collaborative Research, Human Nutrition, Neurology
5F	産科婦人科/小児科 Obstetrics and Gynecology, Pediatrics	分子細胞免疫学/腫瘍生物学/ 5D細胞ダイナミクス研究センター Immunology, Cancer Biology, Center for Cell Dynamics	神経疾患・腫瘍分子医学研究センター/医学教育研究支援センター(分析機器部門)/ 知財・技術移転グループ(鶴舞サテライト)/ウェルビーイング推進室/ 医工連携推進室/糖鎖生命コア研究所/分子細胞免疫学 Center for Neurological Diseases and Cancer, Division for Medical Research Engineering, Intellectual Property and Technology Transfer Group, Women Leaders Program to Promote Well-being in Asia, Promotion Office for Medical Engineering Technologies, Institute for Glyco-cor Research, Immunology
4F	泌尿器科/麻酔科 Urology, Anesthesiology	神経情報薬理学/分子病原細菌学/ 神経遺伝情報学 Neuroscience, Bacteriology, Neurogenetics	医学教育研究支援センター(分析機器部門) Division for Medical Research Engineering
3F	消化器外科一/血管外科/ 心臓外科/外科周術期管理学(寄) Gastroenterological Surgery 1, Vascular Surgery, Cardiac Surgery, Perioperative Medicine(*)	分子生物学/分子細胞化学/ ウイルス学 Molecular Biology, Molecular and Cellular Biology, Virology	組織・病理実習室/解剖教育施設 Histology・Pathology Lab, Dissection Educational Facility
2F	消化器外科二/移植外科/ 乳腺・内分泌外科/救急・集中治療医学 Gastroenterological Surgery 2, Transplantation Surgery, Breast and Endocrine Surgery, Emergency and Critical Care Medicine	生体反応病理学/腫瘍病理学/ 分子細胞学 Pathology and Biological Responses, Tumor Pathology, Molecular Cell Biology	解剖教育施設 Dissection Educational Facility
1F	総合診療科/薬剤部/ コンビニエンスストア General Medicine, Department of Hospital Pharmacy, Convenience store	機能組織学/細胞生物学/ 法医・生命倫理学 Functional Anatomy and Neuroscience, Cell Biology, Legal Medicine and Bioethics	アイソトープ総合センター分館 Radioisotope Research Center Medical Division
B1F	会議室/手の外科 Meeting Room, Hand Surgery		アイソトープ総合センター分館/設備室 Radioisotope Research Center Medical Division, Facilities
	医系研究棟1号館 Medical Science Research Building 1	医系研究棟2号館 Medical Science Research Building 2	医系研究棟3号館 Medical Science Research Building 3
			基礎研究棟 (講義棟) Basic Medical Research Building

* (寄) は寄附講座を示す
* Laboratories marked with an asterisk (*) represent endowed chairs

大幸キャンパス配置図

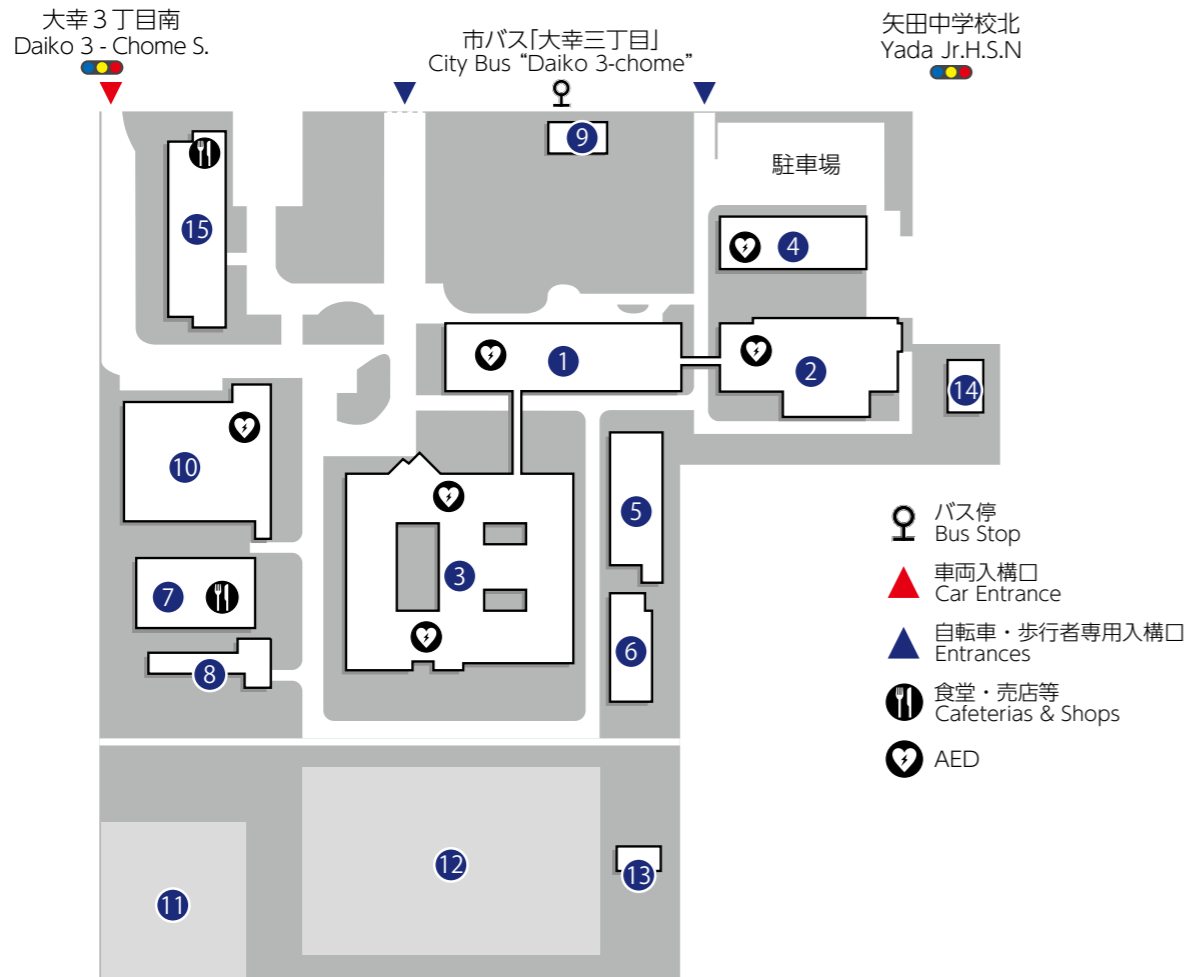
Site map in Daiko Campus

面積 : 48,463㎡
Area

位置 : 名古屋市東区大幸南1丁目1番20号
Location 1-1-20, Daiko-minami, Higashi-ku, Nagoya city

建物 : 建面積 : 11,240㎡
Building building area

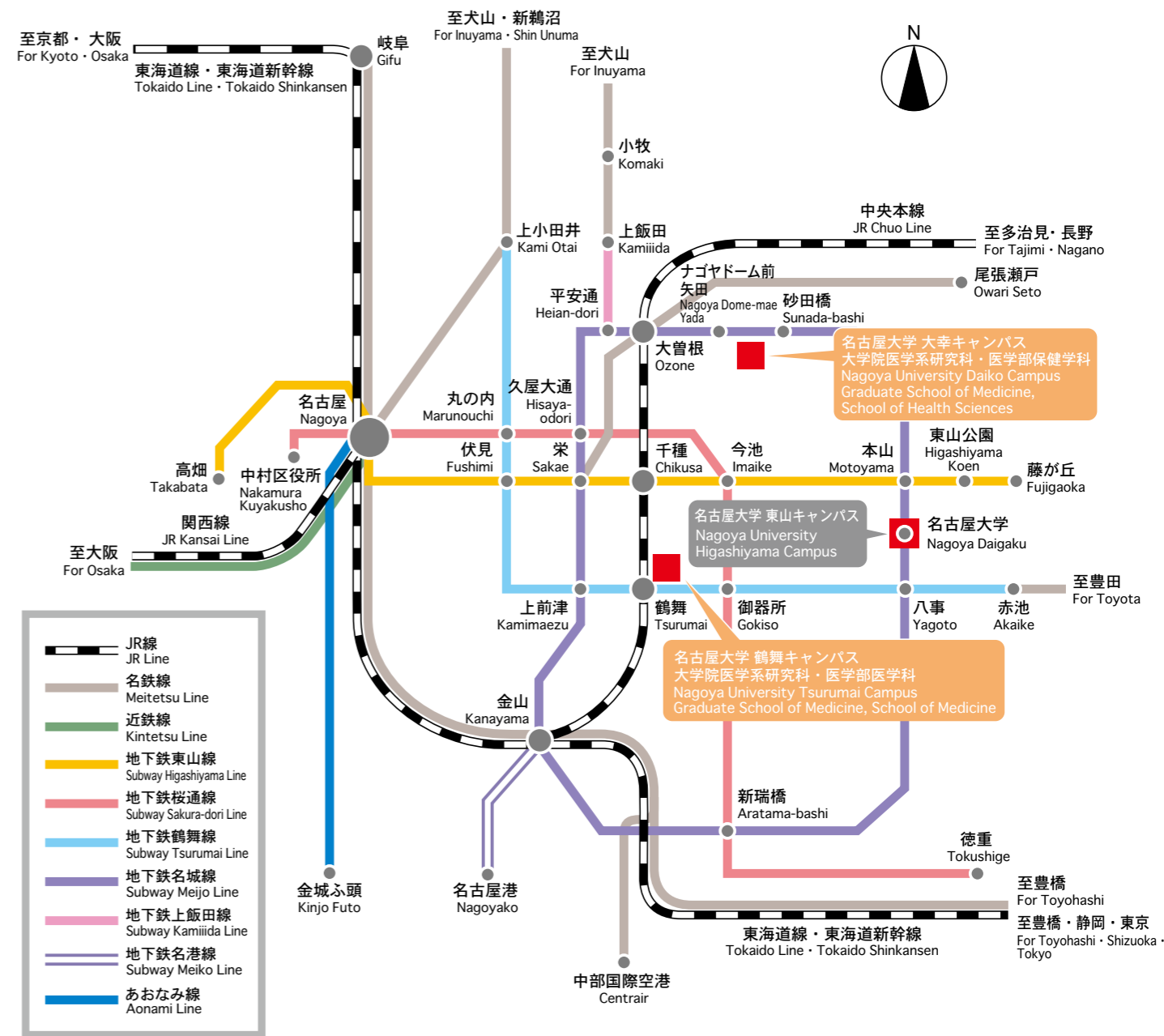
延面積 : 34,239㎡
gross floor area



名称	Name	構造・階 Structure	建面積 Building area (㎡)	延面積 Gross floor area (㎡)	
1	医学部保健学科本館	School of Health Sciences (Main Building)	RC5	1,414	5,835
2	医学部保健学科東館	School of Health Sciences (East Building)	RC4	843	3,331
3	医学部保健学科南館	School of Health Sciences (South Building)	RC4	3,021	8,067
4	医学部保健学科別館	Annex to School of Health Sciences	RC4	579	2,431
5	エネルギーセンター	Energy Center	RC2	606	894
6	研究棟	Research Building	RC1	353	353
7	厚生会館	Student Hall	RC2	678	1,338
8	リサーチーズビレッジ大幸	Researchers Village Daiko	RC3	280	720
9	業務支援室・車庫	Work Support Office・Garage	CB1	142	142
10	体育館	Gymnasium	SRC1	1,369	1,369
11	硬式庭球場	Tennis Courts		-	-
12	運動場	Ground		-	-
13	弓道場	Kyudo (Japanese Archery) Hall		88	88
14	大幸ガラス温室	Daiko Glass Greenhouse	S1	50	50
15	インターナショナルレジデンス大幸	Inter national residence Daiko	RC8	720	5,760
	その他	Others		1,097	3,861

アクセス

Access



鶴舞キャンパス To Tsurumai Campus

交通 Access

- JR中央本線「鶴舞駅(名大病院側)」下車徒歩3分
3-minute walk from JR Chuo Line "Tsurumai Station (Nagoya University Hospital exit side)".
- 地下鉄(鶴舞線)「鶴舞駅」下車徒歩8分
8-minute walk from Subway (Tsurumai Line) "Tsurumai Station".
- 市バス「栄」から栄⑩系統「妙見町」行きで「名大病院」下車
Take the Sakae route No.18 city bus headed for "Myokencho" from "Sakae Bus Terminal" and get off at "Meidai Byoin (Nagoya University Hospital)".

東山キャンパス To Higashiyama Campus

交通 Access

- 地下鉄(名城線)「名古屋大学駅」下車
Take the Subway Meijo Line to "Nagoya Daigaku Station".
- 市バス「栄」から栄⑩・⑪系統「名古屋大学」行きで「名古屋大学」下車。
Take the City Bus from "Sakae Terminal" to "Nagoya Daigaku" bus stop via Sakae Route No.16/17 bound for "Nagoya Daigaku".

大幸キャンパス To Daiko Campus

交通 Access

- JR中央本線「大曾根駅(北口)」下車徒歩15分
15-minute walk from JR Chuo Line "Ozone Station (north exit)".
- 地下鉄(名城線)「ナゴヤドーム前矢田駅」下車徒歩10分または、「砂田橋駅」下車徒歩7分
10-minute walk from Subway (Meijo Line) "Nagoya Dome-mae Yada Station" or 7-minute walk from "Sunada-bashi Station".
- 市バス「名古屋駅」から大幸⑨系統「茶屋ヶ坂」行きで「大幸三丁目」下車
Take the Meieki route No.15 city bus headed for "Chayagasaka" from "Nagoya Station" "Ozone Bus Terminal" and get off at "Daiko 3-chome".



発行年月/2022年8月
企画編集/名古屋大学医学部・医学系研究科 総務課

(ホームページ)